

ベトナム国
ビズップ・ヌイバ国立公園管理
能力強化プロジェクト
終了時評価報告書

平成 26 年 5 月
(2014 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
J R
14-140

ベトナム国
ビズップ・ヌイバ国立公園管理
能力強化プロジェクト
終了時評価報告書

平成 26 年 5 月
(2014 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

目 次

目 次

地図（プロジェクト位置図）

写真

略語表

概要表

第1章 評価の概要	1
1-1 背景	1
1-2 プロジェクトの概要	1
1-3 合同終了時評価の目的	2
1-4 評価団員	3
1-4-1 日本側	3
1-4-2 ベトナム側	3
1-5 評価手法とスケジュール	3
第2章 プロジェクトの実績	5
2-1 投入の実績	5
2-2 活動の実績	6
2-3 成果の実績	6
2-3-1 成果1の実績	6
2-3-2 成果2の実績	8
2-3-3 成果3の実績	9
2-3-4 成果4の実績	10
2-3-5 成果5の実績	11
2-4 プロジェクト目標の実績	12
2-5 上位目標の実績	13
2-6 事業対象地	14
2-7 プロジェクト実施プロセスと枠組み	15
2-7-1 プロジェクトスタッフと関係者間の意思疎通と調整、資料化と報告	15
2-7-2 住民参加と受益者の選定	15
2-7-3 他事業との連携	15
2-7-4 環境社会配慮	16
2-8 効果発現に貢献した要因	16
2-9 問題点及び問題を惹起した要因	16
第3章 評価結果	17
3-1 5項目による評価	17

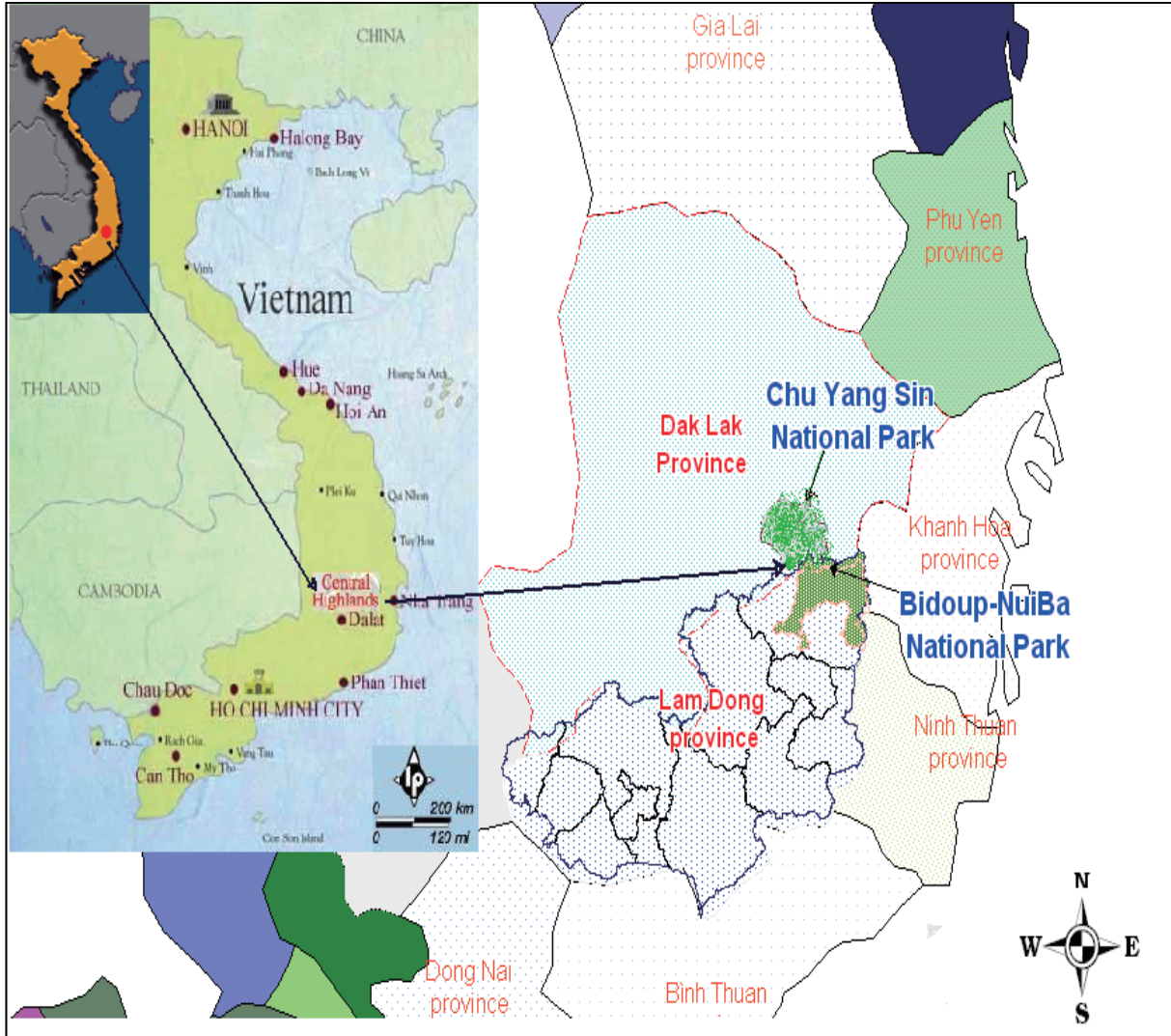
3-2	効果発現に貢献した要因	20
3-3	問題点及び問題を惹起した要因	20
第4章	結論	21
第5章	提言	22
第6章	教訓	24
第7章	所感	26
7-1	団長所感	26
7-1-1	ベトナムに合致した協働管理の概念構築	26
7-1-2	協働管理の効果：自然科学的データに基づくモニタリング	27
7-2	田中団員所感（公園管理行政）	27

添付資料リスト

添付資料 01	ミニッツと合同評価報告書（Joint Terminal Evaluation Report）
添付資料 02	収集資料リスト
添付資料 03	質問票による聞き取り結果概要
添付資料 04	主要面談者リスト
添付資料 05	主要な会議の協議議事録

地 図

(プロジェクト位置図)



写 真



省プロジェクト/運営委員会での合同評価報告書及びミニッツの署名



農業農村開発省への評価結果報告



プロジェクトで建設したビズップ・ヌイバ国立公園ビジターセンター



プロジェクトで整備した自然遊歩道



プロジェクトで育成した村人の自然ガイドとエコツーリズム環境教育センター職員による説明



環境保全型生計向上活動（FEL0）の一環としての農民現場学校（FFS）の様子

略 語 表

略語	フル表記	和名
AC	Agricultural Center	(地方郡) 農業センター
ADB	Asian Development Bank	アジア開発銀行
AEC	Agricultural Extension Center	(地方省) 農業普及センター
BNBNP	Bidoup-Nui Ba National Park	ビズップ・ヌイバ国立公園
BNBNPMB	Bidoup-Nui Ba National Park Management Board	ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所
BSM	Benefit sharing mechanism	便益共有メカニズム
BSMNW	Benefit Sharing Mechanism Network	便益共有メカニズムネットワーク
BSMMT	Benefit Sharing Mechanism Management Team	便益共有メカニズム管理チーム
CBD	Convention on Biological Diversity	生物多様性条約
CBET	Community based ecotourism	住民主導型エコツーリズム
CEEE	Center for Ecotourism and Environmental Education	エコツーリズム環境教育センター
COP	Conference of Parties	締約国会議
C/P	Counterpart	カウンターパート
CPC	Commune Peoples' Committee	コミューン人民委員会
CM	Collaborative management	協働管理
CMMT	CM Management Team	CM 管理チーム
CTA	Chief Technical Advisor	チーフ・テクニカル・アドバイザー
DARD	Department of Agriculture and Rural Development	(地方省) 農業農村開発局
DOCST	Department of Culture, Sports and Tourism	(地方省) 文化スポーツ観光局
DONRE	Department of Natural Resource and Environment	(地方省) 天然資源環境局
DPC	District Peoples' Committee	郡人民委員会
EFLO	Ecologically friendly livelihood options	環境保全型生計向上手段
EIA	Environmental impact assessment	環境影響評価
FFE	Farmer to farmer extension	農家間普及
FFS	Farmer field school	農民学校
FLITCH	Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands	中央高地生計向上の森プロジェクト
ICTHER	International Center for Tropical Highland	熱帯高地生態系研究国際セン

	Ecosystems Research	ター
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteer	青年海外協力隊
MAB	Man and Biosphere Program	人間と生物圏計画
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development	農業農村開発省
MONRE	Ministry of Natural Resources and Environment	天然資源環境省
MM	Man-month	人月
PDM	Project design matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PFES	Payment for forest environment services	森林生態系サービスに対する支払い
PO	Plan of operation	活動計画
PPC	Provincial People's Committee	省人民委員会
PRA	Participatory rural appraisal	参加型農村調査
PSC	Provincial Steering Committee	省運営委員会
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RECOFTC	Center for People and Forests	人々と森林センター
TIPC	Tourism, Trade and Investment Promotion Center	観光通商投資促進センター
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization	国連教育科学文化機関（ユネスコ）
UN-REDD	United Nations Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries	国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画
VDF	Village Development Fund	村落開発基金
VR	Village regulation	自然資源利用に関する村落規則
VRMT	Village Regulation Management Team	村落規則管理チーム
WG	Working group	作業グループ
WMB	Watershed Management Board	ダ・ニム流域管理事務所

終了時評価要約表

1. 案件の概要		
国名：ベトナム社会主義共和国	案件名：ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト	
分野：自然環境保全	援助形態：技術協力	
所轄部署：地球環境部森林・自然環境グループ森林・自然環境保全第一課	協力金額（評価時点）：2.63 億円	
協力期間	(R/D)：2010 年 1 月 5 日 ～2014 年 1 月 4 日	先方関係機関：ラムドン省人民委員会、ビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所（BNBNPMB）
	(延長)：	日本側協力機関：環境省
	(F/U)：	他の関連協力：
1-1 協力の背景と概要		
<p>世界的にも生物多様性が豊かなベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）において、自然保護区の核となる国立公園の管理能力向上は、その貴重な生物多様性を保全する上で不可欠となる課題である。ベトナム政府は、2003 年に保護区管理のあり方を示す『国家保護区管理戦略 2010』を策定するなど、国立公園を中核に、生物多様性保全のための具体的な施策を実施している。しかしながら、技術支援や資金不足のため適切な公園管理の実現には至ったとはいえない。その結果、国立公園の生物多様性は公園内や公園の周囲に住む人々のさまざまな活動によって劣化している。</p> <p>ビズップ・ヌイバ国立公園（BNBNP）は、ベトナムラムドン省の北東部に位置し、総面積 7 万 38ha と、国内有数の大きな保護区である。1986 年に自然保護区として指定された後、2004 年に国立公園に昇格した。国立公園は、典型的な山岳常緑熱帯雨林、針広混合樹林帯、高山矮林、低山亜熱帯針葉樹林、竹広葉樹混合林などの亜熱帯高山気候の典型的な森林生態系を擁し、96 の固有種を含む 1,933 種の植物と 32 の絶滅危惧種を含む 422 種の動物が生息している。BNBNP の内部と周辺に、約 5,000 世帯（約 2 万 6,000 人）の住民が生活しており、その多くが少数民族に属し伝統的な農業により生計を立てている。1 世帯当たりの農業用地は狭く、加えて農業生産性が低いために、住民の貧困率は 29%を超えるといわれている。こうした貧困を背景に、森林の農地転用（コーヒー栽培の拡大による住民の同公園内森林への侵入）、野生動物の狩猟、違法伐採、焼畑を原因とした森林火災等が現在も続いており、同公園の生物多様性は脅威にさらされている。これらの課題に対処するため、ベトナム政府は技術協力をわが国に要請した。これを受けて、国際協力機構（JICA）は、2008 年 12 月詳細計画策定のための調査を行い、その調査結果に基づき、2009 年 9 月 24 日、ハノイでベトナム政府との間で「ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト」実施のための討議議事録（R/D）に署名した。省人民委員会（PPC）及びビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所（BNBNPMB）の両機関をカウンターパート（C/P）機関として、本プロジェクトを開始した。</p>		
1-2 協力内容		
(1) 実施期間		
2010 年 1 月 5 日～2014 年 1 月 4 日（48 カ月）		

(2) 対象地

BNBNP の境界線に隣接する 5 村落

(3) ターゲットグループ

BNBNPMB、ラムドン省農業農村開発局（DARD）、対象 5 村落

上位目標：

BNBNPMB が、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。

プロジェクト目標：

BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理（CM）モデルの開発を通じて強化される。

成果：

1. プロジェクトで導入する 2 つのコンポーネント〔住民主導型エコツーリズム（CBET）と環境保全型生計向上手段（EFLO）〕を運営する実施体制が構築される。
2. 公園の自然資源管理にかかわる原則及び基本的なルールが、対象村落住民と BNBNPMB との間で合意される。
3. 選定された地区において CBET のモデル事業が試験的に実施される。
4. 対象住民グループが受入れられる EFLO が開発され、村落内で普及される準備が整う。
5. 住民グループがプロジェクトで導入した CBET と EFLO を継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。

1 - 3

投入（終了時評価時点）

日本側：総投入額 2.63 億円

専門家派遣 延べ 4 名（長期専門家 3 名、短期専門家 1 名。担当分野としては、チーフアドバイザー/CM、農村開発/業務調整、エコツーリズム/業務調整、エコツーリズム）

機材供与約 157 千ドル（約 1,570 万円）

在外事業強化費 約 1,176 千ドル（約 1 億 1,780 万円）

研修員受入 8 名

相手国側：C/P 配置 27 名（うち 17 名が評価時点でプロジェクト業務に従事）

ダラット市のプロジェクト事務所等 ローカルコスト負担 3,983 百万ドン

2. 評価調査団の概要			
調査者	日本側メンバー		
	氏名	担当業務	所属・職位
	長谷川 基裕	総括	JICA 国際協力専門員
	田中 英二	公園管理行政	環境省九州地方環境事務所野生生物課長
	平 知子	協力企画/ 援助戦略	JICA 地球環境部森林・自然環境保全第一課企画役
	辻 新一郎	評価分析	日本工営株式会社環境技術部参事
	ベトナム側メンバー		
	氏名	担当業務	所属・職位
	Ngo Tien Dung 博士	総括	ベトナム農業農村開発省 (MARD) 自然保全局 副局長
	Bui Viet Hai 博士	EFLO	Nong Lam 大学林学部教授
Le Quang Thong 博士	CBET	Nong Lam 大学経済学部教授	
調査期間	2013年6月12日～6月28日 (官団員は6月18日から6月28日まで)	評価種類：終了時評価	
3. 評価結果の概要			
3-1 実績の確認			
<p>当初計画〔プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM) や活動計画 (PO)〕に記載されている投入や主要事業活動スケジュールから大きく逸脱することなく、全般として順調に事業活動が行われた。</p> <p>成果1：達成された。</p> <p>指標 1-1. 作業グループ (WG) がプロジェクト開始3カ月以内に組織される。</p> <p>指標 1-2. WG メンバーの能力がプロジェクトによる一連の研修で強化される。</p> <p>上記指標について、プロジェクト開始3カ月以内の2010年3月中旬に実施体制構築に必要な3つのWGが設立され、聞き取り調査により関係者の能力が強化されていることが、確認できた。</p> <p>成果2：達成された。</p> <p>指標 2-1. 対象村落の基本情報が参加型手法で収集され、プロジェクト開始から9カ月以内にとりまとめられる。</p> <p>指標 2-2. 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後15カ月以内に、参加型で定められる。</p> <p>プロジェクト開始から7カ月目 (2010年7月) までに、現地再委託などを有効に活用して各種基礎調査と参加型農村調査 (PRA) を実施し、調査結果を事業活動計画策定や実施に活用した。また、5つの対象村落で住民参加を通じて策定された村落自然資源管理規定 (VR) が2011年3月 (15カ月目) に完成し、その後2011年11月に郡人民委員会 (DPC) に承認された。同規則は現地語であるコホ語に翻訳され、その執行体制及びモニタリングを強化した。</p>			

成果 3 : おおむね達成される見込みである。

指標 3-1. CBET の選択地での実施計画がプロジェクト開始後 16 カ月以内に策定される。

指標 3-2. 対象村落内の世帯の 5%以上が、収入を得ながら CBET に参加する。

指標 3-3. BNBPNMB と覚書を交わした観光業者少なくとも 15 社が CBET 活動に参加する。

指標 3-4. CBET モデルの試験的実施のための組織とインフラストラクチャーの整備が、プロジェクト開始後、それぞれ 18 カ月以内、28 カ月以内になされる。

指標 3-5. 来訪者の 50%以上が CBET モデルに満足している。

指標 3-6. 試験的実施の評価に基づいた教訓と提言が関係者に共有される。

- (1) CBET 対象村落においてプロジェクトが雇用した現地コンサルタントの支援により、CBET 実施計画が策定され、プロジェクト開始後 17 カ月目の 2011 年 5 月に対象村代表者に発表された。さらに、対象地域の CBET 開発のためのインフラストラクチャー整備計画を翌年 6 月に作成した (指標 3-1)。
- (2) プロジェクト期間中、対象村落全 667 世帯のうち、約 7%にあたる 47 世帯が CBET 活動に参加し、収入を得た。しかしながら、国立公園に訪問する観光客がまだ少ないため、住民が所得を得る機会も少なく、わずかな収入を得ながらの CBET 参加となっている (指標 3-2)。
- (3) 観光業者との関係構築に関しては、エコツーリズム環境教育センター (CEEE) やその他の関係機関の努力により、17 の観光業者 (TO) と CEEE の間に覚書を交わし、マーケティングの面から CBET 活動に参加した (指標 3-3)。
- (4) CBET モデルの試験的実施のため組織として、省人民委員会の承認により 2011 年 4 月 (16 カ月目) に CEEE が設立され、CEEE の能力向上をプロジェクトは支援した。プロジェクトは、CBET WG や CEEE、CBET 住民組織など、CBET 振興に必要な組織の整備や強化を行い、CEEE の能力が強化されていることを終了時評価で確認した。また、プロジェクトでは、CEEE 運用マニュアル作成を支援し、2012 年 7 月に BNBPNMB によって正式承認された。エコツーリズム活動の展開に必要な基本的なインフラストラクチャーとして、ビジターセンターの建設、ティエンタイ及びランビエントレイルの整備が 24 カ月以内に完了した。2013 年 9 月までには、3 つの自然遊歩道の更なる整備 (トイレや吊り橋、階段、標識などの整備) が完了する予定である (指標 3-4)。
- (5) 2012 年に実施した、国立公園訪問者に対するアンケート調査によると、87%の観光客が CBET 試験的実施の内容に満足している (指標 3-5)。
- (6) CBET の試験的実施のレビューを基に、2013 年 8 月に日本人専門家の支援を通じて、CEEE の包括的ビジネス計画策定を支援する予定である。プロジェクトは評価ワークショップをプロジェクト終了前に実施する計画で、対象地域の継続的な CBET 開発に有用な教訓を引き出す予定である (指標 3-6)。

村落エコツーリズム商品開発として、伝統的なコング音楽演奏・舞踊や織物の研修を住民に対して行い、ガイド・自然解説者の育成も行ったうえ、住民をグループ化した。観光客の反応はおおむね良好である。CBET の概念は当地では新しく、本格的な CBET 商品開発には更なる時間と

投入が必要であるなか、新興観光商品として学校をターゲットとした「教育観光」やアグロ観光に潜在性がある。現在、観光客数が制限されているので、住民が CBET 活動から十分な収入を得るには至っていない。しかし、こうしたトライアルは、住民や行政側の能力向上に貢献していることから当初目的は「おおむね達成される見込み」であるといえる。

CBET では、環境影響評価 (EIA) を実施したうえで、エコツーリズム振興に必要な基礎インフラストラクチャーとして、ビジターセンターやその展示設備、食堂、自然遊歩道などを整備した。また、行政面では、国立公園事務所の一機能として創始された CEEE の職員の能力強化を行い、マニュアルや各種計画の策定を支援するとともに、ファイナンス強化のために国立公園入園料の徴収などの新制度導入をサポートした。

成果 4：達成される見込みである。

指標 4-1. 住民グループの 70% 以上が少なくとも 1 つの EFLO 活動を採用し、EFLO 参加者の 50%以上が生産量を増加、あるいは付加価値を付ける。

指標 4-2. 試験的実施の評価に基づいた教訓と提言が関係者に共有される。

指標 4-3. EFLO を村落内と他の村落に普及・促進する計画が策定される。

- (1) 2012 年 12 月にプロジェクトが実施した調査によると、EFLO 参加住民グループの 82%が、EFLO の先進的な農業技術を採用しており、その年は悪天候であったにもかかわらず、過半数の参加者がコーヒーの生産量を増加させていた。EFLO 参加農民の生産量は、非参加者よりも 10%ほど高かった (指標 4-1)。
- (2) 2013 年にハノイで実施されたワークショップ「BNBNP における協働管理の構築に向けて」において、コーヒー生産の農民学校 (FFS) マニュアルや、FFS 実施の教訓などを取りまとめた文書が共有された。さらに、事業終了までに地元で FLEO の評価ワークショップを実施予定で、更なる教訓や提言が地元関係者の間で共有される見込みである (指標 4-2)。
- (3) プロジェクトにてファシリテーション技術や農業技術、営農技術などを含む、コーヒー生産のための FFS マニュアルを開発した。また、村落内の訓練された農民からほかの農民へ技術を広めるために、農家間普及 (FFE) の手法を採用した。なお、他の村落への普及を想定した EFLO 普及計画についてもプロジェクト終了までに策定を予定している (指標 4-3)。

EFLO の主な目的として、事前の詳細な調査状況分析と利害関係者との集中議論に基づき、環境負荷の少ないコーヒー栽培 (低農薬栽培) をトライアルとして選定した。事業に関心を持つコーヒー農民をグループ化し、FFS、FFE といった手法を用いた集中研修を 300 世帯以上に対して実施した。うち 8 割以上が低農薬栽培を実践し始めており、2012 年は天候不順にも関わらず、全体として 1 割以上生産高が伸びた。便益共有メカニズム (BSM) と村落開発基金 (VDF) が強化されるに従い、EFLO 参加農民の便益は向上することを住民が期待し、EFLO 参加農民の数は順調に増加した。

プロジェクトでは C/P や省の農業普及センター (AEC)、郡農業センター (AC) などが主体となってこうした支援活動を実施したため、行政側の能力も向上した。FFS マニュアルも作成し、ワークショップで共有したため、今後農業普及サービスのために制度化・主流化する可能性も高

い。こうしたトライアルが農民の生計向上に本格的につながるためには、生産技術だけではなく、資金調達や加工・保存、認証、流通、販売などを改善する必要があり、事業終了までにそのための普及・促進計画を策定する予定である。

成果 5：達成される見込みである。

指標 5-1. プロジェクト期間終了までにプロジェクト管理者が合同調整委員会 (JCC) において課題と対応方針を明確にして報告書にとりまとめる。

指標 5-2. プロジェクト期間終了までに関係機関への提言を盛り込んだ行動計画書が策定され JCC に承認される。

(1) これまで JCC は 4 回開催され、プロジェクトに関する重要な課題や進捗、計画が協議された。事業開始後、JCC メンバーの合意のもと、DPC や天然資源局 (DONRE)、ダ・ニム流域管理事務所 (WMB) が JCC に加えられた。JCC は、重要な関係者が集う場となり、緩衝地帯の協働管理のために重要な役割を果たした。プロジェクト終了時までにこれまでのプロジェクトの成果と対応方法について報告書にとりまとめ JCC において報告を予定している (指標 5-1)。

(2) 指標の 3-6 と 4-3 にあるとおり、CBET や EFLO、CM の更なる開発のために、事業終了までに教訓や戦略、計画、提言を盛り込んだ行動計画書を作成する予定である。これらの計画は、JCC/政策決定者に提出され、承認を得る予定である (指標 5-2)。

プロジェクトの支援により、肥料の集団購買を通じて VDF が設立され、VDF マネジメント及び BSM を担う住民組織が設立・強化された。BSM 組織は、住民の便益確保のみならず、自然資源保全の義務を担保する責任も担っており、ここに行政 (国立公園管理事務所と自治体) が加わることで、自然資源の CM を実現させる構想である。プロジェクトでは、CM の概念を国立公園管理の方法論として提示した。プロジェクト終了までには、住民と行政側の合意書が締結され、事業終了までに提言を含んだ行動計画書を作成、承認される見込みである。プロジェクトが CM の実用的プロセスと手段を実行したことは注目すべきことであり、こうした経験は、国家レベルのワークショップや交流プログラムなどで共有され、国家政策に活用・反映させることが期待されている。

プロジェクト目標：達成される見込みである。

指標 1. 対象住民グループと BNBPNPMB の間で協働の合意がなされ、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案がプロジェクト終了までに作成される。

指標 2. VR、CBET、EFLO の活動を含む協働管理の継続実施を担保するための州政府向け政策提言が取りまとめられる。

指標 3. プロジェクト活動に携わる BNBPNP スタッフの 70% 以上が国立公園における自然資源の CM モデルの実施方法を理解している。

(1) コミュニティと BNBPNPMB、コミュニケーション人民委員会 (CPC) を巻き込みながら、自然資源管理の協定 (協働管理合意書) の下書きに関する協議は始まっている。この活動のために、既に現地コンサルタントを雇用しており、2013 年 10 月までに素案作成を完了する見込み

である（指標 1）。

(2) 2013 年 3 月に、ハノイで「BNBNP における協働管理構築に向けて」と題したワークショップを実施し、プロジェクトで導入した BSM と CM の概念と経験を発表した。ワークショップでは、参加型による VR 作成・モニタリングの重要性や、BSM と VDF の創始などが協議され、課題についても議論が行われた。また、プロジェクトでは、事業終了までに、VDF をさらに増資するために「森林生態系サービスに対する支払（PFES）」の資金の一部を活用することに関するワークショップを開催する予定であり、ハノイでのワークショップの結果もふまえて提案書をまとめる予定である（指標 2）。

(3) プロジェクトスタッフあるいは WG メンバーとしてプロジェクトに参加した BNBNP 職員のうち、75%以上が CM モデルの実施方法を理解のうえ協働管理に関連する事業活動に携わった。終了時評価調査期間中に実施した聞き取り調査の結果、BNBNPMB 職員の協働管理に関する理解度が深まっていることが確認された（指標 3）。

以上より成果をおおむね達成したうえ、プロジェクト目標も達成される見込みである。

住民参加型による VR 策定やモニタリング及び BSM 導入などを通じて、CM の概念及び方法論は既に住民に浸透しつつあり、CBET や EFLO の活動を通じて、CM による自然資源管理の便益も認識されつつある。

現在プロジェクトを通じて議論されている CM の概念は、元々想定していたコミュニティレベルの協働から更に発展し、主要な利害関係者は PPC や DARD（例えば AEC や郡営林署など）、DONRE、文化スポーツ観光局（DOCST）、DPC（例えば AC や WMB）、民間組織・企業などの省や郡レベルのステークホルダーを巻き込んだ広範囲な議論の必要性が認識されている。

3-2 評価結果の要約

(1) 妥当性

プロジェクトの妥当性は**高い**。2011 年の中間レビュー以来、ベトナム政府の政策や優先課題に大きな変化はなく、日本の対ベトナム援助計画にも変更はない。プロジェクトでは、国立公園の管理強化と、少数民族やその他の社会的弱者を中心に、森林依存住民の生計向上に対処しており、現地のニーズに合致している。

(2) 有効性

プロジェクトの有効性は**高い**。地域では CBET は新しい概念で、BNBNPMB はそれまで CBET 振興の経験はなかった。事業の計画段階から、CBET の実施・推進は難航することが予想されており、当初より目標は達成可能なレベルに設定され CBET に関連する指標は現実的なものに設定されていた。その結果、設定された目標（指標）はおおむね達成されたと判断できることから、プロジェクト目標達成の見込みは高い。EFLO の一環として導入された FFS と FFE は、C/P をはじめ、ステークホルダーの効果的な能力向上の手段で、目標達成に貢献した。対象農民の生産性は徐々に向上し、このまま先進技術の普及が進めば、長期的な効果が発現することが期待される。多様なプロジェクト活動と議論を通して、国立公園における CM の概念を発展、強化し、プロジェクト終了まで更なるワークショップ

や議論を通じて、概念を文書化し、政策提言などに取りまとめる予定である。事業終了までに、コミュニティと BNBPNMB、CPC の間で CM 合意書が署名される可能性があり、プロジェクト目標の達成に加え上位目標の指標をも事業期間中に達成する勢いである。自然資源管理に関する VR の執行とモニタリングも今後さらに強化される予定である。

また、成果 1「プロジェクト実施体制の整備」は、成果 2 から成果 4 のための前提条件であり、成果 2「公園内の自然資源管理に係る基本的な原則及びルール」は、成果 3「CBET の実施」及び成果 4「EFLO 活動の実施」が、自然資源の保全と調和するための基礎となるものであった。そして、成果 2、3 及び 4 の結果を基に、成果 5 の「今後の課題と必要な対策」を明らかにし政策提言として取りまとめる予定である。

これらの成果が達成されることにより BNBPNMB の能力向上が図られる見込みである。以上のことから、5 つの成果の関係並びにプロジェクト目標との因果関係は明確であったことから、本プロジェクトの有効性は高いと見込まれる。

(3) 効率性

プロジェクトの効率性は**高い**。日本側及びベトナム側の双方から、プロジェクトに対する適切な投入（専門家派遣、C/P 職員の配置、活動実施予算など）が適時に行われ、事業活動はほぼスケジュールどおりに実施された。終了時評価での現場視察などで、これらの投入は全体として適切に活用され、供与車両や機材、施設なども適切に維持管理されており、全体として効果を生んでいることが確認された。8 名の C/P 職員が本邦研修に参加し、関連する技術や知識を習得し、日常業務に効果的に活用していることが確認された。本プロジェクトでは、当初エコツーリズムのローカル専門家の活用を想定していたが、確保が困難であったため、国際調達により第三国の専門家を投入し、その後日本人の短期専門家を派遣した。予算の関係上、日本人専門家の投入が限られているなか、現地のコンサルタントを有効に活用し、効率性を向上した。

(4) インパクト

総合的に負のインパクトは検知されず、正のインパクトは**中程度である**。なぜなら PDM に示した上位目標の達成のためには、プロジェクトで試行した CBET や EFLO、CM などの生計向上活動が実行可能な概念や方法論から更に発展し、保全や住民の生計向上に必要な十分なリソースが協働による自然資源管理から実際に創出できることを実証したうえで、モデルとして認識され、活動を継続する必要があるからである。

上位目標の達成見込みは現時点では中程度と判断した。上位目標の指標 1「プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民グループと BNBPNMB の間で、国立公園内の一部における自然資源管理の協定が結ばれる。」は、プロジェクト終了までに現在の計画どおり作成が進められた場合、前倒してプロジェクト期間内にも署名される可能性がある。

また、指標 2 については、CM の概念の導入により、関係機関とコミュニティが効果的・効率的に協力する状況が整備されており、プロジェクトで開発された方法論や手法は、ほかの事業に採用、あるいは参考にされることが期待される。例えば、FFS や FFE の手法は、

省政府の農業普及業務で採用される可能性がある。2013年3月にハノイにて開催されたワークショップやそのほかの交流事業を通じて、BSMなどのプロジェクトの経験が、MARDや天然資源環境省（MONRE）、ほかの国立公園管理事務所などと共有された結果、CMやBSM、VDF、VRなどに関する本プロジェクトの成果が他の国立公園の特別利用林保護や緩衝地帯の管理・利用・開発にも適用され、国家政策策定時に参照する可能性についても議論されている。

さらに指標3の活動の継続性については、BSMの仕組みをとおして便益や資源をいったん蓄積し住民に平等に分配するためには、VDFなどの仕組みが必要であるため、供与肥料を回転資金とする手法で、VDFの設立と強化を支援した。今後CBETやEFLO等を通じ、住民のための十分な便益が生み出されれば、対象村落がプロジェクトにより導入された活動を継続する見込みである。

なお、施設建設を含むCBET実施計画に対しては、EIAを実施して環境への負の影響が少ないことを確認し、MONREによる許可を得たうえで活動を開始した。実際の施設建設は、ほぼ当初計画どおりに実施したため、顕著な負の環境影響はなかったと予想される。プロジェクトによるEFLOの一環として、低農薬農法を取り入れ、環境に良い影響をもたらした結果、住民の環境保全に対する意識が向上した。例えば、一部の住民は自主的に自然遊歩道のゴミ回収を開始した。更に低農薬農法の導入による短期的な経済的負のインパクトは検知されなかったが、コーヒー農園の生物多様性と環境への総合的な影響は不明である。

(5) 持続性

プロジェクトの持続性は**高い**。

1)政策・制度面：プロジェクトの提言により、国立公園の入園料を徴収する制度が施行され、その一部が、プロジェクトの供与資機材や施設の維持管理費に充当されることとなっているので、事業成果の持続性に寄与することが期待される。アジア開発銀行（ADB）の支援によりBNBNPのエコツーリズム開発マスタープランが策定されており、計画は、プロジェクトの成果や教訓を反映したうえで、省レベルの関係当局によって承認されている。プロジェクトで訓練されたCEEE職員に加え、マスタープラン実施のための予算措置が期待できるので、事業終了後もCBETに関する事業成果が継続的に発展することが予想される。自然資源のCMメカニズムは、制度的にプロジェクト終了後も合意書を基に持続し、発展すると予想される。

2)組織・財政面：資機材や車両の供与や施設整備などを通じてC/Pの組織力も向上した。CEEEがBNBNPの一部門として設立され、プロジェクトの支援でCEEE運営マニュアルも策定され、CBET活動やVDFに参加している住民への便益共有の指針などが示された。事業終了までには、日本人専門家の技術支援により、マーケティング戦略を含むCEEEの長期的なビジネス計画も策定する予定である。一方、マーケティングや観光振興を通じて、より多くの観光客が対象村を訪問するためには、CBET観光商品をさらに開発する必要がある。本格的なCBETモデルが当地で開発されるためには、更なる時間と投入が必要である。

FFSとFFEの手法の導入は、住民やWGメンバー、プロジェクトスタッフ（ほとんど

は国立公園管理事務所を長期休職している職員で、プロジェクト終了後は復職する)の能力向上に多大に貢献し、事業成果の持続性の担保に寄与する。

予算面では持続性を担保するために、対象村落で BSM や VDF が導入された。その発展は確実ではないもののインパクトの項目にあるとおり、メカニズムと基金の持続性は高く、その更なる発展のために、継続的な尽力が必要といえる。

- 3) 技術面:日本人専門家や現地コンサルタントの支援により、C/P 職員の能力が強化された。また、プロジェクトで導入した低農薬農法は、環境的に持続性があると考えられている。

3-3 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること:

プロジェクト開始時は BNBNPMB の本部が公園外のダラット市内に設置されていたことから、ベトナム政府によるダ・ニム流域地域公園内の BNBNPMB の新しい本部と関連施設の建設によりプロジェクト対象村落との距離が近くなり、プロジェクト活動を進めやすい環境を整えた。

(2) 実施プロセスに関すること:

本プロジェクトの対象村落は、国立公園外緩衝地帯(バッファゾーン)の村落であり、同土地の所有権は WMB にあったが、国立公園管理事務所が国立公園内(コアゾーン)だけでなく国立公園外(バッファゾーン)に対しても、行政サービスを実施できる法的な根拠があったことにより、BNBNPMB が直接対象村落に対し CBET や EFLO の活動を行うことが可能であった。

また、プロジェクト全体としての事業実施プロセスもおおむね適正で、JCC が適正に機能して、関係機関間調整の役割を果たした。日本人専門家を含め、各関係者が定期的に適正に意思疎通を図り、住民参加と理解を十分に実現しながら事業は実施された。

3-4 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること:

PPC の下にある WMB (バッファゾーンの土地利用権を所有) や観光通商投資促進センター(TIPC) との関係が、公式文書(R/D) で C/P 機関として位置付けられておらず、彼らのプロジェクトに対するコミットメントが弱かったが、プロジェクトスタッフや関係者が関係する会議への参加依頼や情報共有を行うことにより、顕著な負の影響を抑えるように対処した。

(2) 実施プロセスに関すること:特になし。

3-5 結論

本プロジェクトは、指標で示された目標をおおむね達成見込みであり、研修事業や視察旅行、ワークショップ、専門家による指導などを通じて、対象村や関係各機関の国立公園 CM 能力向上に大きく貢献した。プロジェクトは、先進的な CBET や農業普及技術(FFS/FFE)、自然資源の CM メカニズム、BSM、VDF などを導入し、現場レベルで試行錯誤しながら、実行可能な概念・方法論を取りまとめている。また、インフラストラクチャー整備や資機材供与などを通じて、BNBNPMB の組織能力の向上にも寄与した。

これらの成果は、適正な実施プロセスと組織体制、制度を通じて実現しており、専門家や C/P、その他の関係者が、WG や JCC などの仕組みを活用して意思疎通を図りながら協働した。住民参加が重視され、各関係機関や当局も巻き込みながら、事業活動実施や意思決定がなされた。

上記の評価結果概要にあるとおり、評価 5 項目のインパクトを除き各項目で高く評価されており、プロジェクト目標については、おおむね達成し、プロジェクトは予定どおり終了することとした。

3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

3-1 から 3-4 で前述した評価結果から以下のとおり提言する。

【ベトナム側に対して（事業終了後）】

- 1) CEEE は、プロジェクト終了後、コミュニティの積極的な参加を通じ、観光業者を一層巻き込んだうえ、エコツーリズムの観光商品をさらに開発する必要がある。併行して BNBPNMB は、村での CBET 活動のマネジメント開発の際に、CBET グループと CEEE 職員の能力向上を継続すべきである。マーケティングとプロモーションを強化するよう観光業者を商品開発に巻き込む必要がある。対象村の文化的・自然的な観光潜在性が限られていることから、アグロ観光や学校を対象にした「教育観光」の開発を通じて CBET を促進すること。
- 2) 国立公園管理事務所は、事業終了後も、便益共有メカニズムネットワーク（BSMNW）やその管理チーム、VDF の強化を継続すること。この強化されたメカニズムに基づいて、次の 1) から 6) を達成できるよう、村の EFLO グループを協同組合などの組織として発展させること。1) 農産物の質・量の改善、2) 製品多様化、3) リスクの回避（農業保険製品の購入）、4) 共同マーケティング、5) 認証、6) 付加価値化。これは、システム全体として VDF や BSM により多くの資金を引き込める。
- 3) 国立公園管理事務所は、プロジェクトからの教訓や提言を、次期の国立公園管理計画や観光に関連する計画・戦略に反映させること。
- 4) 現在の EFLO 受益者は、正式な土地利用権（いわゆるレッドブック）が与えられている農地を持った対象者が少ない。現在既に耕作されている土地に関しては、レッドブックを持たない住民の地権や資源利用権が VR で保障されているが、土地の管理権限は流域管理事務所（WMB）にある。土地を活用した EFLO 活動の持続性を担保するために、レッドブックのない耕作地に関する具体的な管理規則整備が必要である。

【日本側に対して】

- 5) JICA は、派遣中の森林プログラムアドバイザー専門家を通じて事業成果の更なる発展を継続してモニタリングし、BNBNP やベトナムのその他の国立公園の改善と更なる支援に関して、ベトナム側当局との対話を継続すること。

3-7 教訓（当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運

営管理に参考となる事柄)

- 1) ベトナムで CM は自然資源管理における新しいアプローチである。VR と BSM は CM を支える不可欠な要素である。CM の実行のためにコミュニティを支援するには VDF と BSM ネットワークの設立が重要である。自然資源管理には、広範囲で多くの関係者が関与することから、国立公園事務所とコミュニティの間の協働だけではなく、より広範囲な関係組織間連携による協働の自然資源管理メカニズムを創造して強化する必要がある。そうしたメカニズム/プラットフォームの関係者・参加者を、計画段階から慎重に特定するとよい。
- 2) こうした協働のプラットフォームは、国家の制度的・政策的裏付けが必要である。また、関係組織間プラットフォームを機能化するために、1) プラットフォームの目的を明確にしたうえで 2) 関係機関と共有し、3) 実際にプラットフォームが便益を生み出す（インセンティブを創出する）ことを示すとよい。
- 3) 生計向上事業を計画する時には、与えられた事業期間とリソースをかんがみ、達成可能な目標を設定することが重要である。例えば、プロジェクト地で CBET が新しい概念であるとき、開発に多くの時間を要する。また、コミュニティの主体性を引き出すためには、適切な事業実施体制を整備することが肝要で、十分な時間と予算、専門家を計画段階で確保しておくるとよい。

Summary Sheet for Terminal Evaluation

1. Outline of the project	
Country: Socialist Republic of Vietnam	Project Title: The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park
Sector: Natural Environment Conservation	Type of assistance: Technical cooperation
Division in charge: Forestry and Nature Conservation Division 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department	Total Cost: Approximately 263million Japanese Yen (at the time of evaluation)
Period of cooperation on	(R/D): September 24, 2009 (for four years)
	(Extension): None
	(F/U): None
	Country Partner Implementing Organization: Lam Dong Province People's Committee, Bidup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB)
	Supporting organization in Japan: Ministry of the Environment
	Other related supporting organizations: None
1-1 Background and outline of the cooperation	
<p>In the Socialist Republic of Vietnam (hereinafter referred to as “Vietnam”) that holds rich biodiversity among countries of the world, improvement of management capabilities in national parks as core nature reserves is an essential challenge to preserving its valuable biodiversity. The Government of Vietnam is carrying out specific measures for biodiversity conservation mainly in national parks, including the formulation of the “Management Strategy for a Protected Area System in Vietnam to 2010” to show approaches to the protected area management in 2003. However, it cannot be said to have led to the realization of appropriate park management due to the lack of technical assistance or funds. Consequently, the biodiversity of national parks has been degraded by various activities of people living inside or around there.</p> <p>The Bidoup-Nui Ba National Park (BNBNP) is one of the foremost large protected areas in the country with the total area of 70,038 ha, located in the northeastern part of Lamb Don Province in Vietnam. After being designated as the nature reserve in 1986, the area was promoted to the national park in 2004. The national park holds typical forest ecosystems of subtropical alpine climate, including tropical evergreen mountain rainforests, mixed broad-leaved and needle-leaved forest zones, alpine dwarf shrubs, subtropical coniferous low-mountain forests, and mixed forests with bamboos and broad-leaved trees, where 1,933 plant species including 96 endemic species and 422 animal species including 32 endangered species inhabit. Approximately 5,000 households (about 26,000 persons) of inhabitants are living inside and around, many of whom belong to ethnic minorities and make their livelihoods by traditional agriculture. The poverty rate of the local population is said to exceed 29%, as their agricultural land per household is small and furthermore their agricultural productivity is low. In the background of this poverty, conversion of forests into agricultural land (inhabitants' encroachment on forests in the said national park for expanding coffee</p>	

cultivation), hunting of wild animals, illegal logging, forest fires caused by slash-and-burn farming, and other events are still going on at present, posing threats to the biodiversity of the park. In order to address these challenges, the Government of Vietnam requested technical cooperation from the Government of Japan. In response to this, the Japan International Cooperation Agency (JICA) conducted a survey to draw up a detailed plan in December 2008, and then signed the Record of Discussion (R/D) for implementing the “Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park” with the Government of Vietnam in Hanoi on 24 September 2009, based on results of the survey. This project was initiated with both the Provincial People’s Committee (PPC) and the Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB) as the counterpart (C/P) agencies.

1-2 Content of cooperation

(1) Period of implementation

5 January 2010 - 4 January 2014 (48 months)

(2) Target area

Five villages adjacent to the boundary of BNBNP

(3) Target group

BNBNPMB, Department of Agriculture and Rural Development (DARD) in Lam Dong Province, five target villages

Overall Goal:

BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups in a collaborative manner.

Project Purpose:

The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.

Outputs:

1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.
2. Basic principles/ rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target.
3. A trial run of community-based ecotourism (hereinafter referred to as "CBET") is carried out at the selected sites.
4. The ecologically-friendly livelihood options (hereinafter referred to as "EFLO") that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.

5. Issues to be addressed and actions to be taken are made clear so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the Project.

1-3 Inputs (at the time of terminal evaluation)

- Japanese side: Total amount of input 263 million yen

Dispatch of experts: Total four persons (three long-term experts and one short-term expert. Areas of their responsibility include Chief Advisor/ Collaborative management (CM), rural development/project coordinator, ecotourism/project coordinator, and ecotourism)

Provision of equipment: About 157 thousand U.S. dollars (about 15.7 million yen)

Cost for strengthening overseas operation (local cost assistance) Approximately 1,176 thousand U.S. dollars (about 117.8 million yen)

Acceptance of trainees: 8 persons

- The partner country's (Vietnamese) side:

Assignment of C/P: 27 persons (17 persons out of them are engaged in project services at the time of evaluation)

Project office in Da Lat City, etc.

Local cost borne: 3,983 million Vietnam dong

2. Summary of the Evaluation Team

Mission	Japanese members		
Members	Name	In Charge	Position and Organization/Title
	Motohiro Hasegawa	Team Leader	Senior Advisor, JICA
	Eiji Tanaka	Park Administration	Director, Wildlife Division, Kyushu Regional Environment Office, Ministry of the Environment, the Government of Japan
	Tomoko Taira	Cooperation Planning/Aid Strategy	Advisor, Forestry and Nature Conservation Division 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department, JICA
	Shinichiro Tsuji	Evaluation Analysis	Senior Consultant, Environmental Science and Engineering Department, Nippon Koei Co. Ltd.
	Vietnamese members		
	Name	In Charge	Organization/title
	Dr. Ngo Tien Dung	Team Leader	Vice Director of Nature Conservation Department, Ministry of Agriculture and Rural Development
	Dr. Bui Viet Hai	EFLO	Senior Lecturer of Forestry Department, Nong Lam University
	Dr. Le Quang Thong	CBET	Senior Lecturer of Economics Department, Nong Lam University

Period of evaluation survey	12 - 28 June 2013 (from 18 June to 28 June for government team members)	Type of evaluation: Terminal Evaluation
3. Summary of evaluation results		
<p data-bbox="170 349 544 383">3-1 Verification of performances</p> <p data-bbox="170 398 1394 521">Project activities were carried out smoothly in general without significant deviations from inputs and main project activity schedules described in the initial plans [the Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operation (PO)].</p> <p data-bbox="201 539 432 573">Output 1: Achieved.</p> <p data-bbox="231 589 1283 622">1-1. Working groups are formulated within 3 months after the Commencement of the Project.</p> <p data-bbox="231 638 1385 716">1-2. The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project.</p> <p data-bbox="201 732 1394 855">For the above indicators, three working groups (WGs) required for building an implementation system were established in mid-March 2010, that is within three months from the start of the project, and it could be verified through interviews that capabilities of concerned parties were enhanced.</p> <p data-bbox="201 920 432 954">Output 2: Achieved.</p> <p data-bbox="231 969 1394 1093">2-1. Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project.</p> <p data-bbox="231 1108 1394 1232">2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project and are enforced by villagers themselves</p> <p data-bbox="201 1247 1394 1572">Various basic surveys and participatory rural appraisals (PRA) were carried out by making effective use of local subcontracting and others within 7 months after the start of the project (by July 2010), whose results were utilized for elaborating and implementing project activity plans. In addition, village rules (VRs) on natural resource management developed through community participation at the five target villages were completed in March 2011 (the 15th month of the project), and then approved by the District People's Committee (DPC) in November 2011. These rules were translated into the Koho language as the local language, and thus their enforcement system and monitoring were strengthened.</p> <p data-bbox="201 1637 683 1671">Output 3: Expected to be largely achieved.</p> <p data-bbox="231 1686 1394 1765">3-1. Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 month after the commencement of the Project.</p> <p data-bbox="231 1780 1394 1859">3-2. More than 5% of the households in the target villages take part in the CBET component with some earnings from CBET activities.</p> <p data-bbox="231 1874 1394 1953">3-3. More than 15 tour operators which have signed minutes of agreement with BNBPNMB participate in CBET activities.</p> <p data-bbox="231 1968 1394 2002">3-4. Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial</p>		

run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project.

3-5. More than 50% of visitors/ guests are satisfied with the contents of the CBET model offered by the component.

3-6. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.

(1) CBET implementation plans were developed with the assistance of local consultants hired by the project at the target villages, and announced by representatives of these target villages in May 2011 as the 17th month after the start of the project. In addition, a plan for infrastructures improvement to develop CBET in target areas was prepared in June the following year (Indicator 3-1).

(2) During the project, 47 households (about 7 %) of the total 667 households at the target villages participated in CBET activities, gaining some income. However, the situation is that they participate in CBET while gaining small income, because there are still few tourists that visit the national park and thus few opportunities for local people to gain income (Indicator 3-2).

(3) With regard to building relationships with tour operators, a Memorandum of Understanding (MOU) was exchanged between 17 tour operators (TOs) and the Center for Ecotourism and Environmental Education (CEEE) with the efforts of CEEE and other related organizations, and they participated in CBET activities in terms of marketing (Indicator 3-3).

(4) As an organization for pilot implementation of CBET model, CEEE was established with the approval of the Provincial People's Committee (PPC) in April 2011 (the 16th month), and the project supported the capacity building of the staff of CEEE. It was verified during the terminal evaluation that the project performed the development and strengthening of organizations required for promoting CBET such as CBET-WG, CEEE and community organizations, by which the capabilities of CEEE were enhanced. The project also supported the preparation of a manual for operating CEEE, which was approved officially by BNBNPMB in July 2012. As the basic infrastructure required for evolving eco-tourism activities, construction of a visitor center and development of the Tien Thai and Lan Bien trails were completed within 24 months of the project. Further development of three nature trails (preparation of toilets, suspension bridges, stairs, signs, etc.) will be completed by September 2013 (Indicator 3-4).

(5) According to the questionnaire survey with national park visitors that were conducted in 2012, 87% of the tourists were satisfied with the content of pilot implementation of CBET (Indicator 3-5).

(6) It is expected that CEEE will be supported for elaborating a comprehensive business plan through the assistance by a Japanese expert in August 2013, based on the review of the pilot implementation of CBET. The project is scheduled to carry out an evaluation workshop before the end of the project, from which lessons useful for continuous development of CBET in target areas will be drawn (Indicator 3-6).

For the development of village ecotourism resources, training was conducted for the target community members on the traditional Gong music performance and dance as well as their fabrics, and they were organized into groups after receiving training on guides and nature interpreter as well. Tourists' reaction is generally good. The concept of CBET is fresh at this site and further time and inputs will be required to develop CBET products on a full scale, whereas there is the potential for "educational tourism" targeted at schools and agro-tourism as emerging tourism products. Currently, the number of tourists is limited, and so local people have yet to gain sufficient income from CBET activities. However, it can be said that the initial objective of such a trial is "expected to be largely accomplished," because it has contributed to the capacity building of the target community members and the government side.

In CBET, a visitor center was put in place together with its exhibition facilities, dining rooms, nature trails etc. as the basic infrastructure required for promoting the ecotourism, after an environmental impact assessment (EIA) was conducted. Also in the administration sector, capacity building was carried out for the staff of CEEE that was created as one of the functions of national park offices, along with the support for introducing a new system to strengthen the financing, including the collection of national park entrance fees in addition to elaborating a manual and various plans.

Output 4 : Expected to be achieved.

- 4-1. More than 70% of the members of the community groups adopt at least one of the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component, and more than 50% of the participants of EFLO raise production or value of crops they are cultivating.
- 4-2. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.
- 4-3. An/ A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared
 - (1) According to the survey that was conducted under the project in December 2012, 82% of the community groups participating in EFLO adopted the advanced agricultural technologies and over half of the participants successfully increased their coffee production despite the bad weather in that year. The volume of coffee production by farmers participating in EFLO was about 10 percent higher than that by non-participant farmers (Indicator 4-1).
 - (2) The farmer field school (FFS) manual for coffee production and the document compiling lessons learned from FFS implementation were shared during the workshop "Toward the Establishment of Collaborative Management in BNNBNP" that were held in Hanoi in 2013. In addition, a workshop is scheduled to be held locally to evaluate EFLO before the completion of the project, in which additional lessons and recommendations are expected to be shared among local stakeholders (Indicator 4-2).

- (3) FFS manual for coffee production was developed in the project, including facilitation techniques, agricultural technologies and farming technologies. Furthermore, the farmer-to-farmer extension (FFE) method was adopted in order to disseminate the technologies from the trained farmers to others in the target villages. It should be noted that an EFLO dissemination plan assuming the diffusion to other villages is also planned to be elaborated by the end of the project (Indicator 4-3).

Based on prior detailed analysis of survey results and intensive discussions with stakeholders, coffee cultivation with low environmental impacts (low-pesticide cultivation) was selected as a trial for the main purpose of EFLO. Coffee-growing farmers interested in the project were organized into groups, and intensive training was carried out for more than 300 households, using methods such as FFS and FFE. More than 80% of them began to practice low-pesticide cultivation, successful in a more than 10 % increase of the product as a whole in spite of unfavorable weather conditions in 2012. The targeted members expected that benefits for farmers' participating in EFLO would be improved as a result of strengthening the benefit sharing mechanism (BSM) and the Village Development Fund (VDF), and thus the number of participating farmers in EFLO increased steadily.

Because these support activities were carried out mainly by C/Ps, the Provincial Agricultural Extension Center (AEC), the District Agricultural Center (AC) and others in the project, the capabilities of the government side were also improved. As FFS manual was prepared and shared during the workshop, it is highly likely to be institutionalized and mainstreamed for agricultural extension services in the future. In order that such a trial will lead to the improvement of farmers' livelihoods in a full-fledged manner, it is necessary to improve not only production technologies but also techniques for financing, processing/storage, certification, distribution, and marketing, and a dissemination and promotion plan for these purposes is to be formulated by the end of the project.

Output 5: Expected to be achieved.

5-1. Issues to be addressed and necessary actions/ interventions to be taken are reported by the project management in Joint Coordinating Committee (JCC) by the end of the Project.

5-2. An action plan with recommendations to the relevant organizations is approved by JCC by the end of the Project.

(1) JCC has been held four times up to now, in which progresses, important issues, and plans related to the project were discussed. After the project was initiated, DPC and the Department of Natural Resources and Environment (DONRE), and the Watershed Management Board (WMB) were added to JCC under the agreement among JCC members. JCC became a platform where important stakeholders gathered, playing a significant role in collaborative management of the buffer zone. It is planned that outcomes and countermeasures of the project to date will be compiled in a shared and shared at JCC by the end of the project (Indicator 5-1).

(2) As seen in Indicators 3-6 and 4-3, an action plan is scheduled to be prepared for further development of CBET, EFLO, and CM before the completion of the project, incorporating lessons

learned, strategies, plans, and recommendations. These plans will be submitted to JCC/policy makers for approval (Indicator 5-2).

Assisted by the project, VDF was established through joint purchasing of fertilizers, in which a community organization responsible for its management and a BSM was established and strengthened. BSM organization is responsible for not only securing the target people's benefits but also ensuring the obligation of natural resources preservation, which represents a concept for fulfilling CM for natural resources through the participation of the public administration (National Park Management Board and local governments) therein. The concept of CM was presented as a methodology of national park management in the project. It is likely before the completion of the project that a statement of mutual agreement will be concluded between communities and the administrative side, and that an action plan incorporating recommendations will be prepared and approved. It is noteworthy that the project has implemented practical processes and means of CM and it is expected that this experience will be shared during national-level workshops, exchange programs, and other events for the application and reflection in national policies.

Project goal: Expected to be achieved.

1. Consensus on collaborative management is built between the target community groups and BNBPNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the project.
2. Policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO are produced.
3. More than 70% of the BNBPNP staff who participate in the Project understands how to implement the model of collaborative management of natural resources in the national park.

(1) A consultation has begun on a draft agreement on natural resource management (a statement of mutual agreement on collaborative management), involving communities, BNBPNPMB, and the Commune People's Committee (CPC). A local consultant has already been hired for this activity, and the preparation of the preliminary draft is expected to be completed by October 2013 (Indicator 1).

(2) A workshop entitled "Toward the Establishment of Collaborative Management in BNBPNP" was conducted in Hanoi in March 2013, in which the concept of and experience in BSM and the CM introduced in the project was presented. The significance of participatory preparation and monitoring of VRs and the foundation of BSM and VDF as well as their challenges was discussed during the workshop. In addition, a project workshop is scheduled to be held on utilizing some of the funds for the "Payment for Forest Ecosystem Services (PFES)" to further increase capitals for VDF by the end of the project, and it is planned that a proposal will be compiled in accordance

with the results of the workshop in Hanoi as well (Indicator 2).

- (3) Over 75 % of BNBPNP staff who participated in the project as project staff or WG members were engaged in project activities related to the collaborative management after understanding how to perform CM model. It was verified from the result of the interview conducted during the period of the terminal evaluation survey that the level of BNBPNP staff's understanding of the collaborative management has been improved (Indicator 3).

Based on the above results, it is expected that the project goal will be achieved after outputs are generally achieved.

The concept and methodology of CM has already gotten to be widespread among target community members through activities such as elaboration and monitoring of VRs and introduction of BSM through community participation, and benefits of natural resource management by the CM are also being recognized through the activities of CBET and EFLO.

A need is recognized for broad discussions on evolving the concept of CM currently discussed through the project from the community-level collaboration as was originally assumed to a wider approach, involving provincial and district level stakeholders including major stakeholders such as PPC, DARD (e.g. AEC, district forestry offices, etc.), DONRE, the Department of Culture, Sport, and Tourism (DOCST), DPC (e.g. AC, Da Nhim WMB), and private organizations and enterprises.

3-2 Summary of evaluation results

(1) Relevance

The relevance of the project is **high**. There have been no major changes in policies and priorities of the Government of Vietnam since the mid-term review in 2011, and there are no changes in the Japan's assistance program for Vietnam. The project deals with the strengthening of national park management and the improvement of livelihoods of forest-dependent communities, mainly ethnic minorities and other socially disadvantaged groups, and thus meets local needs.

(2) Effectiveness

The effectiveness of the project is **high**. CBET is a new concept in the area, and BNBPNP was not previously experienced in promoting it. As it was anticipated from the planning stage of the project that the implementation and promotion of CBET would face the difficulty, its goals were originally set to an achievable level, and indicators for it were set to be realistic. Consequently, it can be determined that set goals (indicators) were largely achieved, and thus there is a high expectation for the project to accomplish its goals. FFS and FFE that were introduced as a part of EFLO contributed to accomplishing goals by means of building capacities of stakeholders effectively, C/Ps in particular. The productivity of target farmers was improved gradually, and if the spread of advanced technologies go on as it is, its long-term effect is expected to come out. It is planned that the concept of CM in national parks will be evolved and consolidated through a variety of project activities and discussions, documented and compiled in policy recommendations and others through more workshops or discussions until the end of

the project. There is the possibility that the statement of mutual agreement on CM may be signed between the communities, BNBNPMB and CPC before the completion of the project, gaining a momentum of making achievements for overall-goal indicators in addition to project goals during the project period. It is expected that the enforcement and monitoring of VRs related to natural resource management will also be enhanced in the future.

Moreover, Output 1 “Development of project implementation system” was a prerequisite for Output 2 to Output 4, and Output 2 “Basic principles and rules on natural resource management in the national park” was the basis for harmonizing Output 3 “Implementation of CBET” and Output 4 “Implementation of EFLO activities” with the conservation of natural resources. And Output 5 “Future challenges and required measures” plans to be clarified and compiled into policy recommendations, based on results of outputs 2, 3, and 4.

It is expected that the capability of BNBNPMB will be improved by attaining these outputs. From the above discussions, the relationship among the five outputs and their causal relationship with the project goals were clear, and thus it is expected that the effectiveness of this project is high.

(3) Efficiency

The efficiency of the project is **high**. Appropriate inputs (dispatch of experts, assignment of C/P staff, budgets for implementing activities, etc.) were provided for the project from both the Vietnamese and Japanese sides in a timely manner, and hence project activities were carried out almost on schedule. It was verified through site visits and others during the terminal evaluation that these inputs were utilized appropriately as a whole, and that granted vehicles, equipment, and facilities have also been maintained and managed properly, all of which have yielded an overall effect. It was confirmed that eight C/P staff participated in the training in Japan, learning related skills and knowledge and utilizing them in their daily services effectively. The use of local experts on ecotourism was initially anticipated in this project, but facing the difficulty in securing them, a third-country expert was introduced by international procurement and then a Japanese short-term expert was dispatched. The efficiency was improved by making effective use of local consultants due to the limited introduction of Japanese experts with regard to the budget.

(4) Impact

No negative impacts were detected in a comprehensive manner, and positive impacts are **moderate**. It is because livelihood improvement activities such as CBET, EFLO, and CM tested in the project need to be further evolved from viable concepts or methodologies to be recognized as a model for continuing activities, after it is demonstrated that resources necessary and sufficient for conservation as well as improvement of people's livelihoods can actually be created from collaborative natural resource management with a view to achieving the overall goal shown in the PDM.

It was determined that the likelihood of achieving the overall goal was moderate at this moment. With regard to Indicator 1 of the overall goal “An agreement is concluded between target community

groups and BNBPNMB on natural resource management in a part of the national park within three years after the completion of the project,” it is likely to be signed ever within the project period ahead of schedule, if its preparation is advanced as currently planned by end of the project.

As for Indicator 2, the situation in which related agencies and communities cooperate with each other effectively and efficiently has been consolidated through introducing the concept of CM, and methodologies and approaches that were developed in the project are expected to be adopted or referred to in other projects. For example, approaches to FFS and FFE are likely to be employed for agricultural extension services of provincial governments. As a result of sharing project experiences in BSM and others with MARD, the Ministry of Natural Resources and Environment (MONRE), and other national park management boards through the workshop that was held in Hanoi in March 2013 and other exchange programs, outcomes of this project on CM, BSM, VDF, VR, etc. have been applied to the protection of special-use forests and the management, utilization and development of buffer zones in other national parks, and the possibility of referring to them in elaborating national policies is also being discussed.

Concerning the continuity of activities for Indicator 3, moreover, the establishment and strengthening of VDF was supported with the approach of turning granted fertilizers into revolving funds, because other mechanisms such as VDF, etc. are required to temporarily accumulate and evenly distribute benefits and resources to inhabitants through the mechanism of BSM. It is expected that the activities introduced by the project will be continued at the target villages, if sufficient benefits are generated for inhabitants through CBET, EFLO, etc., in the future.

It should be noted that EIA was conducted against the plan for implementing CBET including the construction of facilities to verify that they have few negative impacts on the environment, and its operation was started after obtaining an environmental permit by MONRE. It is expected that there were no significantly negative environmental impacts, as the actual construction of the facilities was carried out as planned substantially. As a result of adopting low-pesticide farming methods as part of EFLO by the project, leading to a positive impact on the environment, people’s awareness of environmental protection has been improved. For example, some of them initiated garbage collection along nature trails on a voluntary basis. Apart from it, no short-term negative economic impacts were detected through the introduction of low-pesticide farming methods, but the biodiversity of coffee plantation area and their overall impacts on the environment are unknown.

(5) Sustainability

The sustainability of the project is **high**.

1) Policy and institutional aspects: The system for collecting national park entrance fees was put into force, following the recommendation by the project, and some of the collected fees are to be allocated to maintenance costs of granted materials, equipment, and facilities in the project, which is expected to contribute to the sustainability of project outcomes. A master plan for developing ecotourism for BNBPNP is being developed with the assistance of the Asian Development Bank (ADB), and it has

already been approved by related authorities at the provincial level, after reflecting outcomes of and lessons from the project. A budgetary measure for implementing the master plan can be expected in addition to the availability of CEEE staff that was trained in the project, it can be predicted that project outcomes related to CBET will be evolved continuously after its completion. It is expected that CM mechanism for natural resources will be sustained and evolved institutionally on the basis of the statement of mutual agreement even after the completion of the project.

- 2) Organizational and financial aspects: Organizational capabilities of C/Ps were also improved through providing materials and equipment as well as preparing facilities. CEEE was established as a division of BNNBP, and CEEE operation manual was also developed with the support of the project, which shows a guideline for benefit sharing with inhabitants participating in CBET activities and VDF. A long-term business plan of CEEE is also scheduled to be elaborated through technical assistance by a Japanese expert before the completion of the project, including its marketing strategies. On the other hand, CBET tourism products will have to be further developed in order that more tourists visit the target villages through marketing and tourism promotion. More time and inputs are required to develop a full-scale CBET model at this site.

Introduction of FFS and FFE methods contributed greatly to improving capabilities of inhabitants, WG members and project staff (mostly the staff that have obtained long-term leave of absence from the National Park Management Board with reinstatement to their former position after the project is completed), making a contribution to ensuring the sustainability of project outcomes.

With a view to ensuring the sustainability in terms of budgets, VDF and BSM were introduced to the target villages. It can be said that the sustainability of their mechanisms and funds is high irrespective of the fact that their evolution is not yet certain, as discussed in the item “Impact,” and thus that continuing efforts are required for their further development.

- 3) Technical aspect: The capabilities of the C/P staff were enhanced with the assistance of Japanese experts and local consultants. Furthermore, it is believed that the low-pesticide farming methods introduced in the project will be sustainable environmentally.

3-3 Factors that have contributed to the emergence of effects

- (1) Matters related to planning:

Seeing that the former headquarters of BNNBPMB had been installed in Da Lat City outside the park at the beginning of the project, construction of the new headquarters of BNNBPMB and its related facilities by the Government of Vietnam in the Da Nhim Watershed Area inside the park shortened their distance from the target villages of the project, which created an environment easy to advance project activities.

- (2) Matters related to the implementation process:

The target villages of this project are the villages located in the buffer zone outside the national park, where land ownership rights belonged to WMB, but BNNBPMB could implement activities of CBET

and EFLO directly for the target villages, because there was a legal basis for which BNBPNPMB could provide their administrative services not only inside the national park (in the core zone) but also outside there (in the buffer zone).

In addition, the implementation process of the project as a whole was generally appropriate, in which JCC was functioning properly, playing its role in coordination among related agencies. The project was implemented by proper communications among related parties including the Japanese experts on a regular basis and attaining their understanding of community participation adequately.

3-4 Factors that induced problems and issues

(1) Matters related to planning:

WMB (owning land use rights in the buffer zone) under PPC and the Tourism, Trade and Investment Promotion Center (TIPC) were not positioned as C/P agencies in the official document (R/D), and so their commitment was not sufficient to the project, but efforts were made to mitigate negative impacts not to become significant by inviting them to meetings with project staff or other stakeholders and sharing information with them.

(2) Matters related to the implementation process: None specifically.

3-5 Conclusions

This project is generally expected to achieve its goals set by their indicators, contributing significantly to improving the capacities of the target villages and related agencies for implementing CM in the national park through training programs, study tours, workshops, and expert guidance. The project has introduced the advanced CBET, agricultural extension techniques (FFS/FFE), CM mechanism for natural resources, BSM, VDF, etc., compiling viable concepts and methodologies while making trials and errors at the field level. Infrastructure development and provision of materials and equipment also contributed to improving the organizational capacity of BNBPNPMB.

These outcomes were attained through the proper implementation process and organizational structure/system, in which experts, C/Ps, and other stakeholders worked together by facilitating communications with the help of mechanisms such as WGs and the Joint Coordinating Committee. Community participation was emphasized, and implementation of project activities and decision making were performed by involving related agencies and authorities.

As seen in the above summary of evaluation results, the project was highly praised for all of the five items of evaluation except for the impact, and the project goal was largely achieved, and thus it was decided that the project would be terminated as scheduled.

3-6 Recommendations (specific measures, proposals, and advice relating to the project)

Recommendations are made as follows, based on the evaluation results in 3-1 through 3-4 described above.

[For the Vietnam side (after the completion of the project)]

- 1) CEEE will have to further develop tourism products for the ecotourism through communities' active participation and more involvement of tour operators after the completion of the project. In parallel, BNBPNMB should continue the capacity building of CBET groups and CEEE staff during the development of management methods for CBET activities at the villages. It is necessary to involve tour operators in product development to enhance the marketing and promotion. Given that the potential for cultural and natural tourism is limited at the target villages, CBET should be promoted through the development of agro-tourism and "educational tourism" intended for schools.
- 2) The National Park Management Board should continue the strengthening of the benefit sharing mechanism network (BSMNV) and its management team as well as VDF after the completion of the project. Based on this reinforced mechanism, EFLO groups at the villages should be developed as bodies such as cooperatives in order to achieve the following items 1) to 6): 1) Improvement of the quantity and quality of agricultural products; 2) diversification of products; 3) Avoidance of risk (purchase of agricultural insurance products); 4) joint marketing; 5) certification; and 6) value addition. These will allow the introduction of more funds by BSM and VDF as a whole system.
- 3) The National Park Management Board should reflect lessons and recommendations from the project in the national park management plans as well as plans and strategies related to the tourism for the next fiscal years.
- 4) Only the small portion of present beneficiaries of EFLO own farmland granted the formal land use right (so-called the *Red Book*). As for the present land that is already under cultivation, land tenure rights and resource use rights of inhabitants who do not have the *Red Book* are guaranteed by VRs, but the authority of land management belongs to WMB. Development of specific management rules will be required for cultivated land without the *Red Book* in order to ensure the sustainability of EFLO activities utilizing such land.

[For the Japanese side]

- 1) JICA should continue to monitor the further evolution of project outcomes by the experts (forest program advisors) and maintain dialogues with Vietnamese authorities on the improvement of BNBPN and other national parks as well as further assistance.

3-7 Lessons learned (matters that will be helpful for exploration/formation, implementation and operational management of other similar projects, derived from the project)

- 1) CM is a new approach to natural resource management in Vietnam. VR and BSM are essential elements to support CM. Establishment of VDF and BSM network is important to support communities for performing CM. Considering that natural resource management involves a wide range and a large number of stakeholders, it is necessary to create and reinforce a mechanism of natural resource management through the collaboration among a broader range of related organizations, not only the

cooperation between national park offices and communities. It is preferable to identify stakeholders/participants of such mechanisms/platforms carefully from the planning stage.

- 2) This kind of platform of collaboration requires institutional and policy-level backstopping by the state. Also in order to functionalize a platform among related organizations, the following steps would be desirable: 1) First clarify objectives of the platform; 2) share it with related organizations; and 3) indicate that the platform actually generates benefits (creates incentives).
- 3) When livelihood improvement programs are planned, it is significant to set achievable goals in view of given periods and resources for them. When CBET is a new concept at project sites, for example, a lot of time will be required to develop it. In addition, it is vital to put an appropriate project implementation system in place to bring out communities' independence, and it would be preferable to ensure sufficient time, budgets and experts at the planning stage.

第1章 評価の概要

1-1 背景

世界的にも生物多様性が豊かなベトナム社会主義共和国（以下、「ベトナム」と記す）において、自然保護区の核となる国立公園の管理能力向上は、その貴重な生物多様性を保全する上で不可欠となる課題である。ベトナム政府は、2003年に保護区管理のあり方を示す『国家保護区管理戦略2010』を策定するなど、国立公園を中核に、生物多様性保全のための具体的な施策を実施している。しかしながら、技術支援や資金の不足のため適切な公園管理の実現には至ったとは言えない。その結果、国立公園の生物多様性は公園内や公園の周囲にすむ人々のさまざまな活動によって劣化している。

BNBNPは、ベトナムラムドン省の北東部に位置し、総面積7万38haと、国内で有数の大きな保護区である。1986年に自然保護区として指定された後、2004年に国立公園に昇格した。国立公園は、典型的な山岳常緑熱帯雨林、針広混合樹林帯、高山矮林、低山亜熱帯針葉樹林、竹広葉樹混合林などの亜熱帯高山気候の典型的な森林生態系を擁し、96の固有種を含む1,933種の植物と32の絶滅危惧種を含む422種の動物が生息している。BNBNPの内部と周辺に、約5,000世帯（約2万6,000人）の住民が生活しており、その多くが少数民族に属し伝統的な農業により生計を立てている。1世帯当たりの農業用地は狭く、加えて農業生産性が低いために、住民の貧困率は29%を超えると言われている。こうした貧困を背景に、森林の農地転用（コーヒー栽培の拡大による住民の同公園内森林への侵入）、野生動物の狩猟、違法伐採、焼畑を原因とした森林火災等が現在も続いており、同公園の生物多様性は脅威にさらされている。これらの課題に対処するため、ベトナム政府は技術協力をわが国に要請した。これを受けて、国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）は2008年12月、詳細計画策定のための調査を行い、調査結果に基づき、2009年9月24日、ハノイでベトナム政府との間で「ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト」実施のための討議議事録（Record of Discussion：R/D）に署名した。ラムドン省人民委員会（Provincial People’s Committee：PPC）及びビズップ・ヌイバ国立公園管理事務所（Bidoup-Nui Ba National Park Management Board：BNBNPMB）の両機関をカウンターパート（Counterpart：C/P）機関として、2010年から4年間の予定で本プロジェクトを開始した。

2013年12月の事業終了まで残り6カ月近くとなったため、2013年6月に終了時評価を実施することとなった。

1-2 プロジェクトの概要

プロジェクトの概要は、2011年12月の省運営委員会（Provincial Steering Committee：PSC）で承認されたプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix：PDM）バージョン03（添付資料01「Minutes of Meetings及びJoint Terminal Evaluation Report」の別添資料01）にある。その要約は表1のとおりである。

表 1 PDM 要約

項目	概要
案件名	ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト
事業期間	2010年1月から2013年12月
ターゲット地域	ビズップ・ヌイバ国立公園（BNBNP）の境界線に隣接する5村落
対象者	BNBNPMB、ラムドン省農業農村開発局（DARD）、対象5村落
上位目標	BNBNPMBが、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。
プロジェクト目標	BNBNPMBの国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理（CM）モデルの開発を通じて強化される。
成果	<p>プロジェクトで導入する2つのコンポーネント〔住民主導型エコツーリズム（CBET）と環境保全型生計向上手段（EFLO）〕を運営する実施体制が構築される。</p> <p>公園の自然資源管理にかかわる原則及び基本的なルールが、対象村落住民とBNBNPMBとの間で合意される。</p> <p>選定された地区においてCBETのモデル事業が試験的に実施される。</p> <p>対象住民グループが受け入れられるEFLOが開発され、村落内で普及される準備が整う。</p> <p>住民グループがプロジェクトで導入したCBETとEFLOを継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。</p>

1-3 合同終了時評価の目的

今回の日越合同による終了時評価の目的は以下のとおりである。

- (1) 事業計画時及び中間レビュー時点での計画と比較して、本プロジェクトの投入実績・活動の進捗状況等実施プロセス・管理方法を確認する。
- (2) 効果発現に貢献した要因、問題点及び問題を惹起した要因を確認する。
- (3) JICA 事業評価ガイドライン（改訂版）に基づき、評価5項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、持続性）及び横断的視点（政策、技術、環境、社会・文化、組織制度・管理運営、経済・財政）からプロジェクトを評価する。
- (4) 評価結果をもとに、プロジェクトに関して事業の残り期間及び終了後に取りべきべき対策を提言する。
- (5) 他の類似案件の発掘・形成、実施、運営管理に参考となる教訓を抽出する。

1-4 評価団員

1-4-1 日本側

氏名	担当業務	所属・職位
長谷川 基裕	総括	JICA 国際協力専門員
田中 英二	公園管理行政	環境省九州地方環境事務所野生生物課長
平 知子	協力企画/ 援助戦略	JICA 地球環境部森林・自然環境保全第一課企画役
辻 新一郎	評価分析	日本工営株式会社環境技術部参事

1-4-2 ベトナム側

氏名	担当業務	所属・職位
Ngo Tien Dung 博士	総括	ベトナム農業農村開発省 (MARD) 自然保全局副局長
Bui Viet Hai 博士	EFLO	Nong Lam 大学林学部教授
Le Quang Thong 博士	CBET	Nong Lam 大学経済学部教授

1-5 評価手法とスケジュール

- (1) R/Dに基づき、先方政府との合同評価とした。日本側とベトナム側で合同評価団メンバーを選定し、役割と責任を協議して決定した。
- (2) 評価グリッド(添付資料 01 の別添資料 02)を作成し、評価項目を特定するとともに、資料レビュー(収集資料リストは添付資料 02)や質問票による聞き取り調査、現地視察・目視など、評価項目ごとの評価手法を決定した。グリッドを基に質問票を作成した。質問票による聞き取り結果概要は添付資料 03にある。
- (3) プロジェクトの実績を分析し、表 2 の評価 5 項目を基に評価を実施した。

表 2 評価 5 項目

評価 5 項目	説明
妥当性	開発援助と、ターゲットグループ・相手国・ドナーの優先度並びに政策・方針との整合性の度合い。
有効性	開発援助の目標の達成度合いを測る尺度。
効率性	インプットに対する成果(定性並びに定量的)を計測する。開発援助が期待される結果を達成のために最もコストのかからない資源を使っていることを示す経済用語。最も効率的なプロセスが採用されたかを確認するため、通常、ほかのアプローチとの比較を必要とする。
インパクト	開発援助によって直接または間接的に、意図的または意図せずに生じる、正・負の変化。開発援助が、地域社会・経済・環境並びにその他の開発の指標にもたらす主要な影響や効果を含む。
持続性	ドナーによる支援が終了しても、開発援助による便益が継続するかを測る。開発援助は、環境面でも財政面でも持続可能でなければならない。

- (4) 現地調査期間中、合同評価団は添付資料 04にある面談者と協議を行った(協議議事録は添付資料 05)。合同評価団は、英文の合同評価報告書を作成し、日本側及びベトナム側の総括が署名した。報告書は、プロジェクトの PSC に提出され、委員長(PPC の副議長)が受入れた。

- (5) 日本側評価団メンバーは、2013年6月12日に現地へ派遣され、6月28日まで滞在した。評価団のスケジュールは添付資料 01 の ANNEX03 のとおりである。

第2章 プロジェクトの実績

2-1 投入の実績

日本側及びベトナム側の投入実績に関する評価結果概要は、表3のとおりである。

表3 評価結果概要

投入	評価結果
<p>日本側：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 日本人専門家 • ローカルコンサルタント • 資機材供与、車両等供与、施設建設 • プロジェクト活動費の一部負担 • 研修やセミナー費の負担 • 本邦研修 	<p>日本人長期専門家としては、チーフ・テクニカル・アドバイザー（CTA）/協働管理を合計 41.60MM、業務調整/農村開発を合計 24.00MM、業務調整/エコツーリズムを合計 23.00MM 派遣した（添付資料 01 の別添資料 04）。さらに、2.97MM のエコツーリズム短期専門家を派遣し、2013 年 7 月から 1.00MM 追加派遣する予定である。エコツーリズム短期専門家はより早期の派遣が望まれたが、全般的に、専門家による技術支援は、事業実施に適正に活用されて成果を上げた。</p> <p>日本人専門家の投入が限られていたため、日本人専門家に加え、現地の人的リソースを有効に活用し、効率的に事業を実施した（添付資料 01 の別添資料 05）。BNBNPMB 職員が長期休職し、プロジェクト職員として雇用された（添付資料 01 の別添資料 06）。</p> <p>添付資料 01 の別添資料 07 のとおり、ベトナム側に適時必要な資機材が供与され、添付資料 01 の別添資料 08 のとおり、必要な施設が建設された。施設の建設はおおむね計画どおりに完了した。一部の供与資機材に損傷・紛失があり、修理・交換が必要となっているものの、供与資機材や施設は全般的におおむね適切に利用され、維持管理されていることが確認された。資機材や施設の設置場所や仕様などは、その目的におおむね沿っている。</p> <p>添付資料 01 の別添資料 09 にあるとおり、日本側は事業活動に必要な予算を毎年拠出した。プロジェクトの主要な成果品は添付資料 01 の別添資料 10 にある。</p> <p>プロジェクトは数多くの研修（添付資料 01 の別添資料 11）と視察旅行（添付資料 01 の別添資料 12）を実施し、セミナー（添付資料 01 の別添資料 13）を開催した。</p> <p>8 名の C/P が本邦研修に参加し、習得した知識や技術は彼らの業務に活用されている（添付資料 01 の別添資料 14）。</p>
<p>ベトナム側：</p> <ul style="list-style-type: none"> • C/P 職員の提供と付随する経費 • プロジェクト執務室の提供とその他 	<p>27 名の C/P 職員が BNBNPMB から適時に提供され、うち 17 名が現在プロジェクトに従事している（添付資料 01 の別添資料 15）。</p> <p>事業開始後、PPC はプロジェクト管理事務所設立に関する決定を行い、BNBNPMB から必要な人材を派遣して事業実施管理を行った。</p> <p>ベトナム政府予算から C/P 資金を拠出して、C/P 職員の日当や旅費、その</p>

投入	評価結果
の事務費用の負担 ・プロジェクト活動費の一部負担	他の運営費用を負担した。 BNBPNPMB の庁舎内に適切なプロジェクト執務室が準備され、光熱費やその他の事務所運営費をベトナム側が負担した。 添付資料 01 の別添資料 16 にあるとおり、合同調整委員会（JCC）の決定に従ってベトナム側は C/P 予算を拠出し、R/D にあるとおりにプロジェクトの必要経費を負担した。

2-2 活動の実績

2011 年の合同中間レビューで、計画されていた活動がレビューされ、活動計画（Plan of Operations : PO）が改訂・承認された（添付資料 01 の別添資料 17）。終了時評価では、改訂 PO と実際の事業活動を比較した結果、大きな齟齬や問題がなく、活動が実施されたことを確認した。

2-3 成果の実績

PDM バージョン 03 にある成果毎の指標に基づき、プロジェクトの実績を評価した。

2-3-1 成果 1 の実績

成果 1：プロジェクトで導入する 2 つのコンポーネント（CBET と EFLO）を運営する実施体制が構築される。

達成度：達成された。

指標	主たる実績
1-1. WG がプロジェクト開始 3 カ月以内に組織される。 評価結果：達成された。	事業が開始して 3 カ月以内に、CBET と EFLO に関する 2 つの作業グループ（WG）が形成された。のちに、協働管理を担う便益共有メカニズム（BSM）に関する WG が追加形成された。全体として、これらの WG は効果的に機能した。 これらの WG は、関係機関間調整や協働の場としての機能を担うことが期待されていたが、事業実施を直接担う WG の活動に対して、メンバーが多く時間と労力を費やす必要があったため、BNBNPMB 以外の組織から参加していた WG メンバーの参加が困難となり、徐々に、BNBNPMB 職員のみが WG グループのメンバーとなった。関係機関間調整・協働の役割は、JCC が担った。
1-2. WG メンバーの能力がプロジェクトによる一連の研修で強化される。 評価結果：達成された。	2013 年 4 月に各専門家が質問票、インタビュー等により、①CBET WG メンバー（8 名）に対してはコミュニケーション技術、エコツアーガイド技術、自然解説技術等について、②EFLO WG メンバー（5 名）に対してはファシリテーション技術について 5 段階評価（Excellent、Very good、Good、Average、Not good）を行った。その結果、研修や専門家による実施訓練などを通じて、①CBET WG メンバーについてはすべての項目について対象者が Average あるいは Good と評価され、②EFLO WG メンバ

指標	主たる実績
	<p>一については、ほとんどすべての項目について対象者が Very Good あるいは Good と評価され、WG メンバーの能力が向上したことが確認された。</p> <p>さらに終了時評価での聞き取り調査により、WG メンバーの能力向上が十分に達成されていることを確認した。</p>

2-3-2 成果2の実績

成果2:公園の自然資源管理にかかわる原則及び基本的なルールが、対象村落住民と BNBPNMB との間で合意される。

達成度:達成された。

指標	主たる実績
<p>2-1. 対象村落の基本情報が参加型手法で収集され、プロジェクト開始から9カ月以内にとりまとめられる。</p> <p>評価結果:達成された。</p>	<p>事業開始当初、対象住民の社会経済状況や、対象村における生計活動、地域における自然資源管理状況などを把握するために、社会経済ベースライン調査と参加型農村調査(PRA)を実施した。同結果によりプロジェクト開始9カ月以内に対象村落の現状に関する重要な理解と知見を事業関係者が得た。これらの調査結果は対象村落におけるEFLOやCBETの住民グループ形成や、PO策定時にも活用した。</p>
<p>2-2. 公園内における自然資源利用の原則と規則がプロジェクト開始後15カ月以内に、参加型で定められる。</p> <p>評価結果:達成された。</p>	<p>プロジェクトが雇用した現地コンサルタントの支援により、2011年3月(プロジェクト開始後15カ月目)に、5つの対象村落で自然資源利用に関する村落規則(VR)の案を作成した。ラクウン郡人民委員会(DPC)に案を提出し、精査の結果、2011年10月に一部原案を改訂し、11月に正式に承認された。VRをコホ族の言語に翻訳し、対象村の住民に配布した。</p> <p>事業開始前には、当局により郡内のほとんどすべての村で既にVRが作成されていたが、VRの執行をより強化するために、参加型によるVR策定の代替方法をプロジェクトが例示・実施した。</p> <p>村落レベルでは、村落規則管理チーム(VRMT)がVRの執行を担っており、VRの順守と執行のモニタリングを強化するために、便益共有メカニズムネットワーク(BSMNW)と村落開発基金(VDF)を設立したうえで、効果的で持続的な制度化されたVR執行のために、VRMTと便益共有メカニズム管理チーム(BSMMT)を統合し、CM管理チーム(CMMT)とし、コミュニン人民委員会(CPC)の関与をより強めた。こうした体制整備と並行して、BSMとVDFをさらに強化して住民の保全インセンティブを創造すれば、BSM参加者とBNBNPMB職員、CPC職員の協働により、VRは適切に執行され、緊密にモニターされることが期待される。</p> <p>プロジェクトの支援により、地理情報システム(GIS)の技術を活用して、作物パターンの変化に関する試験的なモニタリングを実施した。モニタリングの結果によると、標本数が少なく、差異も小さいものの2010年から2013年にかけて、BNBNPとダ・ニム流域管理事務所(WMB)の管轄下にある森林への不法開墾面積は、プロジェクト受益者が非受益者よりも少なくなる傾向があった。</p>

2-3-3 成果3の実績

成果3：選定された地区においてCBETのモデル事業が試験的に実施される。

達成度：プロジェクト期間内に達成される見込みである。

指標	主たる実績
<p>3-1. CBET の選択地での実施計画がプロジェクト開始後15カ月以内に策定される。</p> <p>評価結果：時期は遅れたが達成された（プロジェクト開始17カ月後）。</p>	<p>プロジェクトが雇用した現地コンサルタントの支援により、CBET 実施計画が策定され、2011年5月（プロジェクト17カ月目）に対象村代表者に発表された。さらに、対象地域のCBET開発のためのインフラストラクチャー整備計画を2011年6月に作成した。</p> <p>CBET実施計画に対して、環境影響評価（EIA）を実施し、報告書を作成して、2012年3月に天然資源環境省（MONRE）に提出した。EIAは当局により承認された。</p> <p>国立公園への観光客数が伸び悩んでいることを受けて、2012年9月に、新しいマーケティングの方向性を提案した。学生を対象にした教育観光・自然解説や、コホ族の文化を観光商品としたマーケティングに注力することとした。</p>
<p>3-2. 対象村落内の世帯の5%以上が、収入を得ながらCBETに参加する。</p> <p>評価結果：達成された。</p>	<p>プロジェクト期間において全667世帯のうち、約7%にあたる47世帯がCBET活動に参加した。一方、国立公園に訪問する観光客がまだ少ないため、住民が所得を得る機会も少なく、わずかな収入を得ながらのCBET参加となっている。また、CBET活動に参加する住民の数は減少傾向にある。</p> <p>当地では、CBETの概念がほとんど知られていなかったため、プロジェクトで振興した観光活動は、BNBNPMB/エコツーリズム環境教育センター（CEEE）主導型の面もあり、必ずしもCBETに分類されるものだけではなかったが、現況の中で住民参加を促すために、国立公園訪問者のためにガイド・自然解説者やその他のサービス提供者として住民を積極的に雇用した。</p>
<p>3-3. BNBPNPMBと覚書を交わした観光業者少なくとも15社がCBET活動に参加する。</p> <p>評価結果：達成された。</p>	<p>CEEEやその他の関係機関の支援により、17の観光業者（TO）がCEEEとの間に覚書を交わし、マーケティングの面からCBET活動に参加した。</p> <p>プロジェクトでは、観光業者を通じて教育のための観光目的地として国立公園を活用し、18の学校から38の団体を呼び込み、合計2,033名の学生が公園を訪問した。</p>
<p>3-4. CBETモデルの試験的実施のための組織とインフラストラクチャーの整備が、プロジ</p>	<p>CBETモデルの試験的実施のための組織として、省人民委員会の承認により2011年4月（16カ月目）にCEEEが設立され、CEEEの能力向上をプロジェクトは支援した。プロジェクトは、CBETWGやCEEE、CBET住民組織など、CBET振興に必要な組織の整備や強化を行い、CEEEの</p>

指標	主たる実績
<p>エクト開始後、それぞれ 18 カ月以内、28 カ月以内になされる。</p> <p>評価結果：達成された。</p>	<p>能力が強化されていることを終了時評価で確認した。また、プロジェクトでは、CEEE 運用マニュアル作成を支援し、2012 年 7 月に BNBPNPMB によって正式承認された。</p> <p>エコツーリズム活動展開に必要な基本的なインフラストラクチャーとして、ビジターセンターの建設、ティエンタイ及びランビエントレイルの整備が 24 カ月以内に完了した。</p> <p>2013 年 9 月までには、3 つの自然遊歩道の更なる整備（トイレや吊り橋、階段、標識などの整備）が完了する予定である。</p>
<p>3-5. 来訪者の 50% 以上が CBET モデルに満足している。</p> <p>評価結果：達成された。</p>	<p>2012 年に実施した、国立公園訪問者に対するアンケート調査によると、87%の観光客が CBET 試験的实施（トレッキングのインタープリテーション、ゴング民族舞踊、伝統的織物体験等）の内容に満足している。</p>
<p>3-6. 試験的実施の評価に基づいた教訓と提言が関係者に共有される。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>CBET の試験的実施のレビューを基に、2013 年 8 月に日本人専門家の支援を通じて、CEEE の包括的ビジネス計画策定を支援する予定である。プロジェクトは評価ワークショップをプロジェクト終了前に実施する計画で、対象地域の継続的な CBET 開発に有用な教訓を引き出す予定である。</p>

2-3-4 成果 4 の実績

成果 4：対象住民グループが受入れられる EFLO が開発され、村落内で普及される準備が整う。
達成度：達成される見込みである。

指標	主たる実績
<p>4-1. 住民グループの 70 % 以上が少なくとも 1 つの EFLO 活動を採用し、EFLO の参加者の 50%以上が生産量を増加、あるいは付加価値を付ける。</p> <p>評価結果：達成された。</p>	<p>現地コンサルタントが実施したベースライン調査と PRA を通じて、対象村の課題や問題点が浮き彫りになり、住民のニーズを把握した。地域の主要農産物の 1 つであるコーヒー豆の生産に関する技術的な問題点を特定し、地域住民との度重なる協議の結果、環境保全型コーヒー生産を主要な EFLO 活動として選定した。</p> <p>プロジェクトに関する説明会や協議会などを通じて、事前に決められた選定基準を基に、関心のある先進農家を住民自身が選定した。</p> <p>事業参加農民の農業技術を改善するために、プロジェクトでは「農民学校（FFS）」の方法論を採用した。また、技術情報を広めるために「農家間普及（FFE）」の手法を採用した。全 667 世帯のうち、300 世帯以上が EFLO 活動に参加した。</p> <p>2012 年 12 月にプロジェクトが実施した調査によると、EFLO 参加者の</p>

指標	主たる実績
	<p>82%が、EFLO の先進的な農業技術を採用しており、その年は悪天候であったにもかかわらず、過半数の参加者がコーヒーの生産量を増加させていた。EFLO 参加農民の生産量は、非参加者よりも 10%ほど高かった。</p> <p>BSM と VDF が強化されるに従い、EFLO 参加農民の便益は向上することを住民が期待し、EFLO 参加農民の数は順調に増加した。VR の執行や協働管理の強化につながる事が期待される。</p>
<p>4-2. 試験的実施の評価に基づいた教訓と提言が関係者に共有される。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>2013 年にハノイで実施されたワークショップ「BNBNP における協働管理の構築に向けて」において、コーヒー生産の FFS マニュアルや、FFS 実施の教訓などを取りまとめた文書が共有された。さらに、事業終了までに地元で EFLO の評価ワークショップを実施予定で、更なる教訓や提言が地元関係者の間で共有される見込みである。</p>
<p>4-3. EFLO を村落内と他の村落に普及・促進する計画が策定される。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>ファシリテーション技術や農業技術、営農技術などを含む、コーヒー生産のための FFS マニュアルを開発した。また、訓練された農民からほかの農民へ技術を広めるために、FFE の手法を採用した。</p> <p>省農業普及センター（AEC）と郡農業センター（AC）などの関係機関が、プロジェクトで導入した FFS や FFE を農業普及の手法として採用するように政府に提案している。コストを削減するために、研修トピックに優先順位づけをするなどの工夫を行い、本来の FFS よりもセッション数を減らす計画である。</p> <p>プロジェクトでは事業終了までに、EFLO の普及・促進計画を策定する予定である。</p>

2-3-5 成果5の実績

成果5：住民グループがプロジェクトで導入した CBET と EFLO を継続するために対応すべき課題と必要な活動が明らかとなる。

達成度：達成される見込みである。

指標	主たる実績
<p>5-1. プロジェクト期間終了までにプロジェクト管理者が JCC において課題と対応方針を明確にして報告書にとりまとめる。</p> <p>評価結果：達成される</p>	<p>これまで JCC は 4 回開催され、プロジェクトに関する重要な課題や進捗、対応方針、計画が協議された。事業開始後、JCC メンバーの合意のもと、DPC や天然資源局（DONRE）、WMB が JCC に加えられた。JCC は、重要な関係者が集う場となり、緩衝地帯の協働管理のために重要な役割を果たした。</p> <p>JCC メンバーのうち、省レベルのメンバーによって PSC が形成された。PSC 会合は、中間レビューの協議議事録署名時に 1 回開催されただけであるが、メンバー間の調整などは、プロジェクトディレクターや CTA な</p>

指標	主たる実績
見込みである。	どが、定期的に機関ごと個別に調整した。 プロジェクト終了時まででこれまでのプロジェクトの成果と今後の対応方針について報告書にとりまとめ JCC において報告を予定している。
5-2. プロジェクト期間終了までに関係機関への提言を盛り込んだ行動計画書が策定され JCC に承認される。 評価結果：達成される見込みである。	指標の 3-6 と 4-3 にあるとおり、CBET や EFLO、CM の更なる開発のために、事業終了までに教訓や戦略、計画、提言を盛り込んだ行動計画書を作成する予定である。これらの計画は、JCC/政策決定者に提出する予定である。

2-4 プロジェクト目標の実績

プロジェクト目標：BNBNPMB の国立公園における自然資源管理能力が対象村落での協働管理モデルの開発を通じて強化される。

達成度：達成される見込みである。

指標	主な実績
1. 対象住民グループと BNBNPMB の間で協働の合意がなされ、国立公園内の一部における自然資源管理の協定の草案がプロジェクト終了までに作成される。 評価結果：達成される見込みである。	プロジェクトでは、住民自身の問題意識とニーズが反映されるよう、参加型の詳細 VR 策定・執行プロセスを導入した。このプロセスにより、VR 策定過程に対する住民の参加を強化することの重要性を行政に認識してもらい、従来の策定プロセスの代替策となることを示した。 協働管理合意書の下書きに関する協議は、コミュニティと BNBNPMB、CPC を巻き込みながら始まっている。この活動のために、現地コンサルタントを既に雇用し、2013 年 6 月（終了時評価時）時点において作業を進めており、2013 年 10 月までに素案作成を完了する見込みである。参加型 VR 策定や BSM 導入などを通じて、協働管理の概念は既に住民に浸透しつつあり、CBET や EFLO の活動を通じて、協働管理による便益も認識されつつあるため、事業終了までに、コミュニティと BNBNPMB、CPC の 3 者間で合意書が締結される可能性もある。これは、本来は事業終了後に達成する上位目標のターゲットであり、達成できれば顕著な成果となる。
2. VR、CBET、EFLO の活動を含む協働管理の継続実施を担保するための州政府向け政策提言が取りまとめられる。	現在プロジェクトを通じて議論されている協働管理の概念では、もともと想定していたコミュニティレベルの協働からさらに発展し、PPC や DARD（例えば AEC や郡営林署など）、DONRE、文化スポーツ観光局（DOCST）、DPC（例えば AC や WMB）、民間組織・企業などの省や郡レベルのステークホルダーを巻き込む必要性が認識されている。 2013 年 3 月に、ハノイで「BNBNP における協働管理構築に向けて」

指標	主な実績
評価結果：達成される見込みである。	<p>と題したワークショップを実施し、プロジェクトで導入した BSM の概念を発表した。ワークショップでは、参加型による VR 作成・モニタリングの重要性や、BSM と VDF の創始などが協議され、課題についても議論が行われた。</p> <p>また、プロジェクトでは、事業終了までに、VDF をさらに増資するために「森林生態系サービスに対する支払い（PFES）」の資金の一部を活用することに関するワークショップを開催する予定であり、ハノイでのワークショップの結果もふまえて提案書をまとめる予定である。</p>
<p>3. プロジェクト活動に携わる BNBPNP スタッフの 70% 以上が国立公園における自然資源の協働管理（CM）モデルの実施方法を理解している。</p> <p>評価結果：達成した。</p>	<p>中間レビューでの提言を受けて、BSM WG が形成され、現地コンサルタントが WG の活動を支援し、WG の能力が向上した。</p> <p>プロジェクトスタッフあるいは WG メンバーとしてプロジェクトに参加した BNBPNP 職員（160 名）に対し、質問票、インタビュー及びそれまでの活動状況を総合的に評価（3 段階；高い、平均、低い）した結果、75%以上が平均的あるいはそれ以上の CM に関する概念的、実践的理解があるものと評価された。終了時評価調査期間中に実施した聞き取り調査の結果、それらの BNBPNPMB 職員の協働管理に関する理解度が深まっていることが確認された。</p>

2-5 上位目標の実績

上位目標：BNBPNPMB が、対象村落の住民と協働して、国立公園の一部の自然資源管理を行う能力を身につけている。

達成度（見込み）：中程度に達成が見込まれる。

指標	主な実績
<p>1. プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民グループと BNBPNPMB の間で、国立公園内の一部における自然資源管理の協定が結ばれる。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>プロジェクト目標の指標 1 にあるとおり、対象コミュニティと BNBPNPMB、CPC の間の自然資源管理協定の素案作成が開始されており、プロジェクト終了までに草案が作成される見込みである。このまま順調に進んだ場合には前倒しでプロジェクト期間内にも同協定が結ばれる可能性が高い状況であることから、本指標は達成される見込みと判断した。</p>
<p>2.(プロジェクト目標指標 2 の) 対象住民グループと BNBPNPMB が国立公園内の一部における自然資源管理を協働</p>	<p>MARD は、国立公園内の特別利用林の管理や保護、開発、利用などのための BSM の試験的政策を、ベトナム国の 2 カ所の国立公園で実施し、他の国立公園にも拡張する予定である。プロジェクトでは、事業終了までに、プロジェクトの経験をもとに BSM や協働管理に関する教訓や戦略、計画、提言を盛り込んだ行動計画書を作成し、JCC/政策決定者に提</p>

指標	主な実績
<p>で行うために必要な政策提言が州政府文書（省令、ガイドライン、計画等）に反映される。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>出する予定である。同行動計画書は、現在作成が準備されている国家政策に参考とされる見込みであることから、本指標についても達成される見込みであると判断した。</p>
<p>3. 対象村落がプロジェクトによって導入された活動を継続している。</p> <p>評価結果：達成される見込みである。</p>	<p>プロジェクト終了後、EFLO WG と BSM WG メンバーの一部は BNNPMB 所轄の熱帯高地生態系研究国際センター（ICTHER）に異動となり、WG の機能の一部が ICTHER へ移行・統合する予定である。これにより、ICTHER が継続して EFLO の更なる発展と協働管理合意書の実施を担うことになる。また、プロジェクトで作成を支援した CEEE 運用マニュアルを基に、事業終了後も CEEE が CBET 活動の継続と更なる発展を担っていくことになっている。</p> <p>プロジェクト終了後、自然資源管理協定の内容が継続的に実施されるために、VR 遵守に合意した住民を構成員とした BSMNW と BSMNT を形成した。また、VDF 設立と強化は、自然資源管理に必要な財源を捻出し、資源に依存している住民との間で便益を共有しながら合意書を遵守するために重要であることから、VDF を設立の上、それを管理する BSMNT や BSMNW のメンバーを民主的に選出した。プロジェクトでは、会計や VDF 管理などに関する研修を実施し、BSMNT メンバーの能力向上を支援した。</p> <p>対象村落がプロジェクトによって導入された活動を継続するためには、BSM の仕組みを通じて、便益や資源をいったん蓄積し、住民へ平等に分配するための VDF などの仕組みが重要であるため、プロジェクトでは供与肥料の売上金を回転資金とした。CBET 活動からの便益も、一部 VDF に還元されている。終了時評価時点で、それぞれの対象村がおおよそ昨年度肥料により 8,000 万ドン（約 40 万円）を VDF に蓄積し、更に今年度肥料により 8,000 万ドンが蓄積される予定である。VDF は BSMNT と BSMNW の管理のもと、小規模融資活動に活用されている。VDF の資金はまだ小さいが、プロジェクト終了後も CBET や EFLO 等からの原資を蓄積しながら融資活動の継続が見込まれる。これらのことから、指標については達成される見込みであると判断した。</p>

2-6 事業対象地

事業開始前に、5 つの対象村落が選定されていたが、ダ・チャイ・コミュニティ内の 3 つの村落は、アジア開発銀行（Asian Development Bank : ADB）の資金を活用し、「中央高地生計向上の森

プロジェクト（Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands : FLITCH）の対象となっており、2重支援を避けるために変更する必要があった。BNBNPMBとCPCと協議の上、事業開始後すぐに3つの代替村落が選定された。その結果、5つのすべての村落が、WMBが林地権を管理する国立公園外の緩衝地帯に位置することとなった。WMBとBNBNPMBが管理する林地の中には、レッドブック（個人の土地占有権を公式に保障する土地登記簿的なもの）なしで長期間耕作されている地域もある。緩衝地帯内の保護林における法執行は、郡営林署が、その他の林地は郡天然資源事務所が権利と義務を持っている。また、対象村落では、少数部族の伝統的な生活様式はほとんど失われており、CBET商品としての潜在性が低かった。

2-7 プロジェクト実施プロセスと枠組み

2-7-1 プロジェクトスタッフと関係者間の意思疎通と調整、資料化と報告

プロジェクトディレクター、プロジェクトマネージャー、会計士、農村開発職員、秘書を構成員とし、事業開始直後にプロジェクト管理事務所が創設された。日本人専門家と相談の上、このメンバーが中心となって事業が実施された。プロジェクト管理事務所やWG、JCCなどの仕組みを利用して、日本人専門家やC/P職員、国家・省・地方の各レベルのその他の関係者が、事業に関する情報を共有し、適正に意見交換などをおこなった。専門家やプロジェクトスタッフ、C/P職員は、日常的に意思疎通を図り、密に協力してプロジェクト活動を遂行した。PDMやPO、年間活動計画（Annual Plan of Operation : APO）を定期的にレビューし、必要に応じて協議、改訂、承認した。事業活動や投入を適切に記録し、モニタリングをした。日本人専門家は定期的に報告書を作成し、プロジェクトスタッフやC/P、その他の関係者と共有した。

2-7-2 住民参加と受益者の選定

現地コンサルタントやWGの支援を通じて、住民は自主的にBSMNWに参加した。受益住民の選択を住民自身に委託し、プロジェクト側は選定プロセスの透明性と民主制を確保する努力を行った。プロジェクト活動に対する住民の関心は全般的に高く、住民参加はおおむね満足できるものであった。CBETやEFLO、BSMなどの活動がより多く便益を創出すれば、住民参加は更に増進すると予想される。

2-7-3 他事業との連携

ディエン・ビエンやカ・マウ、ギア・ライなどの他のJICA事業からの訪問者を受入れ、プロジェクトの経験を共有した。また、バック・マ国立公園で実施している草の根技術協力のプロジェクトが導入しているEFLOの手法を参考とした。さらに、無償資金協力で供与されたマイクロバスが、CEEEの環境教育活動やその他のプロジェクト活動に活用されており、2名の青年海外協力隊（Japan Overseas Cooperation Volunteer : JOCV）ボランティアがCBETとBSMに関連する活動に従事するために派遣されている。

また、世界野生生物基金（World Wide Fund for Nature : WWF）がダ・チャイ・コミュニケーションで実施しているコミュニティ観光事業と連携し、タイに本拠地を置く人々と森林センター（Center for People and Forests : RECOFTC）と協働管理関連の研修事業で連携した（JICAは、RECOFTC

と長期的・包括的な協力のために協定書を結んでいる)。ADB 資金で実施している FLITCH プロジェクトで作成した BNBPNP エコツーリズムマスタープランに沿ってプロジェクト活動を実施し、世界銀行が支援するベトナムの国家保全基金 (Vietnam Conservation Fund : VCF) が実施する環境教育プログラムと連携し、環境教育用の教材印刷や、学校での環境クラブ創始などで協力した。

2-7-4 環境社会配慮

観光インフラストラクチャー整備を実施するに際して、CBET 実施計画に対する EIA を行った。少数民族 (コホ族) がプロジェクトの主たる受益者で、貧困層や女性などのその他の社会的弱者も優先的に事業に参加するように促した。

2-8 効果発現に貢献した要因

国立公園外 (緩衝地帯) も BNBPNPMB の管轄と認識され、行政サービスを実施できる法的な根拠があった。

2-9 問題点及び問題を惹起した要因

PPC 下にある WMB や観光通商投資促進センター (Tourism, Trade and Investment Promotion Center : TIPC) が、R/D で C/P 機関として位置づけられておらず、彼らのプロジェクトに対するコミットメントに改善の余地があったが、プロジェクトスタッフや関係者が顕著な負の影響を抑えるように対処した。

第3章 評価結果

3-1 5項目による評価

評価5項目を基にした評価結果は表4に要約されている。

表4 評価結果概要

評価5項目	評価結果	備考
妥当性	高い	<p>中間レビュー以来、ベトナム政府の政策や優先課題に大きな変化はなく、日本の対ベトナム援助計画にも変更はない。</p> <p>プロジェクトでは、国立公園の管理強化と、少数民族やその他の社会的弱者を中心に、森林依存住民の生計向上に対処しており、現地のニーズに合致している。</p>
有効性	高い	<p>地域ではCBETは新しい概念で、BNBNPMBはCBET振興の経験はなかった。事業の計画段階から、CBETの実施・推進は難航することが予想されており、当初よりCBETに関連する指標は現実的なものに設定されていた。その結果、設定された目標（指標）はおおむね達成されたと判断する。</p> <p>EFLOの一環として導入されたFFSやFFEは、C/Pをはじめ、ステークホルダーの効果的な能力向上の手段で、目標達成に貢献した。対象農民の生産性は徐々に向上し、このまま先進技術の普及が進めば、長期的な効果が発現することが期待される。</p> <p>多様なプロジェクト活動と議論を通して、国立公園における協働管理の概念を発展、強化し、プロジェクト終了までに概念を文書化し、政策提言などに取りまとめる予定である。事業終了までに、コミュニティとBNBNPMB、CPCの間で協働管理合意書が署名される可能性があり、上位目標の指標をも事業期間中に達成する勢いである。</p>
効率性	高い	<p>日本側及びベトナム側の双方から、プロジェクトに対する適切な投入（専門家派遣、C/P職員の配置、活動実施予算など）が適時に行われ、事業活動はほぼスケジュールどおりに実施された。終了時評価での現場視察などで、これらの投入は全体として適切に活用され、供与車両や機材、施設なども適切に維持管理されており、全体として効果を生んでいることが確認された。</p> <p>8名のC/P職員が本邦研修に参加し、関連する技術や知識を習得し、日常業務に効果的に活用していることが確認された。</p> <p>本プロジェクトでは、当初エコツアーリズムのローカル専門家の活用を想定していたが、確保が困難であったため、国際調達により第</p>

評価5項目	評価結果	備考
		<p>三国の専門家を投入し、その後に日本人の短期専門家を派遣した。専門家派遣が実際よりも早期であれば、観光商品開発などで更なる成果が望めた可能性がある。</p> <p>予算の関係上、日本人専門家の投入が限られているなか、現地のコンサルタントを有効に活用し、効率性を向上した。</p>
インパクト	負のインパクトは検知されず、正のインパクトは中程度に高い	<p>総合的に負のインパクトは検知されず、正のインパクトは中程度である。なぜなら PDM に示した上位目標の達成のためには、プロジェクトで試行した CBET や EFLO、CM などの生計向上活動が実行可能な概念や方法論から更に発展し、保全や住民の生計向上に必要な十分なリソースが協働による自然資源管理から実際に創出できることを実証したうえで、モデルとして認識され、活動を継続する必要があるからである。</p> <p>上位目標の達成見込みは現時点では中程度と判断した。上位目標の指標 1「プロジェクト終了後 3 年以内に、対象住民グループと BNNPMB の間で、国立公園内の一部における自然資源管理の協定が結ばれる。」は、プロジェクト終了までに現在の計画どおり作成が進められた場合、前倒しでプロジェクト期間内にも署名される可能性がある。</p> <p>また、指標 2 については、CM の概念の導入により、関係機関とコミュニティが効果的・効率的に協力する状況が整備されており、プロジェクトで開発された方法論や手法は、ほかの事業に採用、あるいは参考にされることが期待される。例えば、FFS や FFE の手法は、省政府の農業普及業務で採用される可能性がある。2013 年 3 月にハノイにて開催されたワークショップやそのほかの交流事業を通じて、BSM などのプロジェクトの経験が、MARD や MONRE、ほかの国立公園管理事務所などと共有された結果、CM や BSM、VDF、VR などに関する本プロジェクトの成果が他の国立公園の特別利用林保護や緩衝地帯の管理・利用・開発にも適用され、国家政策策定時に参照する可能性についても議論されている。</p> <p>さらに指標 3 の活動の継続性については、BSM の仕組みをとおして便益や資源をいったん蓄積し住民に平等に分配するためには、VDF などの仕組みが必要であるため、供与肥料の売上金を回転資金の原資とする手法で、VDF の設立と強化を支援した。今後 CBET や EFLO 等を通じ、住民のための十分な便益が生み出されれば、対象村落がプロジェクトにより導入された活動を継続する見込みである。</p> <p>なお、施設建設を含む CBET 実施計画に対しては、EIA を実施して環境への負の影響が少ないことを確認し、MONRE による許可を得</p>

評価 5 項目	評価結果	備考
		<p>たうえで活動を開始した。実際の施設建設は、ほぼ当初計画どおりに実施したため、顕著な負の環境影響はなかったと予想される。プロジェクトによる EFLO の一環として、低農薬農法を取り入れ、環境に良い影響をもたらした結果、住民の環境保全に対する意識が向上した。例えば、一部の住民は自主的に自然遊歩道のゴミ回収を開始した。更に低農薬農法の導入による短期的な経済的負のインパクトは検知されなかったが、コーヒー農園の生物多様性と環境への総合的な影響は不明である。</p>
持続性	高い	<p>プロジェクトの持続性は高い。</p> <p>1) 制度面・政策面：プロジェクトの提言により、国立公園の入園料を徴収する制度が施行され、その一部が、プロジェクトの供与資機材や施設の維持管理費に充当されることとなっているので、事業成果の持続性に寄与することが期待される。アジア開発銀行（ADB）の支援により BNBPN のエコツーリズム開発マスタープランが策定されており、計画は、プロジェクトの成果や教訓を反映したうえで、省レベルの関係当局によって承認されている。プロジェクトで訓練された CEEE 職員に加え、マスタープラン実施のための予算措置が期待できるので、事業終了後も CBET に関する事業成果が継続的に発展することが予想される。自然資源の CM メカニズムは、制度的にプロジェクト終了後も合意書を基に持続し、発展すると予想される。</p> <p>2) 組織、財政面：資機材や車両の供与や施設整備などを通じて C/P の組織力も向上した。組織面では CEEE が BNBPN の一部門として設立され、プロジェクトの支援で CEEE 運営マニュアルも策定され、CBET 活動や VDF に参加している住民への便益共有の指針などが示された。事業終了までには、日本人専門家の技術支援により、マーケティング戦略を含む CEEE の長期的なビジネス計画も策定する予定である。一方、マーケティングや観光振興を通じて、より多くの観光客が対象村を訪問するためには、CBET 観光商品をさらに開発する必要がある。本格的な CBET モデルが当地で開発されるためには、更なる時間と投入が必要である。</p> <p>FFS と FFE の手法の導入は、住民や WG メンバー、プロジェクトスタッフ（ほとんどは国立公園管理事務所を長期休職している職員で、プロジェクト終了後は復職する）の能力向上に多大に貢献し、事業成果の持続性の担保に寄与する。</p> <p>3) 予算面：持続性を担保するために、対象村落で BSM や VDF が導入された。その発展は確実ではないもののインパクトの項目にある</p>

評価5項目	評価結果	備考
		<p>とおり、メカニズムと基金の持続性は高く、その更なる発展のために、継続的な尽力が必要といえる。</p> <p>技術面では日本人専門家や現地コンサルタントの支援により、C/P職員の能力が強化された。また、プロジェクトで導入した低農薬農法は、環境的に持続性があると考えられている。</p>

3-2 効果発現に貢献した要因

(1) 計画内容に関すること：

本プロジェクトの対象村落は、国立公園外の村落であり、同土地の所有権は村民ではなくWMBであったことから、国立公園内（コアゾーン）だけでなく国立公園外（緩衝地帯）も国立公園管理事務所の管轄として、行政サービスを実施できる法的な根拠があったことにより、BNBNPMBが直接CBETやEFLOの活動を行うことが可能であった。

(2) 実施プロセスに関すること：

プロジェクト開始時はBNBNPMBの本部が公園外のダラット市内に設置されていたが、ベトナム政府によりBNBNPMB本部と関連施設がダ・ニム流域地域公園内に建設されたことから、プロジェクト対象村落との距離が近くなり、プロジェクト活動を進めやすい環境となった。

3-3 問題点及び問題を惹起した要因

(1) 計画内容に関すること：

PPCの下にあるWMB（バッファゾーンの土地利用権を所有）やTIPCが、公式文書（R/D）でC/P機関として位置づけられておらず、彼らのプロジェクトに対するコミットメントが弱かったが、プロジェクトスタッフや関係者が必要に応じて会議への参加依頼や情報共有を行うことにより、顕著な負の影響を抑えるように対処した。

(2) 実施プロセスに関すること：特になし。

第4章 結論

事業は、指標で示された目標をおおむね達成見込みであり、研修事業や視察旅行、ワークショップ、専門家による指導などを通じて、対象村や関係各機関の国立公園協働管理能力向上に大きく貢献した。プロジェクトは、先進的なCBETや農業普及技術（FFS/FFE）、自然資源のCMメカニズム、BSM、VDFなどを導入し、現場レベルで試行錯誤しながら、実行可能な概念・方法論を取りまとめている。また、インフラストラクチャー整備や資機材供与などを通じて、BNBNPMBの組織能力の向上に寄与した。

これらの成果は、適正な実施プロセスと組織体制、制度を通じて実現しており、専門家やC/P、その他の関係者が、WGやJCCなどの仕組みを活用して意思疎通を図りながら協働した。住民参加が重視され、各関係機関や当局も巻き込みながら、事業活動実施や意思決定がなされた。

評価結果概要（表4）にあるとおり、評価5項目の各項目で高く評価されており、プロジェクト目標は「プロジェクト期間内に達成の見込みである」といえる。本プロジェクトはプロジェクト期間内に終了することが適当と判断した。プロジェクトからは多くの教訓が引き出されており、類似案件や新規案件にも活用できるものである。

第5章 提言

【プロジェクトに対して（残りの事業期間6カ月間で）】

- (1) PDM では、事業終了までに「EFLO 普及・振興計画」を策定して提出することになっている。策定する計画では、FFS/FFE の持続性と汎用性、制度化・行政上の主流化の明確な道筋を示すとともに、省の農業普及センターや郡の農業センターなどと協力し、コミュニティレベルの農業普及員や農業協力員など既存の農業普及・生計向上制度を取り込んだ形で、EFLO 普及・振興計画の明確な実施体制を提案すること。
- (2) 国立公園内及び外の緩衝地帯の自然資源を、コミュニティと協働で管理するために、CM メカニズム構築に関する活動をさらに強化すると良い。協働管理合意書の最終化の過程で、CPC のプロジェクトに対する理解度を深め、更なる継続協議を行うこと。
- (3) 住民やBNBNPMB、CPC の三者合意書に加え、省レベルの広範囲な関係機関との協働管理合意書に関して事業終了までに十分な協議を行い、将来的な合意締結と実施につなげる。これらの協議や活動を、ベトナムの他の国立公園で模倣されるモデルとして取りまとめ、ベトナム全般の保護区政策実施に寄与すること。
- (4) プロジェクトで試行・導入した、国立公園及び保護林内の自然資源利用管理に関するVRの住民参加型策定プロセスと執行・モニタリング体制を、行政が制度として採用できるように簡素化・汎用化すること。また、こうした画期的な手法が行政に採用されて主流化するためには、政策レベルへの働きかけが必要である。
- (5) 事業資金によって設立されたVDFの持続性を担保するために、当局により承認されたVDFの運用規定に従って、VDFを小口融資のための回転資金として活用し、基金の管理運営費を捻出するために、適正な価格（利率）を設定すること。他のリソースからVDFへの追加投資の可能性を探る必要がある。

【ベトナム側に対して（特に事業終了後）】

- (1) CEEE は、将来的なマーケティングや広報を念頭に、観光業者を一層巻き込んだうえ、エコツーリズムの観光商品をさらに開発すること。対象村の文化的・自然的な観光潜在性が限られていることから、アグロ観光の開発を進めること。また、学校を対象にした「教育観光」に潜在性があるため、さらに誘客を進めること。同時に、BNBNPMB は、村のCBETグループとCEEE職員の能力向上を継続すること。
- (2) BNBNPMB は、事業終了後も、便益共有ネットワークやその管理チーム、VDFの強化を継続し、持続と更なる発展のために村のEFLOグループを協同組合などの組織として発展させること。そのうえで、下記の達成を目指す。良い。

- 1) 農産物の量と質の向上、2) 農産物の多角化、3) 農業保険や共済などの商品購入による災害リスク軽減、4) 共同出荷・マーケティング、5) 認証取得、6) その他の付加価値化。これらにより、VDFの資金が増え、BSM全体の強化につながる。
- (3) MARDとPPCは、プロジェクト終了後、VRとその執行・モニタリングをさらに強化するために、PFESの助成金分配に関して代替方法を模索し、村落レベルの組織強化につなげる。また、プロジェクトの成果や教訓を、国連森林減少・劣化に起因する温暖化ガスの排出とその抑制方策計画（The United Nations Collaborative Programme on Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries : UN-REDD）フェーズIIの実施に適用することを検討すること。
- (4) BNBPNMBは、プロジェクトからの教訓や提言を、次期の国立公園管理計画や観光に関連する計画・戦略に反映させること。
- (5) 現在のEFLO受益者は、正式な土地利用権（いわゆるレッドブック）が与えられている農地を持った対象者が少ない。現在既に耕作されている土地に関しては、レッドブックを持たない住民の地権や資源利用権がVRで保障されているが、土地の管理権限は政府（WMB）にある。土地を活用したEFLO活動の持続性を担保するために、レッドブックのない耕作地に関する具体的な管理規則整備が必要である。

【日本側に対して】

JICAは、派遣中の森林プログラムアドバイザー専門家を通じて、事業成果の更なる発展を継続してモニタリングし、BNBNPやベトナム国のその他の国立公園の改善と更なる支援に関して、新規要請案件の検討状況をふまえてベトナム側当局との対話を継続すること。

第6章 教訓

(当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)

- (1) 自然資源の協働管理は、ベトナムでは新しい概念で、VR と BSM が協働管理を支える2つの重要な要素である。コミュニティが協働管理を継続するためには、VDF と BSMNW の強化が必要である。自然資源管理には、広範囲で多くの関係者が関与することから、国立公園事務所とコミュニティの間の協働だけではなく、より広範囲な関係組織間連携による協働の自然資源管理メカニズムを創造して強化する必要がある。そうしたメカニズム/プラットフォームの関係者・参加者を、計画段階から慎重に特定することが肝要である。
- (2) こうした協働のプラットフォームは、国家の制度的・政策的裏付けが必要である。また、関係組織間プラットフォームを機能化するために、プラットフォームの目的を明確にしたうえで関係機関と共有し、実際に便益が生み出されることを示すことが重要である。また、協働管理が、2010年の第10回生物多様性条約（Convention on Biological Diversity：CBD）締約国会議（Conference of the Parties：COP）（以下、「CBD-COP10」と記す）で日本とベトナム両国がコミットした愛知目標などの国際目標や、ベトナム生物多様性保全国家行動計画（2007年）、ベトナム持続可能な開発国家行動計画（2013年）などの国家上位目標の達成に寄与することを発信すると良い。
- (3) 必要に応じて、可能であれば、CBDやUNESCO世界遺産プログラム、同・人間と生物圏¹（Man and Biosphere：MAB）計画などのイニシアティブを保全のためのツールとして効果的に活用するといい。
- (4) 可能であれば、公園内の活動も協働管理の枠組みに含めるべきである。その場合、協働管理合意書の内容や国立公園内の自然資源利用による便益共有の仕組みを、法が許す範疇で慎重に検討する必要がある。
- (5) 生計向上事業を計画する時には、与えられた事業期間とリソースをかんがみ、達成可能な目標を設定することが重要である。例えば、概念が周知されていないCBETの振興のようなケースでは、開発に多くの時間と投入を要することを念頭に計画を策定すべきである。また、コミュニティの主体性を引き出すためには、適切な事業実施体制を整備することが肝要であり、十分な時間と予算、専門家を計画段階で確保しておくことが重要である。
- (6) 住民の生計向上が自然資源の保全につながる仕組みを構築するために、コミュニティの便益と同時に、責任を強調することが重要である。その手段として、VR策定と執行・モニタリングが有効である。VRを適正に執行するためには、適切な組織体制と制度的裏付けが不可欠で、PFESやUN-REDDとの連携を含むVDFのような資金メカニズムが重要である。

¹ 日本では「ユネスコ・エコパーク」の通称が提唱されている。

また、CBET と EFLO、協働管理の 3 つのコンポーネントの組み合わせは、保全と生計向上という 2 つの目標を達成するために有効であることが証明されている。

- (7) リソースが許せば、保全の問題を直接対処するコンポーネントを含め、プロジェクトの生物多様性に対するインパクトを十分にモニタリングすると良い。そのために、参加型自然資源インベントリーなどを通じて必要なデータを収集し、住民を巻き込んでデータの更新を定期的に行うと良い。

第7章 所感

7-1 団長所感

国立公園（保護区）における政府機関と住民による協働管理の重要性は、例えば世界公園会議（1992年、2003年）等にて指摘され、保護区内やその周辺に居住する先住民/少数民族やコミュニティの公園管理活動への参加を促す決議が採択されてきた。これら議論の基礎となる理念は、1971年に成立したUNESCOのMAB計画により既に提案されていたことから、保護区管理における協働管理の重要性と必要性については、これまで約40年にわたって議論されてきたものと理解できる。人は自然資源を利用しながら生活し、開発が進んだ現代社会においてもなお、多様な形で自然資源に依存しながら生活している。今日においても、日々の糧を自然資源に依存する人々が天然林やその周辺に暮らし、国によっては、豊かな自然が残る保護区やその周辺に居住する人々は少数民族である場合が多い。今日の国立公園管理においては、それら自然資源に依存している人々がその管理活動に参加することは不可欠だと考えられている。

本プロジェクトは、BNBNPとその周辺であるバッファーズゾーンに居住する村落住民が、VRを設定・共有し協働管理を展開することによって、公園局職員の能力強化を図ると共に、国立公園への負の影響を抑制することを目的としている。上記のように、保護区管理における政府機関と村落との協働管理における概念は40年程前から議論されてきているが、実務的好事例は今日でも限定的であり、さらにベトナムでは、国立公園の協働管理は比較的新しい考え方だと認識されている。したがって、プロジェクトによって採用されたアプローチや戦略は、ベトナムにおける国立公園管理の手法としては斬新的な取り組みと理解されており、その斬新性/新規性ゆえに、CBETやEFLO等のプロジェクト活動の実施においてさまざまな困難が伴ったことが認められる。

しかし本プロジェクトは、協働管理を実践するための基盤作りとして、例えば地元住民の生計向上支援の一環としてVDFやBSMの構築において成果を挙げた。本プロジェクトにおいて試行された取り組みは、ベトナムにおける国立公園協働管理を推進するうえで参考となる部分が多く、総合的なプロジェクトの成果として評価できる。しかし、プロジェクトにて導入された活動は途に就いたばかりであり、特に、ベトナムに適した協働管理のあり方については、保護区管理の実践的モデルとなるよう今後更に試行錯誤を繰り返しながら発展させる必要があると考える。今後更に取り組むことが期待される点について、各論として以下に述べる。

7-1-1 ベトナムに合致した協働管理の概念構築

国立公園にかかる協働管理の基本的メカニズムは、公共財としての天然資源の利用に際し、その資源利用に関与する主なステークホルダーが共通の場（プラットフォーム）に集まり議論することによって、総合的な合意を形成するプロセスが重要だと考える。その場合、多様なステークホルダーを有機的に集め平等な立場での議論を可能とするプラットフォームを構築することが理想的である。しかし多くの場合、行政の縦割りや少数民族と土地所有者等をつなぐプラットフォームを構築することは容易ではない。ベトナムでは、省や郡、コミュニティにおける

人民委員会と各種政府組織が複雑に役割分担していることから、その実情に合致したプラットフォームを創出する必要がある。協働管理の基盤として形成するプラットフォームは、例えばプロジェクトのステアリングコミティのような一過性の仕組みではなく、長期的な持続性を持った仕組みとすることが不可欠である。したがって、可能な限り法的根拠を有する仕組みとするか、あるいは協働管理の政策として明確に示すことが重要だと考える。

7-1-2 協働管理の効果：自然科学的データに基づくモニタリング

地元住民の参加のもとに行う国立公園の協働管理の効果は、森林減少の抑制や生物多様性の維持など、科学的データに基づいた結果が必要である。例えば永久調査区を設け、種の構成を長期的にモニターする等のデータ収集が重要である。また、協働管理の一環として、動植物の分布に関する基礎調査やモニタリング作業に住民参加を組み込んだり、国立公園の観光客による野生動植物の目撃情報をデータ化する等の取組みも、今後検討の余地があるものとする。

7-1-3 生態系の一体的・包括的管理：CBDのエコシステム・アプローチの実践

生態系を包括的に管理するため、公園の内外を一体的に捉えることが重要である。本プロジェクトは、公園内に位置する村落を活動の対象としていないうえ、公園周辺（バッファゾーン）に暮らす人々の活動に焦点を当ててはいるものの、バッファゾーン内の保護林を管理する流域管理事務所のプロジェクトへの参加が弱いと見受けられる。

本点は、生態系の一体的管理を目指す協働管理としては未熟な部分だと考えられることから、今後、これまでの成果を最大限に活用、応用し、7-1-1に示すような協働管理のプラットフォームを構築し、公園内外を一体的に捉えた管理が展開できる仕組みの立ち上げを期待する。

7-2 田中団員所感（公園管理行政）

CBD-COP10（平成22年10月、於：名古屋市）で採択された愛知目標では、保護地域等の保全の推進が挙げられている。ベトナムでは、以前から国立公園の指定が進んでいる一方、管理能力が十分に伴っていない。（なお、今回訪れたBNBNP及びチューヤンシン国立公園を見た限りでは、ベトナムの国立公園は、優れた風景地を指定する日本の国立公園や、野生動物の集団生息地を指定するケニアの国立公園などとは異なり、森林を保護したい場所を指定している印象を持った。）

- (1) 本プロジェクトでは、プロジェクト名が「国立公園管理能力強化」となっている一方、国立公園内の活動のために行政の管理能力を強化するというより、国立公園区域外の住民が国立公園内に侵入及び資源を許可なく利用しないよう、住民の生計向上を行政が支援するという内容になっている。このため、プロジェクト名と内容が、必ずしも一致していない（プロジェクト名から内容を連想しにくい）印象を持った。
- (2) ベトナムの国立公園では、国立公園内を守るために国立公園区域外の活動（住民の生計向上支援など）が重要となっている。BNBNPでは、本プロジェクトを通じて、プロジェクト目標は相当程度達成されたが、一方で、国立公園内の管理能力強化（生物多様性保全など）に関する取組みの必要性も感じられた。（チューヤンシン国立公園管理事務所

の訪問時に、先方から受けた説明では、周辺住民の生計向上支援以外に、森林管理、科学研究、環境教育の活動を行っているとのことであった。）

- (3) インパクトについては、本プロジェクトの取り組みが、ほかの国立公園へのモデルになり得ると感じた。また、本プロジェクトの成果が、省政府及びベトナム政府の政策（策定中の国家保護区管理戦略の次期戦略など）へ反映されることが期待される。
- (4) 持続性については、PDM のプロジェクト目標の指標にある、住民グループと国立公園管理事務所間の協働管理に関する合意文書及び協働管理活動の継続的な実施のための省政府に対する政策提言の作成の見通しが立っていることから、ある程度持続性は担保されているように感じた。
- (5) ベトナムでは、国家レベルでは、国立公園管理は MARD が、生物多様性保全は MONRE がそれぞれ所管している。縦割り行政の懸念があることから、MONRE による国立公園管理への一定の関わりが期待される（日本では、国立公園管理も生物多様性保全も環境省所管）。たとえば、JICA の支援で実施中の「国家生物多様性データベースシステム開発プロジェクト」と連携することが考えられる。また、地方レベルでも、DARD と DONRE と WMB など、各機関の連携・協働が必要と感じた。
- (6) エコツーリズムについては、本プロジェクト外で設置されたアクセス道路及び CEEE、並びに国立公園管理事務所の移転（ダラット市内から BNBPNP 近くへ）の各要素が、エコツーリズムの推進につながったと考えられ、これらの活用などにより、今後さらに進展することが期待される。
- (7) ダラット市までは観光客が訪れるが、多くの観光客は、ダラット市近郊の他の観光地へ行ってしまおうとのこと。観光の目玉が豊富とは言い難い BNBPNP へ足を運んでもらうには、工夫が必要である。この点、近々派遣される予定のエコツーリズム分野の短期専門家の貢献及び 2015 年に整備予定の植物園に期待する。また、マスツーリズムにならないようにする必要はあるが、観光客が国立公園内の自然に触れられるよう、国立公園区域外のみでなく（国立公園内にも、ビズップ・トレイルというトレイルがあるが）国立公園内でのエコツーリズムも推進すべきと感じた（国立公園の観光利用については、国によって違うようであり、ベトナムの国立公園では、主に国立公園の周辺部分を観光利用に供し、コア部分はあまり観光利用させていない模様）。
- (8) BNBPNP の入場料 [2 万ベトナムドン（約 100 円）/回、学生半額、外国人も同額とのこと] について、現在、外国人観光客の訪問は限られているものの、将来的には、より高い料金を設定し、収入を国立公園管理に充てる可能性も考えられた。
- (9) 本プロジェクトで建設したビジターセンターについては、展示にさまざまな工夫がなされており（日本のビジターセンターと比べても遜色ない）、興味深かったが、本プロジェクト終了後も、国立公園側で管理が継続される必要がある。
- (10) BNBPNP 内には、国立公園指定以前からの住民の一部が引き続き居住している。指定以前からの居住は違法でないとのことであるが、公園内に侵入及び資源を許可なく利用する懸念があることから、扱いが難しい。この点、国立公園と住民の共存の観点から、日本の地域制国立公園の考え方（国立公園を政府の営造物とするのではなく、ゾーニングに

より、場所によって一定の開発を許容する) が使える可能性があると考えられた (ベトナムの国立公園では、既にゾーニングの考え方が導入されている様子)。

- (11) BNNBP の世界自然遺産への登録については、資質及び管理能力の面から、登録の可能性は低いと考えるが、ベトナム側が登録を検討している UNESCO の MAB 計画に基づく生物圏保存地域 (Biosphere Reserve : BR) への登録の可能性はあると考えられた。この点、BNNBP は、将来的に発展する可能性を有している。
- (12) 国際的には、本プロジェクトの取り組みが、アジア国立公園会議 (本年 11 月、於 : 仙台市) 及び第 6 回世界国立公園会議 (来年 11 月、於 : シドニー市) へインプットされることが期待される。

添付資料

添付資料01	ミニッツと合同評価報告書 (Joint Terminal Evaluation Report)
添付資料02	収集資料リスト
添付資料03	質問票による聞き取り結果概要
添付資料04	主要面談者リスト
添付資料05	主要な会議の協議議事録

MINUTES OF MEETING
 BETWEEN JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY
 AND THE GOVERNMENT OF SOCIALIST REPUBLIC OF VIET NAM
 ON THE PROJECT
 FOR STRENGTHENING COMMUNITY-BASED MANAGEMENT CAPACITY OF
 BIDOUP-NUI BA NATIONAL PARK

The Japanese terminal evaluation team, organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Mr. Motohiro Hasegawa, visited the Socialist Republic of Viet Nam from 12 June to 28 June, 2013 for the purpose of conducting a terminal evaluation of the technical cooperation project "The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park" (hereinafter referred to as "the Project") in the Socialist Republic of Viet Nam.

This evaluation was conducted by the Joint Terminal Evaluation Team, which consisted of the Vietnamese and Japanese evaluation teams. As a series of discussions and surveys, both sides agreed on the contents of the joint terminal evaluation report attached hereto.

Dalat, 27 June 2013



Mr. Motohiro Hasegawa
 Senior Advisor (Biodiversity & Ecosystem
 Conservation),
 Japan International Cooperation Agency,
 Japan




Dr. Pham S
 Vice Chairman,
 People's Committee of Lam Dong Province/
 Chairman of Provincial Steering
 Committee, Socialist Republic of Viet Nam

Witness:



Mr. Kensei Oda
 Chief Technical Advisor/ Co-Management
 of the Project,
 Japan International Cooperation Agency,
 Japan

Witness:



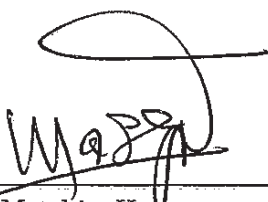
Mr. Le Van Huong
 Director, Bidoup-Nui Ba National Park and
 Project Director, JICA Bidoup Nui Ba
 Project

Attachment

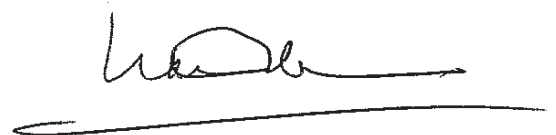
Joint Terminal Evaluation Report
on
The Project for Strengthening of
Community-Based Management Capacity of
Bidoup-Nui Ba National Park

Da Lat, Viet Nam

27 June, 2013

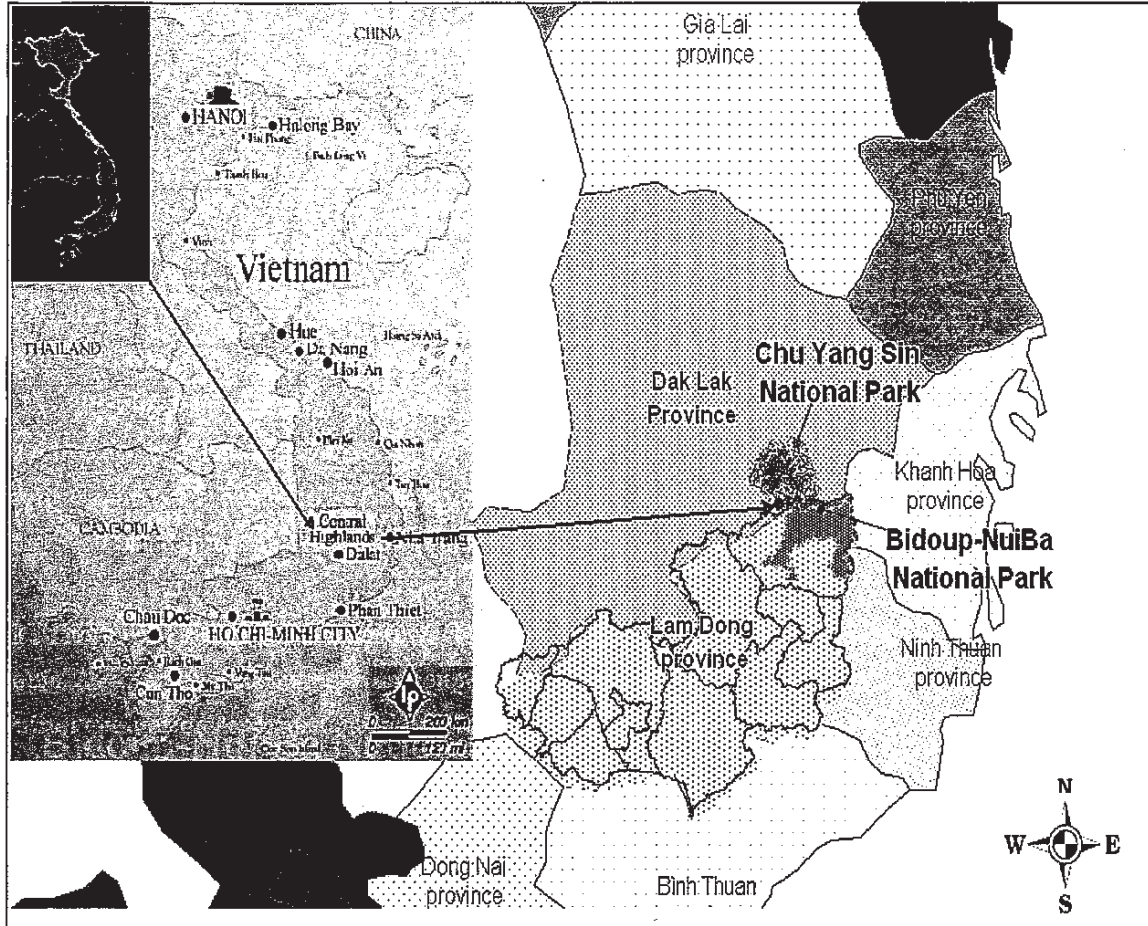


Mr. Motohiro Hasegawa
Leader,
Japanese Terminal Evaluation Team,
Senior Advisor (Biodiversity & Ecosystem
Conservation),
Japan International Cooperation Agency,
Japan



Mr. Ngo Tien Dung
Leader,
Vietnamese Terminal Evaluation Team,
Vice Director of Nature Conservation
Department,
Vietnam Administration of Forestry,
Ministry of Agriculture and Rural
Development, Viet Nam

Map



Yue
h
dc

Abbreviations

AC	Agricultural Center
ADB	Asian Development Bank
AEC	Agricultural Extension Center
APO	Annual plan of operations
BNNP	Bidoup-Nui Ba National Park
BNNPMB	Bidoup-Nui Ba National Park Management Board
BSM	Benefit sharing mechanism
BSMNW	Benefit Sharing Mechanism Network
BSMMT	Benefit Sharing Mechanism Management Team
CBD	Convention on Biological Diversity
CBET	Community based ecotourism
CEEE	Center for Ecotourism and Environmental Education
COP	Conference of Parties
C/P	Counterpart
CPC	Commune Peoples' Committee
CM	Collaborative management
CMMT	CM Management Team
CTA	Chief Technical Advisor
DARD	Department of Agriculture and Rural Development
DOCST	Department of Culture, Sports and Tourism
DONRE	Department of Natural Resource and Environment
DPC	District Peoples' Committee
EFLO	Ecologically friendly livelihood options
EIA	Environmental impact assessment
FFE	Farmer to farmer extension
FFS	Farmer field school
FLITCH	Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands
GIS	Geographical information system
ICTHER	International Center for Tropical Highland Ecosystems Research
IUCN	International Union for Conservation of Nature
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
JOCV	Japan Overseas Cooperation Volunteers
MAB	Man and Biosphere Program
MARD	Ministry of Agriculture and Rural Development
MONRE	Ministry of Natural Resources and Environment
MM	Man-month
NP	National park
OVI	Objectively verifiable indicator
PDM	Project design matrix
PFES	Payment for forest environment services
PO	Plan of operation
PPC	Provincial Peoples' Committee
PRA	Participatory rural appraisal
Project MB	JICA Bidoup-Nui Ba Project Management Board
PSC	Provincial Steering Committee

R/D	Record of Discussions
RECOFTC	Center for People and Forests
TIPC	Tourism, Trade and Investment Promotion Center
TO	Tour operator
UNESCO	United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization
UN-REDD	United Nations Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries
VCF	Vietnam Conservation Fund
VDF	Village Development Fund
VND	Viet Nam Dong
VR	Village regulation
VRMT	Village Regulation Management Team
WG	Working group
WMB	Watershed Management Board
WWF	World Wide Fund for Nature

Y
S
h

Table of Contents

1	Overview of Joint Terminal Evaluation.....	1
1.1	Introduction.....	1
1.2	Project Outline.....	1
1.3	Purpose of Joint Terminal Evaluation.....	2
1.4	Member of Joint Terminal Evaluation Mission.....	3
1.5	Evaluation Method and Schedule.....	3
2	Project Achievements.....	4
2.1	Achievements of Inputs.....	4
2.2	Achievements of Activities.....	5
2.3	Achievements of Outputs.....	5
2.3.1	Achievements of Output 1.....	5
2.3.2	Achievements of Output 2.....	6
2.3.3	Achievements of Output 3.....	7
2.3.4	Achievements of Output 4.....	9
2.3.5	Achievements of Output 5.....	10
2.4	Achievements of Project Purpose (target to be achieved by the end of project).....	10
2.5	Achievements of Overall Goal (target to be achieved 2-3 years after the project).....	11
2.6	Target Area.....	12
2.7	Implementation Process and Framework.....	13
2.7.1	Communication and Coordination among Project Staff and Stakeholders and Documentation/ Reporting.....	13
2.7.2	Participation of Communities and Selection of Beneficiaries.....	13
2.7.3	Collaboration with Other Project/ Programs.....	13
2.7.4	Social and Environmental Consideration.....	14
2.8	Factors Positively Affected Results.....	14
2.9	Factors Negatively Affected Results.....	14
3	Evaluation Results.....	14
4	Conclusion.....	17
5	Recommendations.....	17
6	Lessons Learned/ Reference to Other Projects.....	19

Y
H
B
D

List of Annexes

- Annex 01 Project Design Matrix (PDM) (version 3.0)
- Annex 02 Evaluation Grid
- Annex 03 Schedule of Joint Terminal Evaluation Mission
- Annex 04 Assignment of Japanese Experts as of June 2013
- Annex 05 List of Local Consultants
- Annex 06 List of National Staff Members
- Annex 07-1 Equipment provided by the Project
- Annex 07-2 Equipment provided by the Project for Communities
- Annex 08 Key Structures Constructed
- Annex 09 Local Operation Cost shouldered by JICA
- Annex 10 Key Outputs/ Deliverables
- Annex 11 Training conducted by the Project
- Annex 12 Study Tour organized by the Project
- Annex 13 Seminar/ Symposium organized by the Project
- Annex 14 Training in Japan
- Annex 15 Allocation of Vietnamese CPs and WG members as of June 2013
- Annex 16 Counterpart fund
- Annex 17 Plan of Operations (PO)

Y
B
h

1 Overview of Joint Terminal Evaluation

1.1 Introduction

Viet Nam is one of the world's richest countries in terms of biodiversity, and the Government has taken concrete measures for the conservation of biodiversity with the emphasis on national park, signified in the preparation of "Management Strategy for a Protected Area System in Viet Nam to 2010" in 2003. However, it has not necessarily led to the realization of the appropriate park management due mainly to the shortage of technical support and the insufficient financial resources. As a result, the biodiversity of national parks has been deteriorated, caused by various human activities within and around parks.

Bidoup-Nui Ba National Park (hereinafter referred to as "BNBNP") is located in northeastern part of Lam Dong Province, occupying 70,038ha, one of the largest national parks in Viet Nam. It was established as a nature reserve in 1986 and became a national park in 2004. BNBNP is endowed with the forest ecosystem typical to sub-tropical high mountain climate, composed of mountain evergreen tropical rain forest, coniferous & broadleaved mixed forest, high mountain dwarf forest, low mountain subtropical coniferous sparse forest, mossy forest and bamboo-broadleaved mixed forest. BNBNP has 1,933 species of plants (including 96 endemic species) and 422 species of animals (32 of them are in IUCN red book).

5,067 households (26,028 persons) are located within and around BNBNP, mostly ethnic minority people, who make their living by traditional agriculture. The poverty rate in the area deemed to exceed 29%, and people are compelled to the encroachment of the park and other forestland to expand their coffee plantations, to hunt wild animals, to engage in illegal logging and cultivation, which caused forest fire. To address these issues in BNBNP, the Viet Nam Government requested technical cooperation to the Government of Japan in 2007, which officially agreed by the Government. In December 2008, a survey was conducted by Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") to formulate a detailed project plan, and the Record of Discussions (hereinafter referred to as "R/D") was signed between the two governments on 24th September 2009 in Hanoi for the implementation of "Project for Strengthening of Community-Based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park (hereinafter referred to as "Project")", based on the result of the survey. The Project formally started in January 2010 for four years. As indicated in the R/D, the Joint Terminal Evaluation was conducted by the Joint Evaluation Mission in June 2013, six months before the project completion in December 2013.

1.2 Project Outline

The project outline is indicated in Project Design Matrix (hereinafter referred to as "PDM") Version 3.0 (**Annex 01**) approved in the Provincial Steering Committee (hereinafter referred to as "PSC") in December 2011, summary of which is illustrated in the table below:

Y
U
h
h
e

Item	Description
Project Name	The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park
Project Period	January 2010 – December 2013
Target Area	Five villages adjacent to the boundaries of Bidoup-Nui Ba National Park
Target Group	Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (hereinafter referred to as “BNBNPMB”), Department of Agriculture and Rural Development (hereinafter referred to as “DARD”), and five target villages
Overall Goal	BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups in a collaborative manner.
Project Purpose	The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.
Outputs	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established. 2. Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB. 3. A trial run of community-based ecotourism (hereinafter referred to as “CBET”) is carried out at the selected sites. 4. The ecologically-friendly livelihood options (hereinafter referred to as “EFLO”) that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities. 5. Issues to be addressed and actions to be taken are made clear so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the Project.

1.3 Purpose of Joint Terminal Evaluation

The purposes of the Joint Terminal Evaluation are outlined as follows:

- a. To verify the accomplishments of the project activities, outputs the implementation processes and management, compared to those that were planned at the beginning and during the mid-term review of the Project;
- b. To identify obstacles and/or facilitating factors that have affected the implementation process;
- c. To evaluate the Project in terms of the five evaluation criteria, i.e. Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability, based on the verification in accordance with the JICA’s Evaluation Guideline;
- d. To make recommendations on the Project regarding the measures to be taken for the remaining project period and/or after the completion of the Project based on the evaluation results;
- e. To collect lessons learned for formulation and implementation of prospective projects in the similar field.

Y
h
R
E

1.4 Member of Joint Terminal Evaluation Mission

a. Japanese Side

Name	In Charge	Position and Organization
Mr. Motohiro Hasegawa	Team Leader	Senior Advisor, JICA
Mr. Eiji Tanaka	Park Administration	Director, Wildlife Division, Kyushu Regional Environment Office, Ministry of the Environment, the Government of Japan
Ms. Tomoko Taira	Cooperation Planning/ Aid Strategy	Advisor, Forestry and Nature Conservation Division 1, Forestry and Nature Conservation Group, Global Environment Department, JICA
Mr. Shinichiro Tsuji	Evaluation Analysis	Senior Consultant, Environmental Science and Engineering Department, Nippon Koei Co. Ltd.

b. Vietnamese Side

Name	In Charge	Position and Organization
Dr. Ngo Tien Dung	Team Leader	Vice Director of Nature Conservation Department, Ministry of Agriculture and Rural Development (hereinafter referred to as "MARD")
Dr. Bui Viet Hai	EFLO	Senior Lecturer of Forestry Department, Nong Lam University
Dr. Le Quang Thong	CBET	Senior Lecturer of Economics Department, Nong Lam University

1.5 Evaluation Method and Schedule

- The mission members were selected, and their roles and responsibilities were discussed and decided.
- The evaluation grid (**Annex 02**) was prepared to identify specific evaluation points and the data collection methods as literature review, interviews/ questionnaire survey and field visits/ observation. A set of questionnaires were prepared by the mission.
- The mission analyzed the project achievements/ accomplishments and evaluated the Project in terms of five evaluation criteria as illustrated in the table below:

Criteria	Description
Relevance	An overall assessment of whether the Project Purpose and Overall Goal are in line with policy of both sides and with the partner country's needs.
Effectiveness	A measure of whether the Project Purpose will be achieved (at the end of the project). This is then a question of the degree to which the Outputs contribute to achieving the intended Project Purpose.
Efficiency	The measure of the production of Outputs (results) of the project in relation to the total resource inputs.
Impact	The positive and negative changes, produced directly and indirectly as the result of the project. Prospect of achievement of Overall Goal is also assessed.
Sustainability	An overall assessment of the extent to which the positive changes achieved by the project can be expected to continue (and further developed) after the completion of the project.

Y
H
W
E

- d. The mission prepared this joint evaluation report with conclusion, recommendations and lessons learned, which was signed by the team leaders of both sides. The report was submitted to PSC for its consideration and approval by the Vice Chairman of Provincial People’s Committee (hereinafter referred to as “PPC)/ Chairman of PSC.

The mission was dispatched on June 12, 2013 until June 28, 2013. The detailed schedule of mission is shown in **Annex 03**.

2 Project Achievements

2.1 Achievements of Inputs

The result of assessment of the project inputs from both Japanese and Vietnamese sides is summarized in the table below:

Input	Evaluation Result
<u>Japanese Side:</u> a. Japanese experts b. Local consultants c. Equipment and vehicles provided and facilities constructed d. Project operation cost e. Training and seminars organized f. Training in Japan	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The total of 41.60 Man-Months (hereinafter referred to as “MM”) of Chief Technical Advisor/ Co-Management (hereinafter referred to as “CTA”) and 24.00 MM of Project Coordinator/ Community Development and 23.00 MM of Project Coordinator/ Ecotourism were dispatched from Japan (Annex 04). In addition, a short-term Japanese expert for Ecotourism was dispatched for 2.97 MM, with additional 1.00MM in July 2013. Their technical inputs were maximized for the project implementation, though the timing of mobilization of Ecotourism experts could have been earlier. ✓ In addition to the Japanese experts, the local human resources were utilized for efficient project implementation as indicated in Annex 05. While the inputs of Japanese experts were limited, the services of Vietnamese consultants were utilized effectively. Some BNBPNMB staff members took a long leave from the agency and were engaged by the project office as its staff (Annex 06) ✓ As listed in Annex 07, a set of equipment and vehicles had been provided to the Vietnamese side, and a number of facilities were constructed as shown in Annex 08. It was observed that the equipment and vehicles provided were utilized and maintained properly, though some were damaged and needed repair. The constructions were completed almost as planned. The locations and specifications of facilities appeared to be appropriate for the purposes. ✓ The Japanese side allocated the budgets for each fiscal year for the project operation as indicated in Annex 09. The key deliverables/ outputs of Project were listed in Annex 10. ✓ The Project organized a number of training programs (Annex 11) and study tours (Annex 12). Also, the Project organized a number of seminars (Annex 13). ✓ Eight counterpart (hereinafter referred to as “C/P”) personnel were sent to Japan for training (Annex 14). Their learning was applied to their work.
<u>Vietnamese Side:</u> a. C/P personnel	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 27 officers, of which 17 were currently working for the Project, from the C/P organizations was assigned by BNBPNMB (Annex 15) at an adequate

Y
H
P

Input	Evaluation Result
and their expenses b. Office space and other administrative expenses c. Project operation cost	numbers in a timely manner. ✓ PPC issued a decision on the establishment of JICA Bidoup-Nui Ba National Park Project Management Board after the Project started with adequate assigned officers from BNBPNPMB and an appropriate structure. ✓ BNBPNPMB bared the cost of per diem, travel and other working cost for the C/P personnel using its counterpart fund from the Vietnamese Government. ✓ Proper office space was provided to the Project within the building of BNBPNPMB office. BNBPNPMB shouldered the office running cost, allowance for participating trainings and other related cost to run the Project activities. ✓ The Vietnamese side allocated the budget to the counterpart fund indicated in Annex 16 each fiscal year and JICA Bidoup-Nui Ba National Park Project Management Board shouldered the project expenses indicated in the R/D signed and minutes of annual Joint Coordination Committee (hereinafter referred to as "JCC") meetings.

2.2 Achievements of Activities

During the Joint Mid-Term Review in 2011, planned activities were reviewed, and a new Plan of Operations (hereinafter referred to as "PO") was prepared and approved accordingly (Annex 17). Overall, the Joint Terminal Evaluation found that the project activities were implemented as planned in 2011 without major problems or shortcomings.

2.3 Achievements of Outputs

In this section, the accomplishments of Project were assessed based on the Objectively Verifiable Indicators (hereinafter referred to as "OVI") and summarized per Output indicated in the PDM version 03.

2.3.1 Achievements of Output 1

Output 1: Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established.

OVI	Major Achievement
1-1. Working groups are formulated within 3 months after the commencement of the Project.	✓ Two Working Groups (hereinafter referred to as "WGs") were formed for CBET and EFLO respectively during the beginning stage of the Project within 3 months after the commencement of the Project. Later, an additional benefit sharing mechanism (hereinafter referred to as "BSM") WG was established for the work related to Collaborative Management (hereinafter referred to as "CM"). Overall, WGs functioned effectively. ✓ It was envisaged that WGs function as a venue for inter-agency collaboration. However, WGs were directly responsible for the project implementation and required significant time and commitment of their

OVI	Major Achievement
	members. It became difficult for the representatives from agencies other than the BNBPNPMB to participate in the WGs, and they were replaced by BNBPNPMB staff later. The inter-agency function was taken over by the JCC.
1-2. The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project	✓ Appraisal conducted in April 2013 by experts on each component showed that the capacity of WG members were enhanced through various training programs organized by the Project and on-the-job training with the experts. The enhanced capacity of WG members was observed during the Joint Terminal Evaluation.

2.3.2 Achievements of Output 2

Output 2: Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBPNPMB.

OVI	Major Achievement
2-1. Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Baseline survey on socio-economy and Participatory Rural Appraisal (hereinafter referred to as "PRA") were conducted at the initial stage of the Project to gather information on the socioeconomic status of potential beneficiaries and livelihood activities in the target villages, as well as the forest resource management practices in the area. ✓ The survey results/ reports were utilized for the formulation of EFLO/ CBET groups in the villages and activity planning at the field level. It provided the project staff with key understandings and insights regarding the current conditions of the villages.
2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project and are enforced by villagers themselves.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Five village regulations (hereinafter referred to as "VR") on the management of natural resources were drafted in March 2011 by villagers, with the support of a consultant engaged by the Project. The draft was submitted to Lac Duong District Peoples' Committee (hereinafter referred to as "DPC") for approval. After the scrutiny by the DPC, the VR was revised in October 2011. It was approved in November 2011. The VR was translated into K'Ho language and distributed to the residents of target villages. ✓ Before the Project, VR was prepared by the authority for almost all the villages in the districts, and the Project introduced an alternative participatory process of VR preparation to enhance the effectiveness of VR enforcement. ✓ The Village Regulation Management Team (hereinafter referred to as "VRMT") was in charge of monitoring and enforcement of VR at the village level. To enhance the enforcement and monitoring of VR, the Project established benefit sharing mechanism network (hereinafter referred to as "BSMNW") and village development fund (hereinafter referred to as "VDF"). For the more effective, sustainable monitoring and institutionalized enforcement of VR, the Project planned to merge

Y
B
P

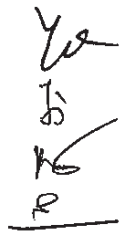
OVI	Major Achievement
	<p>VRMT and the Benefit Sharing Mechanism Management Team (hereinafter referred to as “BSMMT”) and transform them into CM Management Team (hereinafter referred to as “CMMT”) with greater involvement of Commune People’s Committee ‘hereinafter referred to as “CPC”). With the strengthened BSM and VDF, VR would be enforced and monitored closely through the collaboration among BSM participants, BNBPNMB and CPC.</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Pilot monitoring of crop pattern changes was undertaken by the Project using the Geographical Information System (hereinafter referred to as “GIS”) technology. The data analysis revealed that the tendency of encroachment by the project beneficiaries to the forests in BNBPN and Da Nhim watershed were relatively less between 2010 and 2013 than the encroachments by the non-participants, though it was not conclusive due to the small size of samples.

2.3.3 Achievements of Output 3

Output 3: A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.

OVI	Major Achievement
<p>3-1. Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 month after the commencement of the Project.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ A CBET implementation plan was formulated in May 2011 by the project consultant and presented to the community representatives. In addition, an infrastructure plan was prepared in June 2011 for CBET development in the area. ✓ The environmental impact assessment (hereinafter referred to as “EIA”) for the CBET implementation plan was conducted, and a report was prepared and submitted to Ministry of Natural Resources and Environment (hereinafter referred to as “MONRE”) in March 2012. It was duly approved by the competent authority. ✓ A new direction of marketing was proposed in September 2012 in response to less number of tourists visiting BNBPN, and key focuses on the environmental education/ interpretation and conservation and development of K’Ho people’s culture were added to the strategy.
<p>3-2. More than 5% of the households in the target villages take part in the CBET component with some earnings from CBET activities.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The Project aimed at establishing and strengthening CBET institutions, i.e., CBET WG, the Center for Ecotourism and Environmental Education (hereinafter referred to as “CEEE”) and CBET community groups as a first step for the development of CBET, while the trial activities under the Project were not necessarily categorized as CBET activities. The activities were led by BNBPNMB/ CEEE, and the participation of community members was mainly as a hired guide/ interpreters and other service providers for the park visitors. ✓ 47 households out of 667 targeted households (approximately 7%) participated in the CBET activities under the Project. However, the numbers of active CBET group members in the targeted villages had been decreasing as a result of inadequate opportunities to earn income from limited number of tourists visiting the national park (hereinafter referred to as “NP”).

OVI	Major Achievement
3-3. More than 15 tour operators which have signed minutes of agreement with BNBPNPMB participate in CBET activities.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Through the initiatives of CEEE and other supporting agencies, seventeen tour operators (hereinafter referred to as “TOs”) signed the Memorandum of Agreement (MoA) with CEEE. ✓ The Project identified the potential of BNBPNPMB for educational purposes and promoted “environmental education/ interpretation”. In addition to TOs, the Project successfully brought 2,033 student visitors in 38 groups from 18 schools.
3-4. Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CEEE was established by the BNBPNPMB. The capacity development of CEEE was supported by the Project timely. The developed capacity of CEEE staff was observed during the Joint Terminal Evaluation. The Project also supported the preparation of CEEE Staff Operation Manual, which was formally approved by the BNBPNPMB in July 2012. ✓ The collection of entrance fee to the NP was proposed by the Project and approved by the PPC, and this had established a foundation for the implementation of CBET activities in BNBPNPMB. ✓ The Project initiated the development of ecotourism products, such as nature guiding/ interpreting, English, traditional Gong and dance performance, traditional weaving, etc. through the collaboration with Japan International Cooperation Volunteers (hereinafter referred to as “JOCV”). A series of training programs were organized for the interested villagers, and limited number of villagers developed their skills. However, full-development of CBET products and transforming the trial run into commercial-base tourism activities required more time and inputs. ✓ Tourism infrastructures were strengthened through the construction of a visitor center and its nature displays in collaboration with JOCV. The development of three nature trails (construction of toilets, hanging bridges, steps, sign boards, etc.) was expected to complete by September 2013. ✓ Green clubs were established at three secondary schools near the target villages and undertook teachers’ training for environmental education in collaboration with JOCV.
3-5. More than 50% of visitors / guests are satisfied with the contents of the CBET model offered by the component.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ A questionnaire survey on visitor’s satisfaction showed that 87 % of visitors/guests had been satisfied with the contents of the CBET trial runs based on a series of questionnaire surveys in 2012.
3-6. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Based on the review of CBET trial runs, the Project planned to support the preparation of CEEE’s comprehensive business plan by the Japanese expert in August 2013. The Project planned to organize an evaluation workshop, from which lessons learned and recommendations would be drawn for continuous CBET development in the area.



2.3.4 Achievements of Output 4

Output 4: The ecologically-friendly livelihood options that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.

OVI	Major Achievement
<p>4-1. More than 70 % of the members of the community groups adopt at least one of the ecologically- friendly livelihood options introduced in the component, and more than 50% of the participants of EFLO raise production or value of crops they are cultivating.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ During the baseline survey on socio-economy and PRA by the local consultants, issues/ problems of target communities were identified, and their needs were discussed. The technical issues were identified for coffee production, which was one of the key products in the area. After a series of discussions with community members, eco-friendly coffee production was selected as a main EFLO activity. ✓ Through the project orientations and community meetings, interested farmers were selected by the community members themselves with a set of selection criteria. The Project adopted a methodology of Farmers Field School (hereinafter referred to as “FFS”) to improve the agricultural techniques of participating farmers. It also adopted a methodology of Farmer to Farmer Extension (hereinafter referred to as “FFE”) to disseminate information widely. More than 300 households out of 667 households participated in the EFLO activities. ✓ A survey conducted in December 2012 showed that 82% of EFLO participants adopted the improved farming techniques and raised production, despite of unfavorable weather. The average yields of FFS participants were higher than non-participants by 10%. ✓ As BSM and VDF grown further, it was expected that the benefit to the EFLO participants would increase more. Community members’ participation in EFLO was enhanced through the development BSM and VDF, which would lead to the strengthening of VR enforcement in the CM mechanism.
<p>4-2. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Lessons learned from the FFS approach were consolidated in a document and shared, along with the FFS Manual on coffee production, in the workshop held at Hanoi in March 2013, titled as “Towards the Establishment of Collaborative Management at BNBPN”. In addition, the Project planned to organize an evaluation workshop locally in near future, from which lessons learned and recommendations would be drawn and shared with concerned stakeholders.
<p>4-3. An/A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared.</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The Project developed FFS Manual on coffee production, including facilitation skills, agricultural techniques and farm management. ✓ FFE methodology was adopted to disseminate the techniques from the trained farmers to other farmers. ✓ The concerned agencies, particularly Provincial Agricultural Extension Center (hereinafter referred to as “AEC”) and District Agriculture Center (hereinafter referred to as “AC”) proposed to the Government to adopt the modified methodologies of FFS and FFE for their own training/ extension programs. The number of sessions would be reduced to fit their requirements by selecting priority topics to reduce the cost. ✓ The Project planned to propose an extension and promotion plan before the completion of Project.

Y
W
h
B
P

2.3.5 Achievements of Output 5

Output 5: Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the EFLO introduced by the Project.

OVI	Major Achievement
5-1. Issues to be addressed and necessary actions/ interventions to be taken are reported by the project management in Joint Coordinating Committee (JCC) by the end of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ JCC was held 4 times with adequate participation of the members to discuss key issues, achievements and plans. DPC, Department of Natural Resources and Environment (hereinafter referred to as "DONRE") and Da Nhim Watershed Management Board (hereinafter referred to as "WMB") were added to JCC with the consensus of JCC members. This venue played key roles in bringing different stakeholders together and collaborating for the management of buffer zone. ✓ PSC was formed with provincial members of JCC. PSC was held once during the signing of M/M for the Mid-Term Review, and the coordination, supervision and facilitation were done by the Project Directors, CTA and other PSC members regularly.
5-2. An action plan with recommendations to the relevant organizations is approved by JCC by the end of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ As indicated in OVI 3-6 and 4-3, documents would be produced to indicate lessons learned, strategies, plans and recommendations for further development of CBET, EFLO and CM by the end of Project and submitted to JCC members/ policy makers.

2.4 Achievements of Project Purpose (target to be achieved by the end of project)

Project Purpose: The capacity of BNBPNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.

OVI	Major Achievement
1. Consensus on collaborative management is built between the target community groups and BNBPNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The Project introduced an elaborate, participatory process for VR formulation and enforcement, which were based on villagers' own recognition of problems and needs. The alternative method intended to facilitate Government's realization of a new approach that would increase the participation of local people in the process of VR formulation. . ✓ The discussions on the draft agreements on the collaborative management started with the involvement of communities, BNBPNPMB and CPC. A consultant was engaged for this. The draft was expected to be completed by October 2013, and the agreement would be signed among the communities, BNBPNPMB and CPC before the completion of Project based on the trust between the communities and BNBPNPMB. The concept of CM was promoted already to the community members through the formulation of VR, introduction of BSM, etc. Through the project activities as CBET and EFLO, the villagers understand benefits of CM to a certain extent.

Handwritten signature/initials

OVI	Major Achievement
2 Policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO are produced.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The CM concept evolved beyond the original scope and included participation of all the key concerned agencies and organizations, such as PPC, DARD (AEC and District Forest Ranger Station), DONRE, the Department of Culture, Sports and Tourism (hereinafter referred to as “DOCST”), DPC (AC and WMB), CPC, private organizations and businesses, etc. ✓ A workshop, titled as “Towards the Establishment of CM at BNNBP” was organized in March 2013, and the concept of CM was presented. The workshop addressed the importance of participatory VR formulation and monitoring, BSM mechanism and the establishment of VDF. ✓ The Project planned to organize a workshop on the utilization of part of Payment for Forest Environment Services (hereinafter referred to as “PFES”) for VDF before the project completion.
3. More than 70% of the BNNBP staff who participate in the Project understands how to implement the model of collaborative management of natural resources in the national park.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ BSM WG was formed as per the recommendation of Mid-Term Review, and the consultants for BSM and EFLO helped the work of WG. The capacity of BSM WG had been developed. ✓ Three fourth of BNNBP staff members who implement the Project either as a member of WG or project staff were involved in CM-related works and activities. During the group interview by the Joint Terminal Evaluation mission, it was observed that the majority of BNNBP staff members in the Project developed fair understanding on the CM concept.

2.5 Achievements of Overall Goal (target to be achieved 2-3 years after the project)

Overall Goal: BNNBPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups in a collaborative manner.

OVI	Major Achievement
1. Agreements between the target community groups and BNNBPMB on management of natural resources in part of the national park are concluded within three years after the end of the Project.	<ul style="list-style-type: none"> ✓ As indicated in OVI-1 for Project Purpose, the agreement would be signed within the project period with the involvement of the communities, BNNBPMB and CPC. ✓ In order to continue operationalizing the agreed items for collaborative natural resource management and VR enforcement after the termination of Project, the Project supported the establishment of BSMNW among villagers who agreed on the compliance with VR, as well as the formulation of BSMMT. The establishing and strengthening of VDF were vital to generate financial resources that were required for the natural resource management and share among the resource dependents. BSMMT members were elected among the BSMNW members democratically. The capacity building activities for the BSMMT members were supported by the Project, such as training programs on accounting, VDF management, etc.
2. Policy recommendations are	<ul style="list-style-type: none"> ✓ After the project completion, the BNNBPMB planned to integrate a part of EFLO WG and BSM WG, as well as project staff into the

Y
S
P

OVI	Major Achievement
reflected in provincial government documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB for collaborative management of natural resources in part of the national park.	<p>International Center for Tropical Highland Ecosystems Research (hereinafter referred to as "ICTHER") under the BNBNPMB. ICTHER would continue to carry out further development of EFLO, and to ensure the implementation of CM agreement. CEEE would continue CBET activities, according to the CEEE Staff Operation Manual.</p> <p>✓ MARD was implementing a pilot policy on BSM in managing, protecting, developing and utilizing special use forests in two other NPs in Viet Nam. The lessons learned from the Project regarding BSM and CM were likely to be incorporated into the national policy in future.</p>
3. The target villages continue to practice the activities introduced by the project.	<p>✓ A financial mechanism (VDF) was required to cumulate and distribute/ share the benefits/resources among the community members under the BSM initiative. To establish and strengthen VDF, the Project supported the BSM revolving fund through the provision of fertilizers. A part of profit from the CBET activities was also contributed to the VDF.. Approximately 80 million Viet Nam Dong (VND) was accumulated in VDF for each target village so far, and another 80 million VND were injected into VDF by the Project. VDF was managed by BSMNT and BSMNW and used for microfinance activities.</p> <p>✓ The amount of VDF was still small, and the microcredit to each client was too small to have significant impact on their livelihood. The reach of its financial services was limited as well. The growth of fund was slow due to the low price of its services (interest rates) and small amount of members' shared capital (membership fee).</p>

2.6 Target Area

Five villages were selected before the commencement of Project, but 3 villages in Da Chai Commune needed to be replaced at the beginning of Project because Asian Development Fund (hereinafter referred to as "ADB")-funded the Forest for Livelihood Improvement in the Central Highlands (hereinafter referred to as "FITCH") project already covered the commune. Alternative 3 villages were selected quickly through the consultation of the authorities from BNBNPMB and DPC. As a result, all 5 target villages were located outside the NP, within its buffer zone, where the forest landuse rights was officially managed by WMB, and agriculture landuse rights belonged to household with red book. Some areas under the management of WMB and BNBNPMB were cultivated for a long time without red book. The law enforcement for the protection forests within the buffer zone was executed by the District Forest Ranger Station, and for the forestland by District Office of Natural Resources and Environment. The selected villages already lost their traditional lifestyles and had less potential for CBET.

Yes
 11
 12

2.7 Implementation Process and Framework

2.7.1 Communication and Coordination among Project Staff and Stakeholders and Documentation/ Reporting

Through the mechanism of JICA Bidoup Nui Ba Project Management Board (hereinafter referred to as “the Project MB”), WG and JCC, the information was shared among the Japanese experts, C/P personnel and other stakeholders at the national, provincial and local levels, and their views were discussed properly. The experts, core project staff and C/P communicated in a daily basis and worked collectively in an integrated manner. The PDM, PO and Annual Plan of Operations (hereinafter referred to as “APOs”) were reviewed and discussed regularly and revised as needed. The project activities and inputs were recorded properly for monitoring. The Japanese experts produced their reports regularly, which were shared among project staff, C/P and other stakeholders.

The Project MB was established at the beginning of the Project among the Project Director, Project Manager, Accountant, Community Development Officer and secretary. It executed its roles and responsibilities as per the decision by the authority and made key decisions for the project implementation in consultation with the Japanese experts.

2.7.2 Participation of Communities and Selection of Beneficiaries

The participation of community members in BSMNW was voluntary with the support of the project consultants and WGs. The selection of beneficiaries was entrusted to the community members themselves, and the Project ensured the transparency and democracy of the process. The interest of community members over the project activities was generally high. Community participation in the project activities was satisfactory and would be greater, once the CBET, EFLO and BSM activities would generate more benefit/ resources for the participants.

2.7.3 Collaboration with Other Project/ Programs

The project received delegations from other JICA’s projects (e.g. from Dien Bien, Ca Mau and Gia Lai) to visit the site and to share experiences. Also, the methodology developed by a JICA’s grass root project in Bach Ma national park was adopted for EFLO activities. 2 JOCVs have been dispatched and assigned to the works related to CBET and BSM. A bus provided under the Grant Aid Scheme of Japanese Government was utilized for CEEE’s environmental education activities as well.

The Project cooperated with the World Wide Fund for Nature (hereinafter referred to as “WWF”) project on community tourism in Da Chais Commune, Lac Duong District, as well

Handwritten signature and initials in the bottom right corner of the page.

as the Center for People and Forests (hereinafter referred to as “RECOFTC”) for CM-related activities after the signing of MoU between JICA and RECOFTC for a comprehensive, long-term collaboration. The Project was implemented through the harmonization with the master plan on ecotourism development in BNBNP formulated by the ADB funded FLITCH project.

The Project cooperated with Viet Nam Conservation Fund (hereinafter referred to as “VCF) in the area of environmental education, especially for the printing of environmental education materials and establishment of Green Clubs at secondary schools.

2.7.4 Social and Environmental Consideration

EIA was conducted for the CBET implementation plan before the construction of tourism infrastructure. The minority people were the main target of the Project, and vulnerable groups in the communities, such as the poor and women were encouraged to participate in the Project.

2.8 Factors Positively Affected Results

The legal and institutional frameworks were in place for the BNBNPMB to work even outside the NP (i.e., buffer zones). The development of a new headquarters of BNBNPMB and its related facilities in Da Nhim by the Vietnamese Government supported the project activities.

2.9 Factors Negatively Affected Results

The involvement of WMB and Tourism, Trade and Investment Promotion Center (hereinafter referred to as “TIPC”) under PPC as C/P for the Project was not indicated in the R/D, and their commitment to the Project could have been greater. However, through the effort of project staff and concerned agencies, the difficulties were overcome without significant negative impact on the project outcomes.

3 Evaluation Results

The evaluation result based on the five criteria is summarized in the table below:

Evaluation Criteria	Evaluation Result	Remark
Relevance	High	<ul style="list-style-type: none"> ✓ No significant changes were observed in the policies of governments in the sector or plan/ program of Japanese aid to Viet Nam since the Mid-Term Review. ✓ The Project continued to address the needs of improvement in park management and livelihood enhancement of forest-dependents, most of who are minority groups and vulnerable sector in the society.

Yes
 0
 10
 5

Evaluation Criteria	Evaluation Result	Remark
Effectiveness	High	<ul style="list-style-type: none"> ✓ CBET was a new concept in the area, and BNBPNPMB had no experience in developing CBET before the Project. The difficulties in developing and promoting CBET was anticipated during the planning stage of the Project before its commencement, thus the targets were set at the achievable levels from the outset. OVIs related to CBET were considered to be met as a result. ✓ The introduction of FFS/FFE methodologies under the EFLO component was effective for the capacity building of community members as well as the staff members of C/P and other concerned agencies. ✓ The productivity of targeted farmers was improving gradually, and its effect would be seen in a long-run, if the adoption of new technologies continued. ✓ The CM concept evolved through various project activities and discussions, and the Project would consolidate it into documents and policy recommendations through further workshops and discussions before the end of Project. The CM agreement was likely to be signed among the target communities, BNBPNPMB and CPC before the project completion, which was the indicated in the OVIs of Overall Goal. ✓ The enforcement and monitoring of VR would be strengthened further.
Efficiency	High	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The adequate inputs (experts, C/P personnel, operation funds, etc.) were provided to the Project on time from both Japanese and Vietnamese sides, and project activities were undertaken as per the schedule. The field observation during the Joint Terminal Evaluation revealed that the inputs were utilized properly overall, and vehicles, equipment and facilities were maintained appropriately. ✓ C/P personnel were sent to Japan for training, and their skills and knowledge were gained through the training and were utilized for their works. ✓ The dispatch of Japanese Ecotourism experts could have been included in the original project plan and earlier. ✓ With the limited inputs of Japanese experts, the Project utilized local consultants effectively.
Impact	No major conceivable negative impact, and positive impact is Moderately High	<ul style="list-style-type: none"> ✓ EIA was conducted by the Project for the CBET implementation plan. The EIA report was approved by the competent authority (MONRE). ✓ Less-chemical farming techniques were promoted by the Project, which would have a positive impact on the environment. The awareness of certain community people was increased towards environmental protection. Some villagers voluntarily started collecting garbage in the trails. However, the overall impact of monoculture coffee plantation on biodiversity and environmental was unknown.

Evaluation Criteria	Evaluation Result	Remark
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ The CM concept had positive impact on the promotion of effective and efficient collaboration among concerned agencies and communities. Certain methodologies and procedures developed by the Project were/ likely to be adopted by other programs. For instance, FFS and FFE would be adopted as an approach for existing agriculture extension works of the Government. ✓ The project experiences were shared among other NPs, MARD and MONRE through a national workshop in Hanoi in March 2013 and other exchange programs. The lessons learned from the Project regarding CM, including BSM, VDF and VR were likely to be incorporated into the national policy on the NP system in Viet Nam, a part of which were being piloted by MARD for managing, protecting, utilizing and developing special use forests in two other NPs. ✓ In order to achieve the Overall Goal indicated in the PDM, it was necessary to display a model for CBET, EFLO and CM that actually generated sufficient resources needed for collaborative natural resource management. While viable approach evolved through the Project for those components, the actual generation of sufficient benefits to the community members required further development for the concept to be considered as a model. ✓ The draft of policy recommendations was not yet available at the time of Joint Terminal Evaluation, and the deliberation of the contents of such recommendations was still at the early stage.
Sustainability	High	<ul style="list-style-type: none"> ✓ The capacity of C/P personnel was strengthened through the support of experts and local consultants, and the organizational capability was enhanced through the provision of infrastructure, vehicles and other equipment. The BNBPN collected entrance fees, part of which would be used for the maintenance of infrastructure constructed under the Project. ✓ The master plan on ecotourism development for BNBPN was prepared under the ADB fund, which incorporated the outcomes of Project. The plan was approved by the competent authority at the provincial level. Therefore, the project outputs regarding CBET were expected to be maintained by the Government with adequate fund and trained staff of CEEE after the Project. CEEE Staff Operation Manual was prepared, which included the benefit sharing guideline to the community members participated in the CBET activities and VDF. CEEE's business plan, including a marketing strategy, would be prepared before the project completion. However, the CBET products needed to be developed further so that the marketing and promotion could bring more tourists to the villages and areas. A real CBET model required more time to fully develop. ✓ FFS/FFE had significant impact on the capacity building of community people, WG members and project staff, most of who

Evaluation Criteria	Evaluation Result	Remark
		<p>would return to BNBPNMB. FFS Manual was prepared by the Project.</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ The farming techniques introduced by the Project through FFS/FFE were considered environmentally sustainable. ✓ The CM mechanism was likely to sustain and develop further with the official agreement and promoted concept. ✓ BSM/ VDF in the targeted villages were established, though its growth was uncertain as discussed in Impact. Further development and maintenance of BSM/ VDF requires significant efforts.

4 Conclusion

Overall, the Project achieved its targets indicated in the OVI of PDM. The Project contributed greatly to the capacity building of target communities and concerned agencies through extensive training programs, study tours, workshops and handholding support by the experts. The Project introduced innovative concepts of CBET, as well as an advanced management tools as FFS/FFE, CM, BSM, VDF, etc. The concept and tools were applied on the ground, evolved and proved their viabilities. The Project also strengthened the institutional capability of BNBPNMB through assigning its staff to the project activities and participating in the training programs in Japan as well as Viet Nam to share experience. The infrastructure development and provision of vehicles and equipment also contributed to the capacity building of BNBPNMB.

Those achievements were made possible through appropriate implementation processes and institutional frameworks. Experts, C/P personnel and other stakeholders communicated well and worked collectively through the mechanism of the Project MB, WG and JCC. Community participation was stressed, and other concerned authorities and agencies were involved in project activities and decision making for the Project.

Therefore, the Project achievements were rated as high in the five evaluation criteria as indicated in the previous section and can be concluded that very satisfactory. The Project generated a lot of lessons learned, which could be adopted by other projects and future initiatives as indicated in the following sections.

5 Recommendations

<To the Project>

- 1) The Project planned to propose an EFLO extension and promotion plan before the completion of Project. The proposal should address the issue of sustainability,

replicability and institutionalization/ mainstreaming of FFS and FFE into the Government system. Also, the proposal should include a clear institutional framework for implementation and strategy to utilize existing institutional mechanism for agricultural extension and livelihood improvement in the area, such as the services of Agricultural Extension Workers and Agricultural Collaborators at the community levels through the collaboration with AEC and concerned AC.

- 2) In order to manage natural resources in the national park and buffer zone with the target community groups in a collaborative manner, the CM-related activities of the Project should further be strengthened. There should be more discussions with CPC to enhance their understanding about project activities, and their interests should be addressed in the process of discussion for the finalization of CM agreement.
- 3) In addition to the CM agreement among BNBPNPMB, the communities and CPC, the broader CM agreement among concerned agencies and organization, should be discussed before the project completion among concerned agencies for future initiatives. Such action is likely to make significant contributions to implementation of the Vietnamese policy on protected areas so that the on-going activities should be integrated as a CM model for its replication in other national parks of Viet Nam.
- 4) The Project should consolidate the experience into a simple VR process for the Government to replicate at communities in and around the special use forest as well as protection forests. Policy-level initiatives were required to introduce project's approach on the VR formulation and monitoring to propose actual changes in the Government procedures and institutionalize/ mainstream the project approach.
- 5) To ensure the sustainability and growth of VDF, the fund should be used as a revolving fund in a pattern of revolving practice, as indicated in the VDF regulation approved by concerned authorities. To cover the transaction cost and secure necessary capital for the fund, appropriate level of interest rates should be determined and implemented. It is necessary to explore additional sources for VDF.

<To Vietnamese Side>

- 6) CEEE needs to develop further ecotourism products after the project period through the active participation of communities, and the trials on the environmental education/ interpretation through schools appeared to have certain potential and needs to be strengthened. In parallel, BNBPNPMB should continue the capacity building of CBET groups in the communities and CEEE in managing and developing CBET activities. The TO needed to be involved more in the product development so that the marketing and promotion could be enhanced. While existing cultural and natural attractions in the target villages were limited, the agro-tourism and environmental education/ interpretation

Y
H
S

would be developed to promote CBET.

- 7) BNBPNPMB should continue to strengthen further BSMNW and BSMMT, with its VDF, after the project period. Based on this strengthened mechanism, the EFLO groups would be transformed eventually into a cooperative or cooperative groups so that the followings could be achieved: 1) quality and quantity improvements of agricultural products, 2) product diversification, 3) risk hedge (purchase of agriculture insurance products), 4) collective marketing, 5) certification and 6) other value-addition. This would draw more financial resources into VDF and thus BSM as a whole system.
- 8) To strengthen VR and its enforcement and monitoring continuously after the Project, an amendment of current mechanism for PFES fund distribution should be explored by MARD and PPC to strengthen the village organizations. Also, the application of experiences and outputs of the Project would enhance the implementation of United Nations Reducing Emissions from Deforestation and Forest Degradation in Developing Countries (hereinafter referred to as “UN-REDD”) Phase II.
- 9) BNBPNPMB should incorporate the lessons learned and recommendations by the Project into the next NP Management Plan and tourism-related plans/ master plans/ strategies in future.
- 10) Currently EFLO is implemented where a limited number of local households have red books for small agricultural land, and other households are cultivating the forestlands without red books. While the tenure and usufruct rights of those who have no red books are secured through VR for their existing cultivated lands, the controlling authority belongs to the Government (WMB). The Vietnamese Government needs specific management regulations to ensure the sustainability of land-based EFLO activities.

<To Japanese Side>

- 11) JICA should continue to monitor further development of project outcomes and maintain dialogue with Vietnamese authority regarding further improvements and support for BNBPNP and other national park in Viet Nam.

6 Lessons Learned/ Reference to Other Projects

- 1) CM is a new approach in the natural resource management in Viet Nam. VR and BSM are the two vital factors to maintain CM. In order to support the communities to implement CM, the establishment of VDF and BSMNW is significant. It is important to establish and strengthen an inter-organizational, collaborative management mechanism for natural resource management beyond mere collaboration between a NP office and communities, since the stakeholders for natural resource management are multiple and in a wide range.

Yes
h
MS
S

The stakeholders/ platform members should be identified carefully during the planning stage.

- 2) When found feasible and appropriate, the scope of such collaboration would cover the activities inside a NP. In such a case, the contents of CM agreement and mechanism of benefit sharing from the use of natural resources within the NP must be deliberated carefully.
- 3) It is important that the platform regarding CM has the legal/ policy support by the Viet Nam Government.
- 4) When possible and appropriate, international initiatives would be used as effective tools in conservation, in addition to the support by national policies and programs. The initiatives include the Convention on Biological Diversity (hereinafter referred to as “CBD”), United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (hereafter referred to as “UNESCO”) World Heritage Program or Man and Biosphere Program (hereinafter referred to as “MAB”), etc.
- 5) In order to operationalize an inter-organizational platform for natural resource management, it is important to 1) clarify the purpose of the platform, 2) share such purpose among the stakeholders, 3) demonstrate that such platform would bring actual benefit to the stakeholders (incentive generation). It should be ensured that the purpose of CM addresses the contribution to the higher objectives of international/ national targets (such as the Viet Nam National Action Plan on Biodiversity Conservation in 2007, Viet Nam National Action Plan for Sustainable Development in 2013 and the Aichi Biodiversity Targets committed by the both the Viet Nam and Japanese Governments, among others, during CBD Conference of Parties (hereinafter referred to “COP”) 10 in 2010).
- 6) When planning a livelihood improvement component, achievable targets should be set in consideration of available resources and project period. For instance, the development of CBET requires a lot of time when the CBET concept is new to a project area. A proper implementation structure needs to be in place to encourage community initiatives, and adequate time, budget and experts should be allocated to attain the set goal during the planning.
- 7) It is vital to establish a mechanism for the livelihood benefit of local population to result in natural resource conservation. For this, community’s responsibilities must be stressed in exchange of benefit. A participatory process of village regulation formation is an effective tool, and its enforcement and monitoring are essential. For the community members to be able to execute their responsibilities for conservation, a workable benefit sharing mechanism is indispensable with a proper institutional framework and financial

YQ
D
P/S
R

facilities (e.g., VDF), possibly through the collaboration with PFES and UN-REDD. It was found that the combination of CBET, EFLO and CM helps to achieve the objectives of both conservation and livelihood development.

- 8) To address the conservation issue directly, a project component of natural environmental protection may be included in a project, if the project resources allow. It is important to be able to monitor actual impacts of a project on biodiversity. For this, necessary data on natural environment should be collected through participatory resource inventory, and the data needs to be updated regularly with the involvement of community people.

YU
h
m
R

ANNEX 01 Draft Project Design Matrix (PDM) (version 3.0)

Project Title: The Project for Strengthening Community-based Management Capacity of Bidoup-Nui Ba National Park

Project Period: 2010.1 - 2013.12 (4 year)

Target Area: Five villages (B'No B, Bon Dung I, Da Tro, Da Ra Hoa, Da Blah) in the buffer zone of Bidoup-Nui Ba National Park

Target Group: Bidoup-Nui Ba National Park Management Board (BNBNPMB), Department of Agriculture and Rural Development (DARD), Five Target Villages

Ver.3.0

(prepared in December 2011)

NARRATIVE SUMMARY	OBJECTIVELY VERIFIABLE INDICATORS	MEANS OF VERIFICATION	IMPORTANT ASSUMPTION
<p>Overall Goal BNBNPMB can manage natural resources in part of the national park with the target community groups¹ in a collaborative manner.</p>	<p>1. Agreements between the target community groups and BNBNPMB on management of natural resources in part of the national park are concluded within three years after the end of the Project. 2. Policy recommendations are reflected in provincial government documents such as decisions, guidelines, and plans, necessary for the community groups and BNBNPMB for collaborative management of natural resources in part of the national park. 3. The target villages continue to practice the activities introduced by the project.</p>	<p>Agreement Government documents Government documents Project Report Project Report</p>	<p>There is no significant change in natural environment of the park.</p>
<p>Project Purpose The capacity of BNBNPMB to manage natural resources in the national park is enhanced through development of a collaborative management model at the target villages.</p>	<p>1. Consensus on collaborative management is built between the target community groups and BNBNPMB, then draft agreements on management of natural resources in part of the national park are prepared by the end of the Project. 2. Policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO are produced. 3. More than 70% of the BNBNP staff who participate in the Project understands how to implement the model of collaborative management of natural resources in the national park.</p>	<p>Project Report/Decision Questionnaire Survey/Interview before and after the training Project Report / Plan Project Report / Map</p>	<p>1. There is no significant change in upper level development plans, policies, and laws. 2. There is no major change in the organizational structure, upper level plan, policy and regulations of BNBNPMB. 3. Economic situation does not deteriorate dramatically in the local context.</p>
<p>Outputs 1. Implementation structure for the two components to be introduced by the Project (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is established. 2. Basic principles/rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community groups and BNBNPMB.</p>	<p>1-1. Working groups are formulated within 3 months after the commencement of the Project. 1-2. The capacities of working groups members are enhanced through a series of training courses organized by the project as compared with those before the project 2-1. Basic information of the target villages, including present resource map of the village, is gathered and prepared in a participatory manner within 9 months after the commencement of the Project. 2-2. Rules and principles on natural resource use in the park are developed in a participatory manner within 15 months after the commencement of the Project and are enforced by villagers themselves.</p>	<p>Project Report / Plan Agreement made among three parties Project Report Questionnaire Survey/ Interview Workshop Report Workshop Report</p>	
<p>3. A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites.</p>	<p>3-1. Implementation plans of CBET at the selected sites are prepared within 16 month after the commencement of the Project. 3-2. More than 5% of the households in the target villages take part in the CBET component with some earnings from CBET activities. 3-3. More than 15 tour operators which have signed minutes of agreement with BNBNPMB participate in CBET activities. 3-4. Institutional and infrastructure set-ups are developed for implementation of a trial run of CBET model within 18 months and 28 months respectively after the commencement of the Project. 3-5. More than 50% of visitors / guests are satisfied with the contents of the CBET model offered by the component. 3-6. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.</p>		

00 27 2

<p>4. The ecologically-friendly livelihood options (EFLO) that can be accepted by the target community groups are developed and ready for dissemination among the communities.</p> <p>5. Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the EFLO introduced by the Project.</p>	<p>4-1. More than 70 % of the members of the community groups adopt at least one of the ecologically-friendly livelihood options introduced in the component, and more than 50% of the participants of EFLO raise production or value of crops they are cultivating.</p> <p>4-2. Lessons learned and recommendations based on the evaluation of the trial run are shared with the relevant stakeholders.</p> <p>4-3. An/A extension plan and promotion plan to disseminate the same options to other villagers, as well as other villages is prepared.</p> <p>5-1. Issues to be addressed and necessary actions/interventions to be taken are reported by the project management in Joint Coordinating Committee (JCC) by the end of the Project.</p> <p>5-2. An action plan with recommendations to the relevant organizations are approved by JCC by the end of the Project.</p>	<p>Questionnaire Survey/ Interview</p> <p>Workshop Report</p> <p>Project Report/Extension plan</p> <p>Project Report M/M agreed by JCC</p> <p>Project Report M/M agreed by JCC</p>	
<p>Activities</p> <p>1-1. Organize working groups (WGs) for implementation of CBET and extension of EFLO in the target villages.</p> <p>1-1-1 Clarify and define the roles and responsibilities of the relevant divisions and sections under DARD of Lamdong Province.</p> <p>1-1-2 Select staffs who can work for the Project from the relevant sections and divisions of BBNPMB, DARD of Lamdong Province, and DAC (District Agriculture Center)</p> <p>1-1-3 Organize working groups and define the roles and responsibilities of the members of the groups</p> <p>1-1-4 Reorganize and strengthen WG when CBET and EFLO get into implementation stage.</p> <p>1-2. Provide training to the WGs to enhance their capacity to implement the Project.</p> <p>1-2-1 Conduct a training need assessment to identify the training needs of the members of WGs</p> <p>1-2-2 Develop a training / capacity development program for the members based on the results of training needs assessment</p> <p>1-2-3 Implement a training/capacity development program.</p> <p>2-1. Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner</p> <p>2-1-1 Develop the TOR for the survey and invite possible local resources to a bid.</p> <p>2-1-2 Select a/ contractor/s for the work</p> <p>2-1-3 Organize and hold socialization and consultation meetings at the target villages to explain the project to local communities of the villages.</p> <p>2-1-4 Select community members who would take part in the implementation of the Project.</p> <p>2-1-5 Conduct a household interview survey and PRA at the target villages.</p> <p>2-1-6 Figure out the present natural and social conditions of the target villages, traditional knowledge and practices in natural resource use, issues in natural resources use and agricultural production, any development needs and potentials of the target villages.</p> <p>2-2 Develop, together with local communities of the target villages, rules and principles on use of natural resources in the target villages and enforce them with local communities.</p> <p>2-2-1 Develop a present conceptual map on resources of the target villages through participatory method.</p> <p>2-2-2 Identify the potential natural resources that can be used for CBET or EFLO support.</p> <p>2-2-3 Develop rules and principles on use and management of natural resources in the national park so that local communities can gain economic benefits from the resources in a sustainable manner</p> <p>2-2-4 Enforce the rules and principles together with local communities.</p> <p>2-3 Develop and operate Benefit Sharing Mechanism on CBET and EFLO with communities which benefit the target villages</p> <p>2-3-1 Develop Benefit Sharing Mechanism on CBET and EFLO in a participatory manner.</p> <p>2-3-2 Operate Benefit Sharing Mechanism together with communities.</p> <p>3-1 Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground</p> <p>3-2 Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target villages.</p> <p>3-2-1 Select local communities/households who will take part in the CBET component considering the resource used for CBET and organize the selected households into group(s)</p> <p>3-2-2 Identify necessary activities for implementation of the CBET component together with the organized community group.</p> <p>3-2-3 Identify necessary facilities and equipment / other infrastructure set-ups for implementation of the CBET component and confirm site conditions where the listed facilities / equipment are to be installed/built.</p> <p>3-2-4 Develop a work plan including a construction plan for the CBET component in a participatory manner.</p> <p>3-2-5 Estimate the total budget required for implementation of the CBET component.</p>	<p>Inputs</p> <p>Japanese Side</p> <p>Japanese Experts (long-term)</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chief Advisor/Collaborative Management • Coordinator/Community Development (Other experts will be determined during the course of the Project as needed.) <p>Equipment and machinery</p> <p>Provision of training</p> <p>Local expense</p>	<p>Vietnamese Side</p> <p>Counterpart Personnel</p> <ul style="list-style-type: none"> • Chairperson of the Provincial Steering Committee • Project Manager • Staff of BBNPMB • Staff of DARD • Staff of District Agriculture Center <p>Facility and Equipment</p> <ul style="list-style-type: none"> • Project office building • Office facilities <p>Administration and operational cost</p>	<p>I. Economic situation does not worsen drastically.</p> <p>2 An extensive wildfire does not occur.</p> <p>3. There is no significant transfer of counterpart personnel in WG.</p> <p>4. There is no plan of resettlement for the target communes.park boundary.</p> <p>PRECONDITIONS</p> <p>I. Local communities who reside adjacent to the</p>

<p>3-2-6 Build a consensus among all the stakeholders on sharing cost as well as responsibilities in implementation of the CBET component.</p> <p>3-3 Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasures into the implementation plan stated in activity [3-2] above.</p> <p>3-3-1 Review the existing regulations on environmental impact assessment.</p> <p>3-3-2 Identify the potential environmental impacts attributable to CBET component</p> <p>3-3-3 Assess the identified impacts from legal, perspectives and non-legal perspectives (community value).</p> <p>3-3-4 Incorporate countermeasures as necessary.</p> <p>3-4 Establish an institutional set-up for implementation of the CBET component and enhance the capacity of the organized community group to participate in the CBET component.</p> <p>3-4-1 Develop a training plan for the members of the community group so that they can take part in the CBET component.</p> <p>3-4-2 Organize a variety of training courses for the members in accordance with the training plan.</p> <p>3-4-3 Set up fees to be collected from a guest (e.g., payment to a guide, accommodation fee, etc.) in a participatory manner.</p> <p>3-4-4 Build a consensus among the stakeholders on sharing benefits gained from implementation of the CBET component.</p> <p>3-4-5 Construct/install facilities and equipment as planned in [3-2] by the Project</p> <p>3-4-6 Make a rule on use of facilities and equipment provided under the CBET component and make an agreement among the community group, BNBPNPMB and the Project.</p> <p>3-4-7 Formulate a marketing strategy for a CBET model (e.g., preparation of simple advertising materials, namely brochure and flyer)</p> <p>3-4-8 Make a contingency plan in preparation of any accidents during implementation of the CBET component.</p> <p>3-4-9 Make business cooperation with Tour Operators through MoA.</p> <p>3-5 Make a trial run of CBET</p> <p>3-5-1 Assist the target community group in the implementation of a CBET model on trial.</p> <p>3-5-2 Check the satisfactory level of guests by using a simple questionnaire</p> <p>3-5-3 Monitor the progress of the component periodically and provide necessary technical assistance to the community group as well as the NGO(s).</p> <p>3-6 Evaluate the component implemented.</p> <p>3-6-1 Develop an evaluation plan to evaluate the CBET component together with the working group</p> <p>3-6-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBPNPMB, respectively.</p> <p>3-6-3 Draw lessons learned and present recommendations.</p> <p>4-1 Identify EFLO to be introduced in the target villages.</p> <p>4-1-1 Assess the present constraints on agricultural production.</p> <p>4-1-2 Short-list the possible livelihood options to be introduced in the target village based on the land use and resource map Assumptions prepared in [2-1].</p> <p>4-1-3 Assess the possible options easiness, applicability, economic impact, environmental impact, and demonstration effect together with local communities</p> <p>4-1-4 Select the EFLO to be introduced in the target villages.</p> <p>4-2 Develop a work plan to introduce EFLO in the target villages.</p> <p>4-2-1 Select local communities / households who participate in the program and organize them into a group at each village.</p> <p>4-2-2 Select core members for demonstration purposes and define the roles and responsibilities of the members of the groups.</p> <p>4-2-3 Make a work plan including a hands-on training together with the community group defining responsible persons/bodies for each activity of the work plan and make an agreement among the community group, the work group and the Project.</p> <p>4-2-4 Facilitate the discussion of sharing benefits/products gained in the program among the members.</p> <p>4-2-5 Estimate the total cost necessary for implementation of the component.</p> <p>4-3a Organize hands-on training (Farmer Field schools: FFSs and relevant hands-on trainings) in the plots of the core members (If the proposed livelihood option is the improvement of agricultural production such as coffee). Organize groups among the graduates of FFS etc. and improve the management environment and add the value of the crops</p> <p>4-3a-1 Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.)</p> <p>4-3a-2 Organize a series of hands-on training courses (Farmer Field Schools: FFSs) at the demonstration plots.</p> <p>4-3a-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the farming techniques demonstrated in FFSs.</p> <p>4-3a-4 Organize an annual monitoring workshop with each community group.</p> <p>4-3a-5 Make trainer's manuals on the hands-on trainings based on the results of the trainings</p> <p>4-3a-6 Organize groups among the graduates of FFS and the relevant trainings</p> <p>4-3a-7 Increase profitability of EFLO activities through improvement in credit accessibility, processing and marketing.</p> <p>4-3c Organize hands-on training on livelihood options (If the proposed livelihood option is the production of cottage industry, such as handicraft).</p>	<p>boundaries or currently use natural resources in BNBPNP are willing to participate in the Project.</p> <p>2. There is no plan of resettlement that makes all residents move out the park boundary.</p>
--	---

<p>4-3c-1 Organize study tours for the community group as well as core members (In the case where only the core members are taken to a study tour, a feedback meeting should be organized to share the results of the study tour with other members.) 4-3c-2 Organize a series of hands-on training courses on the proposed livelihood options 4-3c-3 Provide necessary materials so that other group members could introduce the techniques demonstrated in hands-on training. 4-3c-4 Conduct a research to market the products to be produced under the component. 4-3c-5 Organize an annual monitoring workshop with each community group.</p>	<p>4-4 Evaluate the component implemented</p>	<p>4-4-1 Develop an evaluation plan to evaluate the ecologically-friendly livelihood support component together with the working group 4-4-2 Organize separate evaluation workshops with the community group and BNBPNPMB, respectively. 4-4-3 Draw lessons learned and present recommendation</p>	<p>4-5 Develop an/a extension plan/promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages. 4-5-1 Identify potential difficulties in disseminating the options /techniques to other villages. 4-5-2 Develop a manual for application of the EFLO so that other local communities in the target villages as well as other villages around the park could introduce such options/techniques in their own farms/plots. 4-5-3 Formulate a marketing strategy to sell NTFPs/handicraft. /other products produced in the component (Simultaneously examine the possibility of the linkage with the CBET program, such as green tourism and souvenirs) 4-3-4 Draft an extension/promotion plan for promotion of the EFLO in the buffer zone of the park.</p>	<p>5-1 Based on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and EFLO components after termination of the Project. 5-1-1 Identify necessary government support (e.g., any legislative arrangement for allocation of long-term resource use rights to the communes, an investment plan to support the target community group as well as other communities to continuously apply the EFLO, etc.) 5-1-2 Identify necessary training or capacity development activities for the target community groups to continue the components and manage natural resources in accordance with the rules/principles defined in [2-2]. 5-1-3 Explore possible funding sources for the target community groups to continue the components.</p>	<p>5-2 Draft an agreement between BNBPNPMB and the target community groups on collaborative management of natural resources in the national park. 5-2-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-2-2 Prepare an initial draft. 5-2-2 Conduct public hearing. 5-2-3 Finalize the draft. 5-3 Produce policy recommendations to provincial government for ensuring continuous implementation of collaborative management including activities of components of village regulations, CBET and EFLO. 5-3-1 Formulate a drafting team consists of stakeholders. 5-3-2 Prepare an initial draft(s). 5-3-3 Conduct public hearing. 5-3-4 Finalize the draft(s).</p>
---	---	--	--	---	---

1: "Target community groups" are the villagers' groups of community /households who are living in the same village and willing to take part in the Project.

2: "Participants of EFLO" means those who participate in Farmer's Field School (FFS), Farmer to Farmer Extension (FF), Practice-based Extension (PBE), etc. which are carried out by the Project.

**ANNEX 02 Project for Strengthening of Community Based Management Capacity of Bidoup Nui Ba National Park
Evaluation Grid (Terminal Evaluation)**

Criteria	Evaluation Question		Source of Information	Q-No.	Remark	
	Item	Sub-Item				
1. Relevance	Fulfillment of local needs	1-1	Local needs during the planning stage and to date (new findings), reflection of the needs in the project plan and designs, meeting the needs through the project activities	Q2		
		1-2	Appropriateness/ practicality/ innovativeness of technical and managerial approaches vis-à-vis relevant policies, institutional setups, human resources and project purpose			
		1-3	Consistency of Overall Goal and Project Purpose with the aid program of Japanese Government, priority sectors & regions of Vietnam government			
	Appropriateness of approach	1-4	Consistency of Overall Goal and Project Purpose with the decisions/ commitments/ target of CBD, UNFCCC, Rio +20 and other relevant international institutions	Q3	Quick validation of Ex-Ante Evaluation and Midterm review	
		1-5	Appropriateness of important assumption			
2. Effectiveness	Achievement of Outputs	2-1	Extent to which the OVs for Outputs have been achieved (logical linkage between Project Purpose & Outputs needs to be re-examined)	Q4, 5, 6, 7	Special attention to their Sustainability	
		2-2	Extent to which the OVs for Project Purpose have been achieved			
	Achievement of Project Purpose	2-3	Methods and process of agreement and policies being developed	Q8, 9		
		2-4	Significance of achievements that are not included in the PDM or PO			
	Process through which the Project Purpose has been achieved	Unexpected/unplanned achievements		<ul style="list-style-type: none"> Midterm review report Completion/ Progress reports and other related documents Interview 	Q4, 5, 6, 7	
				<ul style="list-style-type: none"> Ex-Ante Evaluation Report Midterm review report Documents on Japan's aid programs for Vietnam Development and protection policies and plans of the Vietnam Government Interview Documents regarding the international institutions Ex-Ante Evaluation Report Midterm review report 		
				<ul style="list-style-type: none"> Midterm review report Completion/ Progress reports and other related documents Documents on self-evaluation 		
				<ul style="list-style-type: none"> Midterm review report Completion/ Progress reports and other related documents Documents on self-evaluation Site visits Interview 		
			<ul style="list-style-type: none"> Midterm review report Completion/ Progress reports and other related documents Documents on self-evaluation Interview 			
			<ul style="list-style-type: none"> Midterm review report Completion/ Progress reports and other related documents Documents on self-evaluation Interview 			

is 

Criteria	Evaluation Question		Source of Information	Q-No.	Remark	
	Item	Sub-Item				
3. Efficiency	Facilitating/hindering factors	2-5 Factors in respect to: policies, institutions, organizational frameworks, resource, technologies, knowledge, politics, socio-culture, natural environment, etc.	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Site visits • Interview 	All		
		3-1 Appropriateness and balance of the types, volumes/ amounts, qualities and timing of inputs from both Japan and Vietnam sites in view of project needs	<ul style="list-style-type: none"> • Data from the project • Site visits • Interview 	Q10		
	Inputs and utilization of inputs, accomplishment of Project Activities	3-2 Resource augmentation through the well-coordinated collaboration with other agencies and programs	<ul style="list-style-type: none"> • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Interview 	Q11		
		3-3 Methods/ process of project planning, documentation, reporting, progress monitoring, evaluation, feed-backing at various levels	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Interview 	Q12		
		4-1 Probability of agreements to be concluded between the park and communities	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Interview 	Q5, 13		
4. Impact	Projection of achieving Overall Goal	4-2 Unexpected impact/ byproducts/ synergy effects	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Interview, if necessary • Site visit 	—		
		4-3 Prevention of negative impact (environmental safeguard mechanism for infrastructure development)	<ul style="list-style-type: none"> • Site visit 	—		
		5-1 Frequency of transferred technologies/ skills/ knowledge being utilized by beneficiaries	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Interview • Interview 	Q8		
		5-2 Changes in attitude, behaviors, enthusiasm, morale of training participants	<ul style="list-style-type: none"> • Interview 	Q8		
		5-3 Capability of institutions and mechanisms	<ul style="list-style-type: none"> • Interview 	Q4, 5, 6, 7, 9, 13		
5. Sustainability	Human resource development	5-4 Probability and types of continuing supports by the governments for project outcomes	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Interview 	Q14		
		5-5 Financial viability of businesses/ livelihood options introduced by the project	<ul style="list-style-type: none"> • Midterm review report • Completion/ Progress reports and other related documents • Documents on self-evaluation • Site visit 	—		
	Institutional aspect			<ul style="list-style-type: none"> • Interview 	Q4, 5, 6, 7, 9, 13	
				<ul style="list-style-type: none"> • Interview 	Q8	
				<ul style="list-style-type: none"> • Interview 	Q8	

ANNEX 03 Schedule of Joint Terminal Evaluation Mission

Day	Date	Activities	Persons to meet	Place
1	12 Jun (Wed)	<Mr. Tsuji> 09:30 Departure from Tokyo/Narita (JL5005) 13:45 Arrival at Ho Chi Minh 15:50 Departure from Ho Chi Minh (VN1382) 16:40 Arrival at Dalat		
2	13 Jun (Thu)	7:30: Meeting with JICA Experts 8:30: Meeting with Director of BNBNPMB 9:30: Meeting with Vietnamese evaluation leaders and consultants 14:00: Meeting with Community-Based Ecotourism (CBET) members	Mr. Oda, Mr. Tamari Mr. Huong Vietnamese Evaluation team Mr. L. Minh, Mr. Tien, Mr. K'Vang, Mr. Trang, Ms. Trang, Mr. Thuan, Mr. Nguyen	Project office
3	14 Jun (Fri)	10:00: Meeting with DoCST 13:30 Meeting with EFLO members 15:30 Meeting with CM members	Mr. Hoàng Ngọc Huy Mr. Cai, Mr. Hoang, Ms. Dung Mr. Son, Mr. Tinh	DOCST Project office Project office
4	15 Jun (Sat)	8:30: Meeting with Lac Duong community members 13:30: Meeting with Lac Danhim community members	Ms. Cil Môm Blui (CBET) Mr. Bon Ding Dim (EFLO) Mr. Păng Tin Sin (CM) Mr. Hoàng Mr. Cil Phi Crieu Ha Trái (CBET) Mr. Cil Pam Ha Đãng (EFLO) Mr. Cil Pam Ha Toan (CM) Mr. Hoàng	Bong Dong 1 community hall Da Blah community hall
5	16 Jun (Sun)	Documentation		
6	17 Jun (Mon)	9:00 Meeting with Vice chairman of Lac Duong DPC 14:00: Meeting with Danhim Forest Station, Danhim Watershed Management Board	Mr. Pham Trieu, Mr. Huong Mr. Nguyen Van Danh Mr. Mai Van Duong Mr. Son	Lac Duong DPC Danhim Forest Station
7	18 Jun (Tue)	08:00: Meeting with AEC Officer 10:00: Meeting with Lac Duong AC (both former FFS consultant) 14:00: Meeting with BSM consultant	Mr. Pham Thanh Son, Mr. Cài Mr. Than Xuan Quy, Director Mr. Cài Dr. Phan Trieu Giang, Mr. Son	Project office

Handwritten signature and initials.

Day	Date	Activities	Persons to meet	Place
		Evening: <All members> Internal meeting (with JICA experts)		
8	19 Jun (Wed)	8:30-10:30 Kick-off Meeting 10:30 Visitor Center, Trails 16:00 Courtesy call to on PPC	MB of NP, Project members Danhim: Mr K'Vâng, Mr Tráí Lang Biang: Mr Tamari, Mr Trang, Ms Blui Mr Huong, Mr Oda	Danhim Danhim & Lang Biang
9	20 Jun (Thu)	8:30-12:00 Farmers Field School at Danhim PM: Internal Discussion	WG of EFLO, Mr Son	Danhim Project Office
10	21 Jun (Fri)	9:30-10:30 Meeting with Da Nhim WMB 10:30- Internal Discussion		Project Office
11	22 Jun (Sat)	Discussion between the Mission and Park Director	Mr Huong,	Project Office
12	23 Jun (Sun)	Field Visit to Chu Yang Sin National Park <Mr. Tsuji> Documentation	Mr Oda, Mr Huong	
13	24 Jun (Mon)	Field Visit to Chu Yang Sin National Park <Mr. Tsuji> Documentation	Mr Oda, Mr Huong	
14	25 Jun (Tue)	Meeting with C/P and Vietnamese Evaluation Team	MB of NP, Mr Oda, Mr Tamari, Mr Cai, Mr Giang, VN evaluation team	Danhim
15	26 Jun (Wed)	AM: Meeting with C/P and Vietnamese Evaluation Team PM Finalize the MM, report, and associated documents	MB of NP, Mr Oda, Mr Tamari, Mr Cai, Mr Giang, VN evaluation team	Project Office
16	27 Jun (Thu)	AM: Provincial Steering Committee and Signing Ceremony of Joint Evaluation Report and M/M 17:30 Departure from Dalat (VN1383) 18:20 Arrival at Ho Chi Minh 20:00 Departure from Ho Chi Minh (VN270) 22:00 Arrival at Hanoi	MB of NP, project members, JCC members, evaluation teams	Palace 2
17	28 Jun (Fri)	9:00- Debriefing to Ministry of Agriculture and Rural Development (MARD) 13:30- Debriefing to Embassy of Japan <Mr. Hasegawa, Ms. Taira, Mr. Tsuji> 23:30 Departure from Hanoi (JL752)		
18	29 Jun (Sat)	06:55 Arrival at Tokyo/Narita <Mr. Tanaka> 01:35 Departure from Hanoi (JL5014) 07:35 Arrival at Fukuoka		

ANNEX 05: List of Local Consultants

	Name of works	Name of Consultant	Starting date	Finishing date
JFY 2010 (4.2010 - 3.2011)				
General	Communication skills and Methods for Working with Local Communities (inc TMA)	Hoang Huu Cai	20/05/2010	30/06/2010
General	Training Needs Assessment for BBNBP	Dalat University	08/02/2010	15/03/2010
General	Baseline survey for BBNBP	Nong Lam University	Contract in 2010	by JICA Vietnam
General	Village control survey for BBNBP	Phan Trieu Giang	20/05/2010	10/09/2010
General	[PRA] Participatory Rural Appraisal for BBNBP	Nong Lam University	Contract in 2010	by JICA Vietnam
EFLO	Designing of EFLO	Oscan van den Bosse	11/01/2010	18/03/2011
CBET	Website design	HDT Co.	22/06/2010	16/08/2010
General	Digital map update	Nguyen Duy Khanh	05/10/2010	27/01/2011
CBET	Entrance fee determination	Nguyen Duy Phong	02/01/2011	31/05/2011
CBET	CBET short-term consultant for formulation of CBET implementation plan	Susan Kennedy	22/11/2010	21/01/2011
CBET	do	Susan Kennedy	27/09/2010	19/11/2010
CBET	do	Susan Kennedy	04/01/2011	13/05/2011
CBET	do	Susan Kennedy	24/01/2011	23/03/2011
CBET	Environmental impact Assessment on CBET implementation plan	VESDI	15/02/2011	23/04/2011
JFY 2011 (4.2011 - 3.2012)				
CBET	Tourist demand survey	Peter Douwstra	07/04/2011	25/05/2011
CBET	Formulation of Emergency plan for Bidoup	Trygve Madsen	08/04/2011	20/05/2011
CBET - Visitor Center	Design of VC and signboards for CBET in BBNBP	Ishwara Fumiharu	22/09/2011	27/09/2011
CBET - Visitor Center	Design of Interpretive display images in VC and signboard design images	Dao Van Hoang	01/10/2011	15/12/2011
CBET - Visitor Center	Coordination and supervision of displays in VC and signboards along VC trail	Ishwara Fumiharu	14/10/2011	31/12/2011
CM/ BSM	Establishment of Benefit Sharing Mechanism for CBET and EFLO	Phan Trieu Giang	14/10/2011	13/01/2012
CM/ BSM	Formulation of management rule on natural resources	Anna Phan (Phan Trieu Giang)	17/12/2011	24/03/2011
CBET - Visitor Center	Coordination and supervision of display design and production in VC.(2)	Ishwara Fumiharu	30/01/2012	15/03/2012
JFY 2012 (4.2012 - 3.2013)				
CBET - Visitor Center	VC display design and production supervision	Ishwara Fumiharu	16/04/2012	15/07/2012
CM/ BSM	Materialization of BSM - EFLO study	Phan Trieu Giang	26/04/2012	14/09/2012
CBET - Visitor Center	Panel design	Fumiharu Ishiwara	01/06/2012	25/08/2012
CM/ BSM	CM/BSM report making and presentation material production and presentation	Phan Trieu Giang	29/11/2012	19/03/2013
JFY 2013 (4.2013 - Project's termination)				
CBET	K'Ho handbook	Ly Ngoc Hien	18/04/2013	31/07/2013
General	Digital map update	Nguyen Quoc Binh	18/04/2013	06/06/2013
CBET	Bidoup interpretation material collection	Luong Van Dung	22/05/2013	24/06/2013
CBET	Website design	HDT Co.	24/05/2013	(05/07/2013)
Long Term Local Consultant				
EFLO consultant		Mr. Hoang Huu Cai	11/2010	(31/12/2013)

ANNEX 06: List of National Staff Members

Name	Position	Starting	Ending	Remarks
Mr. Bui The Hoang	EFLO Officer	15Nov2010	31Dec2013	BNBNP staff
Mr. Pham Phu Xuan	CBET Program Officer	01Nov2010	31May2011	
Mr. Phan Xuan Nguyen	CBET Officer	01Jul2011	31Dec2013	BNBNP staff
Mr. Le Van Son	CM Officer	11Apr2012	31Dec2013	BNBNP staff
Mr. Vu Thanh Hung	Project Assistant	13Jan2010	30Dec2011	
Mr. Huynh Quang Minh	Project Assistant	12Dec2011	31Jul2012	
Ms. Tran Thi Ngan Tuyen	Project Assistant/ interpreter	01Sep2012	31Dec2013	
Ms. Vo Thi Anh Tuyet	Project Assistant	10March2010	28Feb2011	
Ms. Dang Hoang Van Ha	Project Assistant	21Feb2011	31Dec2013	
Mr. Dang Quang Quyet	Driver	01Jul2011	31Dec2013	BNBNP staff
Mr. Le Vang Thanh	Driver	01Jul2011	31Dec2013	BNBNP staff
Ms. Pham Thi Kieu Van	Accounting officer	25May2012	31Dec2013	BNBNP officer, part-time (3 days/ month)
Ms. Pham Thi Tam	Cleaner	12Jan2010	31Dec2013	Part time (2 hours/day)

ANNEX 07-01: Equipment Provided by the Project

#	Equipment's name	Location	Person/ organization	Conditions	Remarks
1	Vehicle 1	Project Office		Good	
1	Vehicle 2	Project Office		Good	
2	Motorbike		Ms.Dung	Good	
2	Motorbike		Mr.K'Vang	Good	
2	Motorbike		Mr.Nguyen	Good	
2	Motorbike		Mr.Ton Minh	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Ms.Vanha	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr.Nguyen	Good	
3	Laptop computer	BNBNP	Mr.Ton Minh	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr.Son	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr.Oda	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr.Tuyen	Good	
3	Laptop computer	Project Office		Broken Operation system	Due to field use, the operation system was damaged. It is planned to apply for damaged property
3	Laptop computer	Project Office	Mr.Cai	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr. Hoang	Good	
3	Laptop computer	BNBNP	Ms.Vu Hanh Dung	Good	
3	Laptop computer	CEEE	Mr. Nguyen Luong Minh	Good	
3	Laptop computer	CEEE	Mr. Tran Nhat Tien	Good	
3	Laptop computer	CEEE	Mr. K'Vang	Good	
3	Laptop computer	Project Office	Mr. Tamari	Good	
3	Laptop computer	BNBNP	Mr. Le Van Huong	Good	
3	Laptop computer	BNBNP	Mr. Do Van Ngoc	Good	
3	Laptop computer	Project Office		Broken screen	Plan to repair
4	Desk Top computer	Đa Nhim CPC	Đa Nhim CPC	Good	
4	Desk Top computer	Lat CPC	Lat CPC	Good	
4	Desk Top computer	Lac Duong DPC	Lac Duong DPC	Good	
4	Desk Top computer	CEEE		Good	
4	Desk Top computer	CEEE		Good	
5	Nikon camera D3000	Project Office		Good	
5	Lumix camera ZS3	Project Office		Good	
5	Lumix camera ZS3	Project Office		Lost	BNBNPMB plans to repair
5	Camera DSC S2100	BNBNP	Inspection and Legal department	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Liêng Ka forest station	Lost	BNBNPMB plans to compensate
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Hòn Giao Forest station	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Công Trôi Forest station	Broken	BNBNPMB plans to repair
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Đa Long Forest station	Good	
5	Camera DSC S2100	BNBNP	NP Patrolling team	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Núi Bà forest station	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Klong Klanh forest station	Good	
5	Camera DSC S2100	BNBNP	Forest Management and Protection	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Giang Ly forest station	Good	
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Bidoup forest station	Broken	BNBNPMB plans to repair
5	Camera DSC S2100	Ranger station	Đưng Iar Giêng forest station	Broken	BNBNPMB plans to repair
6	Sony video record HDR-ZR100E	Project Office		Good	
6	Sony video record HDR-ZR100E	Project Office		Good	
7	Panasonic projector	Project Office		Good	
7	Projector: PANASONIC LCD PT - LB78VEA	CEEE		Good	
8	GPS	Project Office		Good	
8	GPS	CEEE		Good	
8	GPS	Ranger station	Lat forest station	Good	
8	GPS	CEEE		Missing	BNBNPMB plans to compensate
8	GPS	Ranger station	Liêng Ka forest station	Good	
8	GPS	Ranger station	Hòn Giao Forest station	Good	
8	GPS	Ranger station	Đưng Iar Giêng forest station	Good	
8	GPS	Ranger station	Klong Klanh forest station	Good	
8	GPS	Ranger station	Bidoup forest station	Good	

#	Equipment's name	Location	Person/ organization	Conditions	Remarks
8	GPS	Ranger station	Giang Ly forest station	Good	
8	GPS	BNBNP	NP Patrolling team	Good	
8	GPS	Ranger station	Đạ Long Forest station	Good	
8	GPS	BNBNP	Forest Management and Protection	Good	
8	GPS	Ranger station	Núi Bà forest station	Good	
8	GPS	Ranger station	Công Trừi Forest station	Good	
8	GPS	BNBNP	Inspection and Legal department	Good	
9	Photocopy Sharp AR-5516N	Project Office		Good	
9	Photocopier	Project Office		Broken	Plan to repair shortly
9	Photocopy/Printer: CANON IR 2520	CEEE		Good	
10	TV	CEEE		Good	
11	Binoculars (20 peaces)	CEEE		Good	
12	Safe	Project Office		Good	
13	Sprayers (32 pieces)	Community	BSM MT	See another sheet 'BSM'	BNBNPMB plans to repair the broken items
14	Weeders (40 pieces)	Community	BSM MT		
15	Husking Machines (4 units)	Community	BSM MT		
16	Microscope (2 pieces)	CEEE		Good	
17	Storage Shelve	CEEE		Good	
18	Furniture	LB community office/ ticket booth	LB Communtuy	Good	

Non Fixed Properties (Less than 50,000 JPY)

Handwritten signature/initials

ANNEX 07-02: EQUIPMENT PROVIDED BY THE PROJECT FOR COMMUNITIES

Villages	Manager	Position	Kind of Equipment, Quantity and Status										Usage		
			Weeder			Sprayer			Husker (Coffee bean)			Total			
			Total	Good	To be repaired (*)	Total	Good	To be repaired (*)	Total	Good	To be repaired				
Da Ra Hoa	Low Mu Ha Phong	Treasure of BSM MT	8	4	4	6	5	1	-	-	-	-	-	-	Since being transferred to BSM MT, most of the equipment have not been in use due to off season. (*) Equipment were broken before being transfer to BSM MT from EFLO farmers' groups. Those broken equipments are to be repaired by BNBPNMB shortly.
	Cil Pam Ha Tean	Head of BSM MT	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	
Dablah	Total		8	4	4	6	5	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Pam Ha Bang	Leader of group	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Ya Bon	Head of VR MT	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Pam Ha Duong	Vice-head of BSM MT	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Pam Ha Dang	Head of BSM MT	6	4	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
Da Tro	Total		8	6	2	6	6	6	1	1	1	1	1	1	
	Kon So Ha Pat	Vice-head of BSM MT	7	4	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	Lo Mu Ro My	Head of BSM MT	-	-	-	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	Dung Gur Do Ly	Leader of group	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
Bonno B	Total		8	5	3	6	6	6	1	1	1	1	1	1	
	Ro Gle King	Head of BSM MT	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
	Pang Ting Thao	Monitor	2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	Ro Gle Krai	Monitor	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
Bon Dung 1	Total		8	7	1	7	7	7	-	-	-	-	-	-	
	Kra Jan Sem	Monitor	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Duiin	Member of FFS/BSM	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Neo	Leader of group	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Pang Ting Sin	Head of BSM MT	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Cil Minh	Member of FFS/BSM	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Ko Sa Ha Bong	Leader of group	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Pang Tin Juin	Leader of group	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
Quang Bek	Kre	Leader of group	-	-	-	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	Quang Bek	Leader of group	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	Total		8	7	1	6	6	6	1	1	1	1	1	1	
Total		40	29	11	31	30	1	4	4	4	4	4	4	4	

Handwritten signature and initials.

ANNEX 08: Key Structure Constructed

No	Name of Structure Constructed	Qty	Duration of Construction		Total Cost		User/Owner	Body/Mechanism for	Present Condition and	Remarks
			Start	End	VND	(USD)				
1	Visitor Center	1	03/03/2011	27/10/2011	88,980	88,980	BNBNP	BNBNP	Used	Contracted by JICA VN
2	Hanging bridges at Thien Thai Trail	3	2/2/2011	20/03/2011	443,998,772	443,998,772	BNBNP	BNBNP	Used	
3	Thien Thai Trail (step, hand rails, fence, etc)	1	15/10/2011	22/12/2011	114,500,000	114,500,000	BNBNP	BNBNP	Used	
4	Langbiang trail (step, excavation, backfilling, etc)	1	15/11/2011	19/12/2011	366,800,000	366,800,000	BNBNP	BNBNP	Used	
5	Rest Hut at Thien Thai trail	1	06/2011	06/2012	41,930,000	41,930,000	BNBNP	BNBNP	Used but slightly damaged	Constructed by BNBPNP staff
6	Ticket booth at Langbiang	1	06/2011	06/2012	39,405,000	39,405,000	BNBNP	BNBNP	Used	Constructed by BNBPNP staff
7	Gate at junction	1	23/05/2012	2/11/2012	123,000,000	123,000,000	BNBNP	BNBNP	Used	
8	Terrace for EE activities	1	13/08/2012	10/10/2012	323,171,000	323,171,000	BNBNP	BNBNP	Used	
9	Toilet at camp site	1	6/11/2012	8/1/2013	426,427,000	426,427,000	BNBNP	BNBNP	Used	
10	Raft at Bidoup trail	1	25/12/2012	5/2/2013	190,676,000	190,676,000	BNBNP	BNBNP	Used	
11	Bridge at Bidoup trail	1	25/12/2012	28/01/2013	497,179,000	497,179,000	BNBNP	BNBNP	Used	
12	Toilet at Bidoup trail	1	01/03/2013	15/03/2013	97,012,000	97,012,000	BNBNP	BNBNP	Used	
13	Ticket gate near VC	1	23/05/2013	-	241,406,000	241,406,000	BNBNP	BNBNP	Under construction	

51


ANNEX 09: Local Operation Cost shouldered by JICA

	Item	JFY 2009	JFY 2010	JFY 2011	JFY 2012	Total
1	General	\$21,422.26	\$111,830.77	\$73,257.90	\$114,578.59	\$321,089.52
2	Travel	\$363.02	\$27,176.14	\$8,244.48	\$33,299.70	\$69,083.34
3	Fee and honorarium	\$4,093.52	\$40,085.83	\$64,064.12	\$87,246.34	\$195,489.81
4	Conference	\$1,419.22	\$1,077.08	\$0.00	\$2,810.35	\$5,306.65
5	Local consultants	\$0.00	\$104,614.28	\$86,008.10	\$34,668.87	\$225,291.25
6	Construction	\$0.00	\$3,464.05	\$58,486.08	\$120,068.05	\$182,018.18
	TOTAL	\$27,298.02	\$288,248.15	\$290,060.68	\$392,671.90	\$998,278.75

5


ANNEX 10: Key Outputs/ Deliverables

Name of Output (map, manual, guideline, MoU, training material, plan, policy paper, etc.)	Date of Submission/ Completion
Survey/ Data Collection Reports	
[CM/BSM] Training Needs Assessment for BNBPNP	April, 2010
[CM/BSM] Training Needs Assessment for BNBPNP	June, 2010
[CM/BSM][Village Report] – Baseline survey for BNBPNP	June, 2010
[CM/BSM][Village Report] – Village control survey for BNBPNP	July, 2010
[CM/BSM][Household Report] – Village control survey for BNBPNP	June, 2010
[CM/BSM][Survey report] Participatory Rural Appraisal for BNBPNP	Jan, 2011
[General] Digital Map data updating 1	Jan, 2011
[General] Digital Map data updating 2	June, 2013
[CBET] Surveys of International and Domestic Tourists in Dalat	June, 2011
[CBET] Bidoup interpretation material	June, 2013
Training Reports	
[General] Communication skills and Methods for Working with Local Communities	Oct, 2010
CM/BSM	
[CM/BSM] Training On Assessment Of Livelihood Development Proposal From Village Development Fund	Jan, 2013
CBET	
[CBET] Environmental interpretation and Ecotourism marketing	October, 2010
[CBET] First Aid Training	May, 2011
[CBET] Eco-tour guide training	June, 2011
[CBET] Biodiversity interpretation along eco-trails in Bidoup	October, 2011
[CBET] Determining direction and using GPS	November, 2011
[CBET] Weaving training	Periodically from March 2012 to June 2013
[CBET] Gong performance training	August 2012 & October 2012
[CBET] English training	Periodically from March 2010 to Feb 2013
[CBET] Bird watching training	March, 2013
EFLO	
[EFLO] TOT – FFS – safe vegetable	April, 2011
[EFLO] TOT – FFS – coffee	May, 2011
[EFLO] FFS – Coffee	Periodically from July 2011 to Nov 2013
[EFLO] Safe vegetable trial	December, 2011
Consultancy Reports	
[CBET] CBET work plan	April, 2011
[CBET] EIA report	May, 2011
[CBET] Report of “Entrance fee collection regulation for BNBPNP”	August, 2011
[CBET] Emergency plan for Bidoup trail	May, 2011
[CM/BSM] Management rule on natural resources	March, 2011
[CM/BSM] Establishment of Benefit Sharing Mechanism	Jan, 2012
[CM/BSM] Materialization of BSM – EFLO study	Sept, 2012
Concrete/ Deliverable materials	
[EFLO] FFS Manual	February, 2013
[CBET] CEEE staff manual	July, 2012
[CBET] CBET DVD	March, 2011
[CM/BSM] K’Ho translated village rule	February, 2012
[CBET] Brochure	March 2011, June 2012
[General] Ha Noi 2013 workshop report	March, 2013
[CBET] K’Ho handbook	(tentatively) July, 2013

Handwritten signature/initials

ANNEX 11: Training Conducted by the Project

JFY	Name of Training	Duration		Lecturer	Participants					Remarks		
		Starting	Closing		NP	Others	Project	Commun ity	Total			
CBET												
2010	Communication skills and Methods for Working with Local Communities	18/06/2010	22/06/2010	Nong Lam University	15	1	1			17		
	English training 1	22/10/2010	30/06/2011	Ann Hsken	2				8	10		
	Environmental interpretation and Ecotourism marketing	1/11/2010	5/11/2010	Le Van Lanh	14	3	1		6	24		
2011	First Aid Training	26/04/2011	6/05/2011	Trygve Madsen	13				11	24		
	Eco-tour guide training	17/06/2011	24/09/2011	Dalat Tourism Training College	17				16	33		
	English - F-Hope	8/07/2011	9/09/2011	F-Hope	19		2		18	39		
	Interpretation	26/09/2011	30/09/2011	Masa Shintani	7				6	13		
	English training (Advanced)	15/10/2011	20/03/2012	Theo Reuters	2				2	4		
	English training (Beginner)	29/10/2011	31/12/2011	Huynh Nhat Tuong Vy	4				4	8		
	Biodiversity interpretation along eco-trails in Bidoup	17/10/2011	21/10/2011	Dr. Hoang Minh Duc, Dr. Luu Hong Truong, Center for Biodiversity and Development	8				9	17		
	Determining direction and using GPS	22/11/2011	23/11/2011	Le Hoang Nam	7				10	17		
	Weaving training 1	6/03/2012	16/03/2012	K'Tuyn					10	10		
	Weaving training 2	23/05/2012	23/07/2012	K'Tuyn					9	9		
2012		1/08/2012	30/09/2012						8	8		
	Interpretation (Thien Thai)	16/07/2012	18/07/2012	CEEE/Masa Shintani	5				7	12		
	Interpretation (Lang Biang)	25/07/2012	27/07/2012	CEEE/Masa Shintani	2				8	10		
	Gong performance training	31/07/2012	15/08/2012	Kra Jan Plin	8				15	23		
	Gong performance training 2	19/09/2012	5/10/2012	Kra Jan Plin	8				15	23		
	English training (Advanced)	7/04/2012	31/05/2012	Theo Reuters	2				2	4		
	English training (Advanced)	10/07/2012	22/09/2012	Ho Thi Giang Chau	1				3	4		
	English training (Beginner)	1/08/2012	12/09/2012	Phan Canh Minh Thy	11				6	17		
	English training (Beginner)	16/10/2012	18/01/2013	Nguyen Thi Be	1				4	5		
	Hospitality	12/09/2012	10/11/2012	Yersin University	2					2		
	Tourism Awareness	29/11/2012	29/11/2012	Tamari/Ho Thi Thanh Thuy(WWF)	1				15	16		
	Bird watching training	6/03/2013	8/03/2013	Nguyen Hoai Bao	15				7	22		
	2013	Weaving training 3	7/05/2013	27/06/2013	K'Tuyn					8	8	Continued
		Weaving training 3	9/07/2013	29/08/2013						8	8	Planned
Tour Guide		26/06/2013	28/06/2013		3				7	10	Planned	
EFLO												
2010	Training for Facilitation Skills	20/12/2011	28/12/2011	JICA Vietnam			2			2	Newly included	
2011	Training of Trainers - Safe vegetable	7/03/2011	11/03/2011	Nguyễn Thị Nhung, Nguyễn Thị Me	4	10			4	18		
	Training of Trainers - Coffee	26/04/2011	4/05/2011	Lai Thế Hưng, Nguyễn Văn Hưng, Vũ Thị Thùy	6	2			11	19		
	Farmer Field School (FFS) - Coffee - Da Nhim	8/07/2011	12/02/2011	Nguyễn Thanh Sơn, Hàn Quỳnh Châu					27	27		
	VietGap on Safe vegetable production	2/08/2011	3/12/2011	Lai Thế Hưng, Lê Thị Thanh Nga					5	5		
	Practice-based extension (PBE) on coffee	15/07/2011	3/12/2011	Thân Xuân Quý, Hoàng Xuân Hải					20	20		
	Training on Bokashi-Charcoal	17/02/2012	18/02/2012	Bach Ma National Park (Bokashi project)					40	40	Newly included	
2012	Farmer Field School (FFS) - Coffee - Da Nhim	22/03/2012	30/11/2012	Phạm Thành Sơn, Hoàng Hữu Cái, Bùi Thế Hoàng & WG					27	27		

JFY	Name of Training	Duration		Lecturer	Participants					Remarks
		Starting	Closing		NP	Others	Project	Communitv	Total	
	Farmer Field School (FFS) - Coffee - Lac Duong	22/03/2013		Hoàng Hữu Cải, Bùi Thế Hoàng & WG				20	20	continued
CM										
2012	Conflict management training (joint organized)	27/08/2012	31/08/2012	RECOFT	15	0	2	5	22	
		18/12/2012	20/12/2012		15		2	3	20	
	1st Accounting training	30/10/2012	31/10/2012	Ms. Nguyen Thi Minh Hong	0	0	0	24	24	
	Training On Assessment Of Livelihood Development Proposal From Village Development Fund	29/01/2013	30/01/2013	Dr. Le Quang Thong	0	0	0	19	19	
2013	2nd Accounting training			Ms. Nguyen Thi Minh Hong				15	15	Planned
	Training workshop on Awareness raising on CM			Dr. Bao Huy				30	30	Planned

Handwritten signature and initials.

ANNEX 13: Seminars/ Symposium organized by the Project

Name of Seminar and Symposium	Main Objective	Place	Target	Number of Participants	Duration		Number of Days
					Start	End	
CBET	Entrance ticket collection consultation workshop	Hung Vuong hotel, Dalat City	BNBNP, tax office, finance dept., DARD, Planning and Investment office, Lamdong PPG	25	20/05/2011	20/05/2011	1
	CBET work plan explanation for TOs	198 Guest House, Dalat City	BNBNP, TOs, Hotel	44	31/05/2011	31/05/2011	1
	CBET operation plan for community	Hung Vuong hotel, Dalat City	Target communities	50	14/07/2011	14/07/2011	1
	CBET conference	Hung Vuong hotel, Dalat City	DOOST, BNBNP officers, TOs,	57	22/07/2011	22/07/2011	1
EFLO	FFS Manual workshop	198 Guest House, Dalat City	Community, Lam Dong Forestry division, AEC in Lac Duong and Lam Dong, WG and JICA Staff	21	04/01/2012	05/01/2012	2
	EFLO Annual Monitoring Workshop	198 Guest House, Dalat City	Community, AEC in Lac Duong and Lam Dong province, WG, BNBNP, Lac Duong Town PC, Lat CPC, Da Nhim CPC and JICA Staff	35	03/04/2012	03/04/2012	1
	Group works on collective buying and selling	Da Nhim and Bonnor B	Community, WG and JICA Staff	42	01/10/2012	02/10/2012	2
	FFS Manual workshop	BNBNP office in Dalat	Community, AEC in Lac Duong and Lam Dong, WG and JICA Staff	12	10/01/2013	10/01/2013	1
CM	Workshop on Benefit Sharing Mechanism	Hung Vuong hotel	BNBNP, Da Nhim watershed MB, community	23	01/12/2011	01/12/2011	1
	Workshop on Village Development Fund Regulation	Golf 1 hotel, Da Lat City	BSM MT and BSM network	25	06/12/2012	06/12/2012	1
Others	Workshop on BSM in Hanoi	Fortuna Hotel in Hanoi	Government agencies, donors and project such as UNREDD project	70	18/03/2013	18/03/2013	1

ANNEX 12: Study Tours organized by the Project

	Name of Training/Study Tour	Main Content	Place	Target	Number of Participants	Duration		Number of Day	
						Start	End		
CBET	CAT TIEN National Park, DONG NAI Province	To make awareness and learn about CBET form through the visiting and discussing with other site/person in charge	Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP officers	10	10/05/2010	11/05/2010	2	
	GUNUNG HALIMUN SALAK National Park, Gunung Gede Pangrango National Park, CFET (Centre for Forestry Education and Training), West Java Province, Indonesia		Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP/Relevant government officers	9	18/07/2010	26/07/2010	9	
	YOK DON National Park, DAK LAK Province		Same as 'Name of Study Tour'		21	25/10/2010	27/10/2010	3	
	BACH MA National Park, THUA THIEN-HUE Province		Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP/Relevant government officers/community members	21	04/01/2011	05/01/2011	2	
	PHONG NHA-KE BANG National Park, QUANG BINH Province		Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP/Relevant government officers/community members	21	06/01/2011	08/01/2011	3	
	SAPA and HOANG LIEN National Park, LAO CAI Province, MAI CHAU, HOA BINH Province		Same as 'Name of Study Tour'		15	12/02/2011	17/02/2011	6	
	Saigon Zoo, NUI CHUA National Park in BINH THUAN province, NHA TRANG Oceanography Institute		Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP officers	6	19/06/2011	22/06/2011	4	
	CAT BA National Park, HAI PHONG City, MAI CHAU, HOA BINH Province, PU LUONG Nature Reserve, THANH HOA Province		Same as 'Name of Study Tour'	BNBNP/Relevant government officers/community members	16	25/02/2013	02/03/2013	6	
	Study tour by coffee FFS farmers		Conduct a visit to a coffee cooperative and a processing factory to exchange on cooperative operation, coffee quality and marketing system.	Di Linh and Bao Loc	Participants of FFS in Da Nhim, WG	30	16/09/2011	16/09/2011	1
	Study tour by coffee Practice-based training farmers		Conduct an exchange visit to Dasar commune to learn some issues regarding coffee farm management and integrated pest management.	Da Sar Commune	Participants of FFS in Lac Duong, WG	20	23/09/2011	23/09/2011	1
EFLO	Study trip to Cuong Nga processing firm	Conduct a visit to a medium-scale processing firm to learn the semi-processing techniques, coffee quality and to explore possible cooperation in marketing.	Ta Nung Commune	Participants of FFS in Lac Duong, WG	20	10/01/2012	10/01/2012	1	
	Study tour of Weaving group	To learn how a group of women in Talai was organized to produce and sell weaving products to tourists.	Ta Lai Commune	Participants of Weaving Training, WG, CEE	13	23/09/2012	24/09/2012	2	
CM	Study tour on Collaborative management and Benefit-Sharing Mechanism	Visit CM model of Fisheries at Nhon Hai commune, Quy Nhon City (by ESFS II Program MB) and the pilot programme on benefit-sharing mechanism (BSM) at Bach Ma NP., Thua Thien Hue province	Nhon Hai commune, Quy Nhon City, Binh Dinh province and Bach Ma national park, Thua Thien Hue Province.	BNBNP officers, BSM/MT, project staff	24	16/07/2012	20/07/2012	5	

ANNEX 14: Trainings in Japan

1st Batch

Mr. Ton That Minh (Project manager)	14/11/2010- 04/12/2010	Promotion of SATOYAMA Initiative: Biodiversity conservation and rural development through the sustainable management of natural resources
Ms. Vu Hanh Dung (EFLO WG member)	28/11/2010- 20/12/2010	Enhancement of Community Capacity and Rural Development Function for Vietnamese Michinoeki/ Road-side station
Mr. Ton Thien An (EFLO WG leader)	09/08/2011- 23/09/2011	Integrated Agriculture and Rural Development through the participation of local farmers (A)
Mr. Bui The Hoang (Project member EFLO assistant)	02/09/2012-0 4/10/2012	Integrated Agriculture and Rural Development through the participation of local farmers (A)

2nd Batch

Mr. Le Van Huong (Project director)	20/10/2011 -04/11/2010	Eco-tourism
Mr. Nguyen Luong Minh (CEEE director)	20/10/2011 -12/11/2010	
Mr. Tran Nhat Tien (CBET WG leader)		
Mr. K'Vang (CBET WG member)		



ANNEX 16: Counterpart Fund

Fiscal Year (Viet Nam)	Amount (VND)	Amount (USD)	Exchange rate*
2010	209,238,000.00	11,325.47	18,475
2011	865,655,365.00	44,392.58	19,500
2012	923,196,352.00	43,896.93	21,031
2013 (Proposed)	1,985,401,042.00	95,360.28	20,820
TOTAL	3,983,490,759.00	194,975.26	

**JICA official exchange rate in January in each year*

Handwritten signature and initials.

ANNEX 17: PLAN OF OPERATION (PO)

Outputs		Activities		Timeframe																Responsible agencies / bodies
				1st year				2nd year				3rd year				4th year				
No.	Summary	No.	Summary	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	
1	An implementation structure for the two components (community-based ecotourism and ecologically-friendly livelihood options) is developed and enhanced for implementation of the project	1-1	Organize working group (WGs) for implementation of CBET and extension of ecologically-friendly livelihood development options in the target villages		■															JICA Project Team, BNBPNPMB, DARD
		1-2	Provide training to the working groups (WGs) to enhance their capacity to implement the project					■	■	■	■									JICA Project Team, DARD
2	Basic principles / rules in management of natural resources in the national park are developed and agreed on by the target community group and BNBPNPMB	2-1	Assess, together with local communities of the target villages, the current situation of the target villages in a participatory manner					■												JICA Project Team, BNBPNPMB
		2-2	Develop, together with local communities of the target communes, rules and principles on use of natural resources in the target villages							■										JICA Project Team
3	A trial run of community-based ecotourism (CBET) is carried out at the selected sites	3-1	Select a local partner or contractor that can implement the CBET component on the ground																	JICA Project Team
		3-2	Develop an implementation plan for a trial run of CBET at the target communes																	JICA Project Team, BNBPNPMB, Contractor, Community groups
		3-3	Assess the potential environmental impacts and incorporate countermeasure into the implementation plan stated in the activity [3-2] above																	JICA Project Team, BNBPNPMB, Contractor, Community groups

55

Outputs		Activities		Timeframe												Responsible agencies / bodies		
No.	Summary	No.	Summary	1st year			2nd year			3rd year			4th year					
				1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			
		4-4	Evaluate the component implemented															JICA Project Team, BNBPNPMB, Contractor, Community groups
		4-5	Develop an/a extension plan / promotion plan to disseminate the same options to other villagers as well as other villages															JICA Project Team, BNBPNPMB, Contractor, Community groups
5	Issues to be addressed and actions to be taken are clarified so that the target community groups will be able to continuously operate a community-based ecotourism and/or practice the ecologically-friendly livelihood options introduced by the project	5-1	Based on the results of the evaluation in [3-6] and [4-4], identify necessary supports for the target villages to continue the CBET and ecologically-friendly livelihood options components after termination of the project															JICA Project Team, BNBPNPMB, Community groups
		5-2	Draft an agreement between BNBPNPMB and the target community groups on co-management of natural resources in the national park.															JICA Project Team, BNBPNPMB, Community groups
		5-3	Draft a provincial government document(s) to support continuous implementation of co-management															JICA Project Team, BNBPNPMB

Handwritten signature or initials.

収 集 資 料 リ ス ト

Area	東南アジア	Project Name	Kind of the Study	終了時評価
Country	ベトナム社会主義共和国	ビズップ・スイバ国立公園管理能力強化プロジェクト	Term of the Project	2010年1月～2013年12月

No.	Title of the Reference	Form	Size	Pages	Original or Copy	Q's	Collection place/ Publication	Price	Date of Acquisition	Trans-lation
1	ビズップ・スイバ国立公園管理計画	ワード	A4	224	-	1	BNBNPMB	-	2013/6	無
2	Benefit Sharing Mechanism and Collaborative Management in Managing Special Use Forests	PPT	A4	13	-	1	BNBNPMB	-	2013/6	無
3	Benefit Sharing Mechanism and Collaborative Management in Managing Special Use Forests	ワード	A4	6	-	1	BNBNPMB	-	2013/6	無
4	第1次現地業務結果報告書	ワード	A4	74	-	1	プロジェクト事務所	-	2013/6	-
5	第2次現地業務結果報告書	ワード	A4	95	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	-
6	第1次専門家帰国報告書	ワード	A4	23	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	-
7	第2次専門家帰国報告書	ワード	A4	23	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	-
8	Appraisal on CM Working Group and Project Members	ワード	A4	7	-	1	プロジェクト事務所	-	2013/6	無
9	Assessment of Facilitation Skills and Results of On-the-Job Training in FFS Facilitation	ワード	A4	2	-	1	プロジェクト事務所	-	2013/6	無
10	Report on Workshop in Hanoi "Towards the establishment of Collaborative Management at BNBNPMB"	PDF	A4	83	-	1	プロジェクト事務所	-	2013/6	無
11	Report of the Updating Land Use Digital Map of Five Target Villages	ワード	A4	33	-	1	プロジェクト事務所	-	2013/6	無
12	詳細計画調査報告書	PDF	A4	140	-	1	JICA ポータルサイト	-	2013/6	-
13	中間レビュー調査報告書	ワード	A4	38	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	-
14	運営指導調査報告書	ワード	A4	6	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	-
15	対ベトナム社会主義共和国国別援助方針	PDF	A4	15	-	1	外務省ウェブсайт	-	2013/6	-
16	Country Assistance Program for Viet Nam	PDF	A4	20	-	1	外務省ウェブсайт	-	2013/6	無
17	Survey Sheet for Terminal Evaluation	ワード	A4	22	-	1	JICA 本部より貸与	-	2013/6	無
18	Decree No. 117 /2010/ND-CP On Special use forest organization and management	ワード	A4	29	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
19	Order No. 25/2004/L-CTN Law on Forest Protection and Development	PDF	A4	40	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
20	Decision No: 126/QĐ-TTg Pilot policy on benefit sharing mechanism (BSM) in management, protection and development of special-use forests	PDF	A4	11	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無

No.	Title of the Reference	Form	Size	Pages	Original or Copy	Q's	Collection place/ Publication	Price	Date of Acquisition	Trans-lation
21	Circular No. 78/2011/TT-BNNPTNT Guiding the implementation of Decree No. 117/2010/ND-CP dated 24/12/2010 of the Government on organization and management of special use forest system	PDF	A4	32	-	1		-	2013/6	無
22	Decree No. 99/2010/ND-CP On the Policy for Payment for Forest Environmental Services	ワード	A4	18	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
23	Decision No.104/2007/QD-BNN Regulations on management of ecotourism activities in National Parks and Nature Reserves	ワード	A4	7	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
24	Strategy for Nature Reserve Management in Vietnam to 2020, Vision to 2030 (Draft 3)	ワード	A4	76	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
25	Law on Biodiversity No. 20/2008/QH12	ワード	A4	38	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
26	Decision No. 62/2005/QD-BNN Regulation on Criteria for Classification of Special-Use Forests	ワード	A4	3	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無
27	Record of Discussion	PDF	A4	25	-	1	JICA ベトナム事務所より貸与	-	2013/6	無

ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト

終了時評価 質問票聞き取り結果

会議名	日本人専門家への聞き取り
日時	2013年6月13日(木) 7:30~8:30、11:00~12:00
場所	プロジェクト執務室
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 小田 CA ✓ 玉利業務調整員
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 公園荒廃の大きな問題の1つは、コーヒー栽培のための Encroachment であるが、既に FFS 参加農民の Encroachment は減っている。ただし、これはコーヒーの価格が暴落したことが大きい。衛星写真を活用した、部分的なランダムデジタルデータがある。プロジェクトは限られたリソースで短い期間の実施なので、そのインパクトには限界があるが、UNREDD との連携ができれば、成果は広がる。 ✓ バッファの境界は、公園管理計画にあるはず。法律上、公園外のバッファでの生計向上活動を公園事務所が実施することは可能。Buffer Zone の地権者は Watershed Management Board だが、R/D や詳細計画調査報告書にはその記述が一切なかった。WMB を JCC や WG に入れた。しかし、WG には出席なくなり、今は外した。ベトナムでは公園管理の分権化が進んでおり、ビズップも PPC が管轄（中央政府ではない）。WMB も PPC の管轄なので、この2つを結び付けるためには PPC が鍵。CM 合意書に WMB を入れたいので、今後 JCC で議論していくことになる。WG はプロジェクトのために作られたものであるが、事業終了後も何らかの形で継続していくことになる。 ✓ VR のモニタリングは、VR Management Team を作ってやってきたが、主たるメンバーが村で権限のある長老だったが、モニタリングのためには手足となる若者が必要。そこで、BSM Management Team と VRMT を統合することを計画している。ただし、BSM は FFE などに参加している農民が主体だが、VR は村全体が対象。範囲の違いを克服する必要がある。そこで、VDF は村民全体を対象としており、BSMMT は VDF を司る（個人的には、VDF・リボルビングファンドは純粋にビジネスとしないと持続しないので、ここに VR・森林保全や住民福祉の概念を混ぜると失敗する。現場踏査の結果、実際に現場レベルでは VDF は BSM の会員だけを対象としているようだ）。 ✓ CBET は、コミュニティ観光地としてのポテンシャルが対象村に低いのが問題。伝統的な生活をしている村ではなく、移民の新しい村。プロジェクトでは実質的には CBET はやっておらず、公園主導型で、コミュニティに参加してもらう観光（公園内のトレイルのガイドや通訳など）をやっている。ゴング演奏や織物などのいわゆる CBET 的なこともやろうとしたが、そもそもそうした観光資源のない対象村で、これらを本格的な観光資源とするためには、相当の事業投資が必要で、プロジェクトはそういう立て付けになっていない。試行錯誤をしながら、実行可

	<p>能な CBET のコンセプトを示したことがプロジェクトの成果で、PDM でもそこを目標としていたと考えるべき。CBET を展開するためのコンセプトと体制を整備したので、それを基に本当の CBET 実施はこれから。</p> <p>✓ ツアーオペレーターたちは、金になる観光商品がなければ見向きもしない。CBET を本格的にやって、魅力的な観光商品を開発しないと TO との連携はできないし、意味がない。プロジェクトは CBET という言葉を初めから使うべきではなかったのではないか。詳細計画調査の時に、村の観光資源としてのポテンシャルをもっと把握しておくべきだったのでは。CBET を目指すのであれば、その実現ができる高度な専門知識を持った日本人専門家やインフラストラクチャー整備のコンポーネントを初めから入れておくべきだった。ベトナムには CBET の専門家はいない。WWF がフランス系の TO と連携して CBET をやっており、参考にしたいが、あれをやるためにはプロジェクトとしてかなりの投資が必要。専門家とコミュニティインフラが必要。</p> <p>✓ FLOE に関して、ハノイにベトナムコーヒーを海外にマーケティングしている組織がいくつかあり、そこと連携しようと考えている (IDD、OXFAM、RABO Bank)。</p>
--	--

会議名	ビズップ・ヌイバ国立公園事務所長への聞き取り
日時	2013 年 6 月 13 日 (木) 8:30~9:30
場所	国立公園事務所長室
先方	✓ Mr. Le Van Huong、ビズップヌイバ国立公園事務所長
我が方	<p>✓ 辻、評価分析</p> <p>✓ Thy 女史 (通訳)</p>
協議内容	<p>✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明)</p> <p>✓ WG は予定通り創始され、能力強化された。当初は想定していなかった CM WG を創始した。</p> <p>✓ 特に CBET WG はゼロからの出発だったので、大変だった。公園事務所の職員は CBET やエコツーリズム、観光に関して何も知らなかった。プロジェクトによる研修などで、能力が劇的に向上した。どの WG も、プロジェクトの技術支援なしで住民のための研修を実施できるまでになった。素晴らしい成果。</p> <p>✓ WG は、本来は各関係が協働する仕組みの 1 つとして想定されていたのだろうが、農業局や WMB、文化観光局などの他の機関を巻き込むことは、実際には大変困難。事実、参加しなくなったので、メンバーから外さざるを得なかった。JCC や PSC への参加で十分。</p> <p>✓ CM Management Rule が DPC で承認されている。これをもっと高いレベル (PPC) に上げて、関係各機関との連携を制度化する。</p> <p>✓ ビズップの CM や BSM のやり方は、他の国立公園のモデルにされつつある。先日のハノイでの公園所長ワークショップで、大きな反響があった。</p> <p>✓ CEEE が正式に組織化された。WG メンバーで CEEE に入っていないものもいる。</p>

	<p>CEEE の能力向上にプロジェクトは多大に貢献した。元々観光振興は公園局の管轄ではなかったが、2年前に政府の政策でそう変わった。Buffer Zone で公園事務所がエコツーリズムや生計向上を支援しなければならない政策になっている。Buffer Zone の境界は、公園管理計画にあったはず。あとでコピーを渡す。こうした点からも、プロジェクトは実にタイムリーだった。しかし、公園局によるエコツーリズム振興はほんの2年前にゼロからスタートしているので、2年間の支援では短すぎる。もっとインフラストラクチャー整備が必要。</p> <p>✓ (時間切れのため、他の日にちに継続聞き取りとなったが、その後、各 WG への聞き取り時に所長が参加し、多くの発言をなさり、こちらからも質問したので、聞きたかったことはそこでかなりカバーされた。後述を参照。)</p>
--	--

会議名	CEEE メンバーへの聞き取り調査
日時	2013年6月13日(木) 14:00~17:00
場所	プロジェクト執務室
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Le Van Huong、ビズップヌイバ国立公園事務所長 ✓ Mr. Nguyen Luong Minh, Director, CEEE ✓ Mr. K' Vang, Member, CEEE ✓ Mr. Nguyen Nhu Trang, Member, CEEE ✓ Ms. Vo Thi Quynh Trang, Member, CEEE ✓ Mr. Tran Nhat Tien, Member, CEEE ✓ Mr. Nguyen Quoc Thuan, Member, CBET Group in a village ✓ 玉利業務調整員
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. NGO TIEN DUNG, Vice Director of Nature Conservation Department, MARD ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史 (通訳)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明) ✓ CBET の WG は、プロジェクトの CBET 活動を実施するタスクフォースとして事業開始直後に創始され、およそ2カ月に1度会合を開いている。その時に、四半期計画の策定とその進捗を協議している。設立当初は、文化環境局の代表者もメンバーに入っていたが、参加が困難となったため、公園事務所の職員が Replace した。 ✓ CEEE は、District 全体のエコツーリズムと環境教育を担うために、国立公園事務所の機能の1つとして、政府によって正式に設立された組織。独立した組織ではあるが、主要な職員は公園事務所から出向。月例ミーティングを開催している。

	<p>District のエコツーリズムや環境活動の計画策定を担っている。CEEE の創始は政府の政策（Decision No. 496 issued by PPC in March 2011）であるが、プロジェクトがなければその設立は遅れていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CEEE は、プロジェクトのコミュニティレベルでの CBET 開発に従事している。CEEE のメンバーには担当の村があり、マーケティングや研修担当もいる。 ✓ プロジェクトは CEEE の能力向上に大きく貢献している。プロジェクトの支援により、多くの研修が CEEE メンバーに提供され、CEEE マニュアルも策定された。 ✓ CBET の実施に関して、プロジェクトはインフラサポート（ビジターセンターとトレイルの建設支援）、対象住民への研修、CEEE の事務所設備の充足などをしてきている。また、村の CBET グループが Forest Rangers Office と連携して、事務所施設を利用している。建設した施設に関して、CEEE として満足している。観光客も満足している。インフラストラクチャーの規模と場所は、プロジェクトが雇用したアメリカ人のコンサルタント（Susan）が、関係者や当局と十分に相談したうえで計画を立てた。計画は PCC の計画に統合され、予算を確保した。プロジェクト側では、JCC で承認され、プロジェクトの予算に組み込まれた。設計は外部の設計士に依頼し、PSC と公園管理委員会でコントラクターを選定した。プロジェクトは資金を提供した（資材ではない）。 ✓ 建造物の維持管理は、小さい修理は CEEE が自己資金でやる。CEEE には、観光客が支払う料金と、公園事務所からの予算がある。年間 8 億 VND。そこから、CEEE 職員の給与を引いたものがプログラム資金。大きな修理は公園事務所の予算でやるしかない。公園事務所には、プロジェクトの C/P ファンドとして 7,000 ドルがある。プロジェクト終了後も公園事務所が予算を確保しなければならない。 ✓ 通訳の育成は素晴らしいので、もっとやって欲しい（しかしメインの観光ターゲットはベトナム人のはず）。プロジェクトでは、そのほかにもバードウォッチング研修やゴング演奏研修、織物研修などをやっている。対象者は住民と CEEE 職員、公園職員（レンジャー）。少数民族が CEEE もメンバーとして入っている。 ✓ （CEEE の研修実施能力を見たかったので、研修の手続きに関して質問すると）研修実施のステップは、1. CEEE がコミュニティに聞き取りを行ってトピックを選ぶ、2. 場所と時間、期間を決める、3. CEEE 職員が講師になれない場合や実施できない場合は、外部の講師や組織を特定する。講師や組織の特定・選定は、日本人専門家がやっているが、既にリストやネットワークができたので、CEEE だけでできるであろう。4. 参加者に招待状を送る。研修は座学と実地を織り交ぜで行っている。 ✓ 研修のカリキュラム・モジュールは、CEEE 職員が作成して、日本人専門家に最終化・承認してもらう。ミーティングで研修評価結果を話し合う。こうして研修の評価は実施しているが、報告書はない。CEEE のミーティングなどで評価を話し合うぐらい。講師は報告を持っているかもしれない。 ✓ プロジェクトの CBET 活動の最大のインパクトは、観光活動を全く知らなかった
--	--

	<p>住民と CEEE 職員がそれを知ったこと。また、伝統文化の保全もインパクト。収入が上がるのはまだこれからであるが、コミュニティの観光商品開発の能力は確実に上がっている。2012 年から PPC の承認を得て、公園の入場料を集めており、通訳や伝統芸能のパフォーマンスからのコミッションを得ている。公園入場料のレベルや収入の使い方などは、プロジェクトを通じてコンサルタント（アメリカ人？）を雇って決めた。パフォーマンスの料金表は公園所長が関係者と協議したうえで決めて、CEEE 管理マニュアルに記してある。パフォーマンスの収益の 90% が住民個人に、5%ずつ Community Fund と Conservation Fund に入ることになっている。収益は CEEE が回収して基金に入れる。基金には会計士がいる。まだパフォーマンスを見に来る観光客は非常に少なく、基金は非常に小さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 観光客を増やす戦略は、1. サービスの向上、2. Marketing、3. CEEE と CBET のメンバーの能力向上、4. 観光商品の多角化、である。新谷専門家の支援で、CEEE が 5 村のための長期マーケティング計画を策定することになっている。新谷専門家はあと 1 カ月のアサインが残っている。しかし、計画策定に必要な情報が集まっていない可能性がある。 ✓ ベトナム人観光客は、公園のアトラクションに興味が高いので、農業観光などをアトラクションとして加えなければならない。17 のツアーオペレーターと協定書を結んだ。それによると、TO の役割は観光客を連れてくることなので、アトラクションに関する情報提供をしている。協定書があっても、魅力的な商品がない限り、TO は客を連れて来ないので、商品開発が非常に重要。プロジェクトでは、TO への働きかけにもっと時間をかけ、もっと大きな会社にアプローチし、広い範囲でマーケティング・プロモーションを展開すべき。 ✓ 村では 2 つの分野で CBET グループを作っており、それぞれ 10 世帯がメンバーになっているので、現在 CBET の実施者は 20 世帯だけ。分野はゴング演奏と通訳の 2 つ（織物は？）。グループの能力はまだまだ足りない。客が少なく、満足度も足りない。客が少ないので、グループの参加度も落ちてきている。他の利害関係者の能力向上も重要。 ✓ 行政令により、公園事務所にはエコツーリズムを振興・実施する責任と権限がある。道路の整備により、将来公園には 100 万人の観光客が訪れる予想なので、それに対応できる能力を身に付けなければならない。CEEE マニュアルの活用が重要。大学で観光科を専攻した学生などをプロのツアーガイドとして公園事務所で育成したい。観光はビジネスなので、政府の役割はモデル開発のサポートだけ。その汎用性を確保することが重要。 ✓ 文化観光局などの他の機関組織からの資金的なサポートはない。JCC にメンバーになっているので、会議などで意見をもらっている。観光のマネジメントの支援は受けている。文化観光局は、CBET WG のメンバーに入っていたが、来なくなったので交代した。プロジェクトのコンサルタントから情報や計画をもらっている。省の観光開発の M/P があるはず。
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ このプロジェクトでやっていることは CBET ではなく、Community-Oriented Tourism。今後、村レベルでの観光商品をさらに開発し、村の数を増やせば、CBET になるだろう（こうした考え方が CEEE に浸透しただけでも成果）。計画当初、目標を高くしすぎた。新たな観光商品を開発することは、事業のスコープにはなかった。プロジェクトでの学習と能力向上などの基盤を活用して、これから CBET のモデル作りを目指せばよい。 ✓ プロジェクト活動を通じて、コミュニティが保全の重要性を学んだことが大きなインパクト。コミュニティにはもっと観光インフラストラクチャーが必要。公園付近の主要幹線沿いに観光センターを建設すべき。また、村の観光協同組合を創始する。
--	---

会議名	文化観光スポーツ局への聞き取り
日時	2013年6月14日（金）10:00～12:00
場所	文化観光スポーツ局
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Hoang Ngoc Huy, the Head of Tourism Office, Department of Culture, Tourism and Sports ✓ 玉利業務調整員
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史（通訳）
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ （自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明） ✓ （聞き取り対象者は、局の中で観光振興を担当しているマネジャーで、以前はプロジェクトの CBET WG のメンバーだった） ✓ （聞き取り対象者から、約 50 分に及ぶプレゼンテーションがおこなわれた。その主要内容は以下の通り） ✓ 省では、エコツーリズムとコンファレンス観光、健康観光の 3 つを重視している。Dalat とその周辺でエコツーリズムを振興し、省の南も観光振興の優先地域となっている。Dalat とその周辺で、3 つのプロジェクトを実施している。その 1 つは、Dalat からビズップ・ヌイバ国立公園への幹線道路の舗装である。省の観光客は、54%が女性、46%が男性、年齢層は 18-25 歳が 15%、26-35 歳が 34%、36-45 歳が 42%、それ以上が 45%、パッケージツアーに参加した人の所得層は 2-5 百万 VND が 17%、600 万～1,000 万 VND が 38%、1,000 万 VND 以上が 42%。 ✓ JICA 事業の支援の成果は、エコツーリズムのモデルを作ったこと。ビジターセンターとトレイルの建設が良かった。省の「エコツーリズム計画」に合致している。村で CBET 商品を開発したことも良かった。CBET 商品は他のモデルとなる。こ

	<p>れで、住民が参加して収入を得て、生計を向上させている。また、エコツーリズム関連の研修によって、文化と自然資源の保全に注視した観光を振興し、住民の意識と技術が向上した。公園職員とビジターセンターの職員の案内や通訳の技術が向上した。職員のスタディーツアーも視野を広げることに貢献した。CEEE のメンバーが実際の観光活動やフェアに参加し、広報を行った。コンファレンスなどを開催して、モデルを広める活動も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 課題としては、インフラストラクチャー整備にもっと投資すべき。村レベルの CBET 観光商品は質素すぎて、今のままでは観光客をアトラクトできない。観光客が少ないため、住民の参加が少なくなっている。訓練された通訳の数ももっと増やすべき。ベトナム全体に言えることだが、公園事務所と TO の連携が少ない。パンフなどのマーケティングが簡素でツールも簡素。CBET 観光商品を知っている人が少ない。 ✓ 文化観光局の提言としては、事業を 18 カ月から 24 カ月ぐらい延長して、活動を完成させて欲しい。もっと時間があれば、CBET 観光商品開発を完成させられるであろう。また、環境教育（学生をターゲットにした教育観光のこころしい）をもっとやるべき。さらに、インフラストラクチャーをもっと整備し、公園内のルート・小道の開発や小屋と広場の建設、標識、エコトイレの設置もすべき。マーケティングのために、地図と販売ツールを開発すべき。 ✓ 局がプロジェクトと協力したことは、局の幹部が JCC に参加し、多くの提言を行った。いくつかは実現した。プロジェクトが PPC に提出した計画（インフラ整備などの予算案）にコメントした。また、公園事務所と TO との連携を支援した。Fam-Tour を主催した。テレビ局で公園の宣伝プログラムを実施した。公園の写真や情報を雑誌などに提供した。ホームステイやコミュニケーション研修を実施した。 ✓ 局の役割は、マスタープランを策定すること。省のエコツーリズム戦略も策定した。プロジェクトも実施している。ビズップ・ヌイバの国立公園観光開発計画を策定して PPC に提出した。公園を省のメイン観光地の 1 つとしたい。プロモーションとマーケティングを実施し、観光客に情報提供している。 ✓ 省全体では、ベトナム人観光客が主要なターゲット。400 万人の観光客が訪れており（日帰りは除く）、その 10%が海外からの観光客。60%が HCM とメコンデルタからの客。18%がベトナム高地からで、残りはその他から。戦略上のメインのターゲットは HCM からの観光客だが、観光客に関する詳細な調査は現在実施中。公園の観光はまだ始まったばかりなので、データはない。省全体のデータを基に推察して、上記の計画を策定した。 ✓ マーケティングとプロモーションの手法としては、観光出版物とメディアなどを通じた広報。また、他省の文化観光局職員や他の都市の Tourism Promotion Center の代表者、他の都市の新聞や雑誌の代表者を対象に FAM ツアーを実施。CBET は新しいコンセプトなので、参加者の評判が良かった。
--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ TO のパッケージツアーに公園が入っているが、公園あるいは CBET は学生にとっても良い商品。学生や研究者、一般観光客、ホームステイ希望者などは、TO のパッケージツアーに依存している。ただし、林学の学生や研究者は少ないので、公園として農業観光や Team Building 観光などの商品を開発すべき。また、新しいアドベンチャー商品（トレッキングや山登りなど）開発して、海外の客をアトラクトすべき。 ✓ 学校自身もフィールド旅行を実施している。プロジェクトに資金があれば、パッケージツアーを独自に開発して、直接大学と連携して実施すると良い。 ✓ Tourism Promotion Center とは、局の管轄にある独立した営利団体で、観光セクターへの投資を促進することが役割。観光商品のマーケティングや計画策定、情報発信、フェアの実施、雑誌の発行などを実施している。また、現在観光電子マップの策定と観光情報センターの建設と運営に注力している。TO への売り込みやコンサルティングなどで収入を得ている。プロジェクトとも連携しており、プロジェクトのために研修を実施してもらったりしている。 ✓ CEEE の能力はととも向上した。事業終了後も自立して事業活動を継続できるかはわからない。事業終了後も、訓練された CEEE のメンバーを維持すべき。
--	--

会議名	EFLO WG と CM WG メンバーへの聞き取り
日時	2013 年 6 月 14 日（金） 13:30～15:30
場所	プロジェクト執務室
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Tran Van Tinh, 国立公園レンジャー事務所長 ✓ Mr. Le Van Son, JICA プロジェクトスタッフ（国立公園職員？） ✓ Ms. Vu Hanh Dung, Xa Lat レンジャー事務所職員 ✓ Mr. Bui The Hoang, JICA プロジェクトスタッフ（国立公園職員？） ✓ Dr. Hoang Huu Cai, Consultant for EFLO ✓ Mr. Le Van Huong, ビズップヌイバ国立公園事務所長 ✓ 小田 CA
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史（通訳）
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ （自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明） ✓ EFLO WG の 2010 年に創始された。WG の役割は研修の実施。今まで 2 回の研修を直接実施した。また、EFLO の活動にコミュニティの参加を促すことも WG の役割。WG はメンバーが変更になった。DARD と農業普及センター、流域管理委員会が入っていたが、皆忙しくて参加しないのでメンバーから外れた。 ✓ 研修実施に必要な手続きは、1. コミュニティをグループに分ける、2. リーダーの選定、3. 座学の実施、4. 実地の実施、5. 研修の評価（参加者が学習したこと

	<p>を振り返る)。以前、公園職員として、こうして研修を主催して実施することは経験をしたことはない。現在、自分たちで主体的に実施しており、やり方がわかったので、これからも自分たちで実施してゆける、難しさは、農民は作業に忙しいので参加確保が難しい。住民の教育レベルが異なるので、ゆっくり教えないといけない。EFLO WG メンバーは林学のバックグラウンドなので、農業がわからない。自分で書籍などで勉強し、実地の経験から自分のレベルを上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ インパクトは、住民の農業技術が上がったこと。化学肥料の弊害の意識が高まり、有機肥料の使い方の知識が非常に深まった。FFE に必要な、他の農民に教えるコミュニケーションスキルも農民が身に着けた。農民の自主的な参加が増え、やる気が出ている。それはなんととってもコーヒーの生産レベルが増えたからである。しかし、実は 10%増加しただけ。去年はコーヒー価格が暴落した。 ✓ 研修後は、FFS/EFLO グループとして作業している。例えば FFE の実施。2 つの村で肥料の共同購入・リボルビングファンドの実施 (RF は現在 CM WG に担当が移行した)。価格を上げるために、共同集荷が必要だか、去年価格暴落があったのでまだできていない。共同集荷・販売のために、協同組合の創始が必要との認識。その為には、組合参加者の管理技術の向上と、組合の創始と登録が必要。対象村の 1 村で 2014 年までに立ち上げたい。これには時間がかかる。昨年協同組合法が改訂され、純粋な農業協同組合であれば登録は農業局、その他のサービス (例えばエコツーリズム) もやるのであれば、商業局に登録。省レベルでは、農業普及センターと農業支援センターが組合の支援をすることになっている。組合創始には最低 7 名の会員が必要で、共通資産が必要。それは土地でも良いが、プロジェクトの対象農民は地権 (Red Book) を持っていない。定款を作る必要がある。(組合経営のためには、固定資産だけではなく流動資産も必要ではとの問いに) Social Affair 銀行や Rural Development 銀行などが小口融資を行っている。担保となる土地が無い場合は、村の Union (党の組織) への無担保融資の制度もあるが、主に女性 Union に対して融資。 ✓ こうした業務は、従来は公園事務所の仕事ではなかったが、公園保全のために Buffer Zone での生計向上が重要との認識から、Decree No 24 が発布され、Buffer Zone での生計向上が公園事務所の業務になった。MARD が Buffer Zone 内の各村に 1 年間で 4,000 万ドン補助金を出すことになっているが、MARD による最終的な計画策定をまわっているところ。これがないと予算は来ない。 ✓ 職員の技術力を向上させたい。公園事務所には熱帯高地生態系研究所があり、プロジェクトで訓練された WG メンバー (公園事務所職員) が公園事務所へ戻ってきたら、研究所に配置して、そこが生計向上の支援を担う中核とする構想を持っている (所長談)。郡農業センターの人材のサポートもいるかもしれないが、中核は公園事務所の職員であるべき。FFS マニュアルもあるので、継続して実施できる。 ✓ CM WG は VDF の設置と BSM を担当している。CM WG のメンバーは、ほとんど
--	--

	<p>EFLO WG メンバーと重複している。中間レビューの提言を受けて、この WG は創始された。VDF の資金は、現在はほとんどすべて肥料のリボルビングによる。肥料の RF は原資がプロジェクトから来ている。BSM は国の政策で、現在ビズップを含む 3 つの NP でパイロットされている。一箇所は汽水湖公園なので、漁業による BSM、もう一箇所は NTFP。利益をメンバーに分配してしまい、ファンドに何も残っていない。世界銀行がやった Village Conservation Fund も同じ結果。ビズップは PFES や UNREDD などを取り入れたより包括的なものなので、進んでいる。数カ月前にハノイの公園所長会議でプレゼンテーションを行い、ビズップを BSM の国家モデルとし、他の BSM もビズップのやり方に修正するように決定された。今後、世界銀行の VCF ではうまくゆかなかった有機野菜や蘭などを、JICA の BSM でも取り入れて成功させたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ (VDF の管理は住民代表による BSM Network と BSM Management Team にゆだねられているが、それは危険ではないかとの問いに) BSM に関与している住民の能力向上は必須。会員費を徴収している。BSM の規則も作った。BSM 関係者自身がそれを執行し、ペナルティを課す。彼ら自身が違反したらとの問いには、明確な回答なし。また、CPC やその他の関係当局の関与を深め、モニタリングを強化する計画。 ✓ PDM の指標にもなっている、CM 合意書を関係機関が締結する予定。だれが合意に加わるかは現在検討中。 ✓ (その後、公園所長によるプレゼンテーションが始まった。プレゼンテーション資料と関連するリサーチペーパーを入手) ✓ こうしたコンセプトを全て VR に盛り込むとのこと (個人的には、BSM と VR は完全に切り離して考えるべきだと思う。BSM は純粹にビジネスとしてとらえないと継続しない。したがって、VDF を社会福祉・環境保全のための基金ととらえるならば、それは VRMT に管理させ、BSM は他の基金 - おそらく将来の農協の資本金のもととなるもの - の管理をすべき。組合が立ち上がったら、BSM と FFS グループは組合に吸収されるべき)。 ✓ FFS 研修後、草刈り機やポンプなどの農機具の支援をしている。
--	--

会議名	Bon Dong 1 村の住民への聞き取り (Lac Doung 町)
日時	2013 年 6 月 15 日 (土) 8:20~11:00
場所	Bon Dong 1 村のコミュニティホール
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Ms. Cil Mom Blui, CBET member ✓ Mr. Păng Ting Sim, CM member ✓ Mr. Bon Ding Dim, EFLO member ✓ Mr. Bui The Hoang, JICA プロジェクトスタッフ (国立公園職員)
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture

	<p>and Forestry University</p> <p>✓ Thy 女史 (通訳)</p>
協議内容	<p>✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明)</p> <p>✓ この村の世帯数は 240、人口 998 人、95%が少数民族 (Kho 族、キリスト教徒)、うち 186 世帯が農業に従事している。</p> <p>✓ この村の CBET グループメンバーは 7 名だが、1 名は脱落気味。プロジェクトを通じて、エコツーリズムと通訳の研修や会計、First Aid、バードウォッチングの研修も受けた。地元の大学でツアーガイドの研修参加も支援してもらい、語学学校で英語の訓練の支援もしてもらった。北ベトナムヘスタディーツアーにも行った。日本人専門家の研修が良かった。</p> <p>✓ 研修によって話し方がうまくなった。以前はただ客についていき、聞かれたことを答えるだけだったが、今は自発的にこちらから色々なことを説明できるようになった。6 名のうち、研修後に客を受けたのは 3 名だけ。他の 3 名は、英語が十分ではなく、女性なので独りで客を連れてトレイルに行くのは怖い。</p> <p>✓ この村は公園に古くからあるトレイルの入口に位置するので、20 年前から観光事業をやっている。観光のピークは 9 月から 4 月。海外からも客が来る。公園の自然が売り物である (聞き取り後にトレイルを訪れたが、多くの観光客は山頂までのジープを活用しており、実際には山頂からの眺望を売り物にしたマストツーリズムで、エコツーリズムではない)。村自体には観光資源はないが、ゴング演奏やストーリーテリングが少しずつ売り物になりつつある。ストーリーテリングができる老人は 1 名から 2 名しかいない。自分の家には 2 年間で 4 名のホームステイ客が滞在した。もう一軒には去年 5 名から 10 名滞在した。観光客は TO とガイドブックを通して。正式な統計はないが、実感として村を訪れる観光客は年々が減っている。年々村民が豊かになるにしたがって、伝統的な文化と自然が失われているのが原因。伝統的な住居に住む村民は、ここ 10 年で激減した。</p> <p>✓ パッケージツアーとしては、村の古い教会の見学や伝統的な住居の見学、ストーリーテリング、織物見学、ゴング演奏 (かなり高価なようなので、これを望まない客が多いようだ)、地元のレストランでの昼食、トレイルなどで、4 時間から 6 時間。TO が通訳やガイドに金を払う。村には 11 のゴンググループがあり、1 グループ 20 名から 22 名。</p> <p>✓ EFLO に関して、9 つのグループがあり、73 名がメンバー。FFS に 38 名が参加し、追加で 10 人が有機野菜の FFS に参加。FFE でメンバーが 73 名まで増えた。8 つの草刈り機と 7 つのポンプをプロジェクトからもらった。各グループのリーダーが貸し出し記録簿を管理している。</p> <p>✓ FFS、FFE ではコーヒーの剪定のやり方や、施肥、環境負荷軽減などを学習した。有機肥料を増やしても生産量は減らず、少し増加した。ただし、有機肥料を混ぜて使っているのは裕福なメンバーだけ。生産安定しないのは以前と同じで、FFS で教えられた技術を経済的な理由から全て適用できない。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトの支援により、BSM で肥料の共同購入を始めた。肥料屋には初めに50%を払う。プロジェクトの支援額は極めて小さく、いまだにほとんどは仲買人からの借金に依存している。仲買人は La Doung コミューンと Dalat にいる。肥料のリボルビングにより、VDF が始まった。8,000 万 VND から始まり、現在 8,200 万に増えた。増え方が少ない、遅い。VDF から金を借りるためには、BSM Network のメンバーになる必要がある。会費を払うこと。VDF には規定があり、BSM にも運営規定がある。中身は良くわからない・忘れた。 ✓ VDF の回収は順調。野菜は4カ月周期、コーヒーは6カ月から1年周期のローン。 ✓ BSM には、BSM NT の73名が選んだ5名の役員がいる。役員は、会計や基金管理に関する研修を受けた。月に1度、役員会を開催し、プロジェクトスタッフに報告している。プロジェクトの支援により、四半期に1度 BSM NT の総会がおこなわれている。総会には村長、村の長老、CPC などが参加している。 ✓ VR のことは皆知っており、合意している。VR は村の長老や JICA で開発し、CPC (DPC?) で承認された。その中身は、環境の啓もう活動と生計向上。VR 実施の手続きは明確に VR に書いてある。今のところ VR を執行しなければならないケースは出ていないが、違反者が出れば警告することになる。公園事務所とは昔から良好な関係。公園への Encroach は、ベトナムの経済発展に伴って、住民が豊かになっているので減っている。しかしまだ Encroach はある。コーヒー栽培のため、土地のない2男3男などが森を開墾している。生きて行くために他に道はないので、村としてはどうすることもできない。VR の実施とモニタリングは、VRMT がやっていたが、BSM に統合されつつある。VR のモニタリングには CPC、DPC、レンジャーがもっと関与すべき。公園破壊の根本的な理由は経済状況なので、政府はもっと住民に土地を与えるべき。国立公園以外にも、WMB が管理する林地があるので、それを農地に転用すべき。貧しい Kho 族の土地を豊かな Kin 族が投資目的で買い上げ・借り上げる問題がある。公園事務所と協働で森林の保全を実施することで、報酬を受け取ったりしている。 ✓ 事業を延長して研修を続けてほしい。また、VDF が小さすぎるので、もっと資金を入れて欲しい。最低でも各メンバーが1,000万 VND 借りることができるぐらい (合計7億3,000万 VND、現在の約10倍) ✓ (聞き取り後、村の観光資源とトレイルを視察。CBET の観光資源としての潜在性の高さは感じられなかった)
--	--

会議名	Da Ra Hoa 村と Da Blah 村の住民への聞き取り (Da Nhim コミューン)
日時	2013年6月15日(土) 13:45~15:45
場所	Da Blah 村コミュニティホール
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Cil Phi Crieu Ha Trai, Da Ra Hoa 村の CBET member ✓ Mr. Cil Pam Ha Toan, Da Ra Hoa 村の CM member ✓ Mr. Cil Pam Ha Đăng, Da Blah 村の EFLO member

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Bui The Hoang、JICA プロジェクトスタッフ（国立公園職員）
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史（通訳）
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ （自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明） ✓ Da Ra Hoa 村は 132 世帯、Da Blah 村は約 100 世帯。ほとんどの住民が少数部族で農業に従事している。 ✓ CBET に関して、研修を受けた。通訳、ゴング演奏、スタディーツアー、織物など。CBET グループのメンバーは 12 名。元々 14 名いたが、2 名のゴング奏者は、2012 年に 1 回だけ演奏しただけで客がないので正式に辞めた。12 名のうち、実際に活動しているのは 5 名のガイドだけ。そのうち 2 名は研修を受けていない新人なので、研修を受けた後もそれを活用しているのは 3 名だけ。村から約 5km のところにプロジェクトで 1.7km のトレイルとビジターセンターが開発された。2012 年 7 月から 20 回ぐらいガイドをした。主な客はベトナム人。外国人が来るときは、自分たちの通訳の技術は未熟なので、CEEE の職員がついて来る。客が来ることを CEEE が連絡してくる。TO から依頼されたこともある。ガイドでは、トレイル沿いの樹木ことを説明している。これらは研修で学んだ。村の長老から、そうしたことを教わったことはないが、研修前にプロジェクトで長老と調査をしているので、長老が知っていることは研修に入っているのだと思う。公園には 3 つのトレイルがあるが、これが一番短いので人気。また、トレイルの最後に滝があるので人気。観光商品を増やすために、コーヒー農園などへのアグリツアーやホームステイをやってみてはどうか。もっとプロモートして、観光客を増やしたいが、そのやり方がわからない。 ✓ ビジターセンターに食堂があり、CEEE が運営している。ビジターセンターの建設にも村民は関係していない（ビジターセンターの運営を CEEE と住民と共同でできないか？） ✓ EFLO のメンバーは現在 43 名。会費は 12 万 VND。プロジェクトにスタディーツアーを実施してもらい、FFS と FFE をやっている。そこでは、コーヒーの栽培技術、施肥などを学んでいる。クラスは全部で 20 回。AEC も同様の研修を実施しているが、たった 1 日で、しかも 1 名から 2 名の村民が参加するだけ。EFLO グループには 3 名のリーダーがいる（3 つの村で 1 つの EFLO グループを形成し、その下に村ごとのグループがあるらしい）。 ✓ 研修で難しかったことは、施肥の時の比率の計算。研修で学んだとおりに実践しており、有機肥料を買っている。ほんの少し生産が増えた。 ✓ 研修以外に、9 つの草刈り機、6 つのスプレーヤーが Da Ra Hoa 村に、Da Blah 村には 8 つの草刈り機、6 つのスプレーヤー、1 つの脱穀機がプロジェクトによって与えられた。これらを 1 日 25,000VND でグループが貸し出している。リーダーが

	<p>貸し出し簿と料金を管理している。維持管理は、借りた個人の責任。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ VDF は 8 千万 VND から 8 千 2 百万 VND に増えた。増え方が少ない、遅い。Da Ra Hoa 村では VDF を管理する BSM メンバーは現在 60 名 (Da Blah 村からの参加者は情報を持っていない様子だった)。そのうち 27 名が FFS に参加し、30 名が FFE の対象者。3 名は研修を受けずに会費だけ支払ってメンバーになった (この方式で本当に大丈夫か?)。今後も FFE で会員が増えるだろう。BSM には 5 つのグループがある。これは、BSM MT が管理しやすいように。BSM MT のメンバーは会計や VDF 管理の訓練を受けたので、管理は大丈夫。会費を集めるのが大変。 ✓ VDF (肥料のリボルビングローン) の利子は、月 0.6% だったが、0.9% に上げた (Da Ra Hoa 村ではこれから上げるとのこと)。BSM NT のメンバーが決めるので、簡単には変えられない。少数民族は政府に優遇されており、Redbook なしでも、村のユニオン (党の組織) の推薦があれば、Social Affair Bank から低利 (9%~12%) の利息でローンが借りられる。 ✓ VR 知っている。森林保全の規則。本が配られた。ミーティングをやった。全員参加したかはわからない。Village Head とカウンスルメンバーはまだ。 ✓ 法律では、農家 1 世帯当たり最低 0.5ha が保障されているが、実際にはそれ以下の農民もいる。また、0.5ha では食べて行けない。そこで、林地に Encroach して農地に転換している。70% から 80% の住民が森林保全から収入を得ている。 ✓ コーヒー栽培の改善が公園保全に繋がるかどうかかわからないが、公園に関しては、公園事務所の保全管理が強化されてきているので (公園事務所が村の近くに移転してきたことと、スタッフの数が増えてきたということらしい)、公園への Encroachment は減っている。むしろ、WMB が管理する林地への Encroach の方が深刻。 ✓ このあたりの住民は、元々公園内に居住しており、移住してきた。公園内の土地の耕作権が認められているので、そちらで農業をやっている住民もいる。Da Ra Hoa 村では約 7 割の住民が、Da Blah 村では約 4 分の 1 の住民が公園内に耕作地を持っている。 ✓ VDF の額が小さいので増やしてほしい。事業を延長して欲し。 ✓ (聞き取り後、ビジターセンターを視察。)
--	--

会議名	Lac Doung 群の DPC 副議長への聞き取り
日時	2013 年 6 月 17 日 (月) 9:30~11:00
場所	Lac Doung 群 DPC 庁舎
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Pham Trieu、Lac Doung 群 DPC 副議長 ✓ Mr. Le Van Huong、ビズップヌイバ国立公園事務所長
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史 (通訳)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (公園所長によるあいさつ、当方よりミッションの目的やスケジュールの説明) ✓ Lac Duong DPC は、国立公園の管理が重要と認識しており、プロジェクトによる支援はとても良かった。DPC として、管轄の関係コミュニティに対してプロジェクトに関する情報提供を行い、DPC の他のメンバーにも状況説明を継続した。プロジェクトの3つのコンポーネント (CBET、FLEO、CM) に関して、公園事務所と他の組織との連携をファシリテートした。例えば、District には Agriculture Center があり (省レベルの Agriculture Extension Center とは別)、農業技術の普及、農業への投資の促進、動植物などの病気の予防などを行っているが、EFLO で AC がコーヒーの栽培の研修を実施し、剪定方法やコーヒー豆の皮から有機肥料を作る方法などを住民に教えた。 ✓ 公園保全の課題には2つあり、林地の保全と野生生物の保護。DPC として、住民集会やキャンペーンなどを実施し、林地の破壊の禁止や狩猟の禁止を住民に知らしめるようにしている。ビズップは重要な水源となっているので、その保全を郡は特に重視している。 ✓ JICA 事業のインパクトは、ローカル政府 (District とコミューン) の環境保全と生計向上に対する意識が改善したこと。特に、EFLO を通じてさまざまな情報が提供され、住民の意識が向上した。コーヒーの生産レベルが向上することも期待され、住民の生活が良くなることがプロジェクトの目標。 ✓ VR は、プロジェクトの前から政府の政策としてやっており、郡内のほとんどの村で VR を導入している。村の慣習を基に作成されている。プロジェクトで実施した VR は、現地の状況を踏まえたもので、実行可能性が高いものとなっており、良く実施されている。プロジェクトのこうしたイニシアティブは他の村のモデルになる (小田 CA によると、今までの VR はトップダウンだったが、プロジェクトで参加型による VR 草稿の方法を実験したとのこと。プロジェクト前に、VR 導入の指針などがあるかはわからないとのこと。つまり、モデル的にやってみたが、政策としての採用などの働きかけはないということだと思われる)。 ✓ VR の施行とモニタリングは、郡の Information and Culture Office の支援により、CPC が主体となって実施している。DPC の主導により、VR 実施の年次評価を実施しており、優れた活動を行った村や個人に対して、賞と称号 (証書) を与えている。また、他の市民団体 (「母親前線」などの Culture and Political Organization、非政府団体らしい。共産党のプロパガンダ組織)。こうした取り組みにより、Encroachment が少なくなることが期待され、また住民の政府に対する協力が強化された。また、政府と住民との間の Rapport が出来た。 ✓ 国立公園保全には、バッファゾーンの保全が重要で、そのためには他の組織とよく連携することが重要で、まさに事業はそのような形で活動が実施された。DPC

	<p>は CM の実現に貢献し、プロジェクトと TO との連携もファシリテートして実現させた。森林の保全という観点から、WMB のエリアの保全も重要で、WMB の保全能力を強化しなければならない。また、WMB のエリアで既に荒廃しているところを特定して農地に転換している。WMB には公園事務所に比べて住民との Rapport がない。WMB の地域は国立公園よりも村に近く、保全は大変。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CBET のコンポーネントに関して、セクションが District に移転された（おそらく CEEE の設立のことを言っている）。プロジェクトにより、インフラストラクチャーが大きく改善された。道路とビジターセンターが建設され、車で行けるようになったので、観光客が増え、住民の生計も良くなるだろう（道路建設はプロジェクトの支援ではない）。VC での展示もすばらしい。 ✓ プロジェクトによって通訳の研修を実施し、住民の能力が向上した。通訳の訓練には自ら参加した。CBET は新しいコンセプトで、インフラストラクチャー整備もできておらず、観光客もまだ少ない。さらに住民参加を促すために、もっとインフラストラクチャー整備やマーケティングが必要。村の観光商品もまだ貧弱。 ✓ VDF の管理チームは良くやっている。VDF や BSM を始めたのは、もともと組合化が目的。郡には 1 つだけ協同組合があるので、もう 1 つ作るのは非常に良いアイデア。VDF の管理の持続性はとても重要なので、それを重視すべき。郡には、ここ 2 年ほどでインフォーマルな（登録されていない）農民協同グループが出来てきている。これは、10 世帯から 15 世帯ぐらいが一緒になり、肥料の共同購入やリボルビング基金のようなことをやっている（無尽講）。リーダーの資質とグループの協力関係が重要。 ✓ （公園所長から以下の説明）Decision 222 で、エコツーリズムの潜在性のある場所を特定することを政府に指示されたので、プロジェクトでコンサルタント（Ms. Susan）を雇用し、調査をやり、観光の潜在性のある場所を特定した。調査結果を郡の会議で報告し、エリアの開発計画を話し合った。将来、関係当局と一緒に具体的な開発戦略と計画を策定して、実現させたい。 ✓ DPC は JCC と PSC のメンバーになっており、それらの会議は有用だった。情報共有の良い場で、他の関係機関も積極的に参加した。これらの場でプロジェクトの情報を得ることができたので、関係機関協力の上、事業を実施できた。 ✓ プロジェクトを継続して欲しいとの要請有り。 ✓ （公園所長よると、ビズップ国立公園は Lac Doung 群以外に、Dam Rong 郡にも 1,300 ha ぐらいかかっているとのこと）
--	--

会議名	Da Nihm 流域管理委員会への聞き取り
日時	2013 年 6 月 17 日（月） 14:00～15:00
場所	Da Nhim 流域管理委員会の Da Nhim ステーション
先方	✓ Mr. Nguyen Van Danh, Head of Station, Da Nhim Forest Station, Da Nhim Watershed Management Board

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Mai Van Duong, Protection Officer, Da Nhim Forest Station, Da Nhim Watershed Management Board ✓ Mr. Le Van Son, JICA プロジェクト職員 (公園職員)
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史 (通訳)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (当方としては、Da Nhim 流域管理委員会の現場巡查官がつめているステーションでの聞き取りがアレンジされており、期待していた政策レベルでの協働などの聞き取りが出来なかった。また、当該ステーションの職員はプロジェクト活動には一切関係しておらず、プロジェクトのこともほとんど知らなかった) ✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明) ✓ Da Nhim 流域管理委員会には1名の議長と2名の副議長がおり、現場には7つのステーションがある。このステーションはそのうちの1つで、JICA プロジェクトの3つの対象村が管轄内にある。ステーションの職員は8名。 ✓ 委員会管轄・所有の林地の問題点は、コーヒーのモノカルチャー農園の Encroachment。対策として、ステーションの職員がそうした違法農地に退去命令をだし、場合によっては、林業局のレンジャーと協力して農地を破壊する。法の執行の権限と逮捕の権限などは林業局にあり、WMB にはない。農民の強い反発がある。農民に焼き討ちされたレンジャー事務所もある。 ✓ 森林の所有者は WMB で、森林の管理は林業局が行う。WMB は取り締まりだけではなく、FLITCH という生計向上事業もやっている。しかし、このステーションは FLITCH の対象になっていない。 ✓ PPC の命令により、2010 年に 150ha の林地を農地に転用した。0.5ha 以下しか持たない農民に分配した。WMB の役割は、林地を切り開くことと、得た林産物を売却すること。転用する林地の特定と計画策定は PPC と DPC、CPC、DONRE、土地管理局、レンジャー事務所などが協力しておこない、測量は DONRE がおこなった。 ✓ WMB の予算は政府からくる。PFES の資金は WMB を通らずに直接コミュニティへ行く。省レベルに PFES 基金を管理するチームがあるらしい。

会議名	Lam Dong 省農業普及センターへの聞き取り調査
日時	2013年6月18日 8:50~9:50
場所	プロジェクト執務室
先方	✓ Mr. Pham Thanh Son, Attention Staff, AEC
我が方	✓ 辻、評価分析

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. Hoang Huu Cai, Consultant for EFLO (Thy 女史が不在だったので通訳をお願いした)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明) ✓ AEC の役割は、正しい・新しい技術や品種の普及。AEC は DARD の管理下であり、予算は DARD から来るが、独自の計画を策定し、それに則って独立して活動を実施している。20 名の職員を抱え、その他郡やコミューン、村レベルに Collaborators がいる。Agriculture Center の職員や調査員など。コミューンレベルに Extension Workers が 1,200 名おり、Worker になるためには 3 カ月間の集中研修を受講しなければならない。各村に Extension Collaborators がいる。彼らは年間 1,000 万 VND を報酬として受け取っている。各村を Clusters に分けて、研修を実施している。省レベルに 2 つの展示農場をもっている。1 つは換金作物（主にコーヒーと果樹）、もう 1 つは切花の農場。換金作物農場の前の場長が、現在の PPC の副議長（JCC 議長）。 ✓ JICA 事業との連携に関しては、FFS に講師を派遣した。研修自体は AEC が実施したのではなく、あくまでもプロジェクトが実施し、AEC は講師として参加した。研修に対する農民の反応は大変良かった。農民は積極的に研修に参加し、多くのことを学び、現在実践している。AEC の従来型の研修よりも FFS は実践的で、期間も長い。従来のやり方は長くて 2 日から 3 日、短ければ半日ですべてを教える。教授法も講義などの一方通行で、農民は消極的に情報を受け取るだけ。 ✓ AEC は FFS のコンセプトや方法論を通常の業務に積極的に取り入れているし、今後もっと取り入れる。例えば、PPP プログラムを 4 つの郡で実施しており、FFS のコンセプトを採用している。また、FFS を採用するように DARD にプロポーサルを提出し、DARD は合意した。予算が付けば自前で実施できる。ただ、DARD ・ AEC が管轄するエリアは広いので、予算と人的資源が足りない。プロジェクト終了後は、FFS のトピックを厳選して、研修を 20 日からもっと短くする必要があるだろう。現在、PPC のプログラムで高度な農業技術の普及プログラムをやっているの、これは 7 日間。このプログラムに乗るように、FFS を 7 日間のプログラムに圧縮して、PPC に提案したい。 ✓ Lam Dong 省におけるコーヒー産業の問題点は、価格の乱高下、生産技術の不足、それに伴う量と質の低さである。これに対して、センターとして、優良な技術を普及している。その為に、センターと民間、農民、研究者の 4 者が協力する指針を立て、モデル作りに取り組んでいる。これにより、生産を支援する質の良い農業インプットを確保しようとしている。 ✓ オランダの民間組織が、UTZ ・ 4C という認証システムを導入している。認証のた

	<p>めには多くの基準をクリアする必要がある。例えば、有機肥料を適切に配合すること、乾燥・保存時にカビ対策などをすること、森林破壊などを伴っていないことなど。JICA 事業が 4C をクリアするための助けになっている。こうして、できるだけ環境にやさしいコーヒー産業を実現できる。省レベルに 2 つコーヒー協同組合がある。そのうち 1 つは、UTZ の認証を、Lam Ha という地域でパイロット的にやって、成功している。認証はモニタリングが重要であるので、村レベルのそうした仕組みの構築が必要。また、認証に必要なインプットの提供も重要。こうした組織と連携していれば、認証後のマーケティングは心配ない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 協同組合とは別に、村レベルのインフォーマルな、登記されていない Collaborative Group が自然発生的にできている。会費があり、無尽講のように順番でグループからローンを受け取る。こうした取り組みをセンターとしてサポートしている。例えば、CG を通じて機材を提供している。 ✓ 先住民は教育レベルも低く、少しの研修だけで技術が普及・定着はしない。長期的な視点に立って、継続的な支援が必要。プロジェクトの成果を継続するために、DARD で政策レベルに働きかけている。予算が足りない中、農民自身が技術の普及と定着をモニタリングする仕組みを導入している。 ✓ JICA プロジェクトの前は、国立公園事務所と協働したことは一度もなかった。Buffer Zone など、管轄するエリアが重なるので、野菜などでも連携を継続していきたい。 ✓ AEC ではマーケティングの支援も行っている。共同集荷の仕組み・インフラストラクチャー整備の計画があるが、実施は大変。コーヒーを取り扱う民間企業との連携も振興している。2005 年ごろ、センターを独立採算制にし、半官半民の公共法人にすることが話し合われたが、法人のビジネスプランを立ててみると、実際にはとても難しいことが分かった。まず、コーヒーの質と量を確保できるレベルの近くに持っていくことが必要。しかし、徐々にセンターのビジネスの側面が強くなっていくであろう。 ✓ アグロ観光に関して、既にイチゴ狩りをやっている民間企業がある。切り花も良いだろうし、こうした活動の潜在性はあると思う。
--	--

会議名	Lac Duong 郡農業センターへの聞き取り
日時	2013 年 6 月 18 日 10:00~11:30
場所	プロジェクト執務室
先方	✓ Mr. Than Xuan Quy, Director, Lac Duong District Agriculture Center
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. Hoang Huu Cai, Consultant for EFLO (Thy 女史が不在だったので通訳をお願いした)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明) ✓ センターは2003年に創始された。それまでにあった3つのセンターを統合したものである。その3つとは、植物保全センター、農業普及センター、酪農センターである。それぞれ別の局の管轄だったため、統合当初は大変だったが、現在は完全に統合されている。ACには現在17名のスタッフがおり、全て大学の学位を持っている。1名は修士を持っている。センターの役割は、農家に対して13種類の研修やワークショップを実施して技術支援を行うこと。センターはデモファームも持っている。 ✓ センターでは、現在国家農業普及プログラムや家畜疾病予防プログラム、新品種普及プログラム、人材開発プログラムなどを実施している。2006年から農業高等技術センターとして、さまざまなキャンペーンを実施し、家畜やコーヒー苗、野菜の新種導入を推進している。国家貧困削減プログラムもあるので、その資金でも活動している。センターは年次研修計画を策定して、活動を行い、小規模の研究活動も行っている。 ✓ センターの年次予算は大体10億VNDで、これらは人件費などの固定の予算。事業実施のプログラム予算は、それぞれのプログラムから来る。Decree 42により、センターは非営利の公益法人化された。したがって、自分たちで歳入を得なければならない。公共の仕事の部分と収益活動と分かれている。 ✓ JICA 事業への関与として、研修の講師派遣を行った。プロジェクトからの要請通り、2011年と12年に2名の講師を送った。農民の反応は良かった。FFSのアプローチは良い。農民自身に彼らの現状を評価・分析させ、何が足りないかを認識させて、彼らの気づき・ニーズを基に研修内容を決めるのは良い。研修はInteractiveで実地を重視し、従来型の上からImposeする方式と異なり、効果的。従来型の研修は、半日位の未時間時間で、講義でいろんなことを詰め込む方式で、農民は実際に現場でApplyできないことが多い。 ✓ ただし、プロジェクトのFFSは20日間と長く、センターにはそうした予算はない。短くアレンジすれば実施可能であろう。DPCの計画局に陳情して予算を確保したい。既にプロポーサルを提出している。DPCのBureau of Social Affairが国家貧困削減プログラムを実施しているので、その予算を活用してFFSを自前で実施するように働きかけている。 ✓ Lac Duong 郡は気候がコーヒーに適しているが、栽培技術が未熟で、品質にまだまだ改善の余地がある。ACは今まで5,000世帯に対して研修を実施したが、まだまだ足りない。コーヒーの木の特質を知り、施肥の方法を理解し、防虫や資格方法、保存方法などを改善しなければならない。プロジェクト・FFSはそれに貢献した。特に、農民の観察する力を養ったことが大きい。 ✓ マーケティングに関しては、科学技術局と連携して、コーヒーのブランディング

	<p>をやっている。また、研修後のフォローアップもセンターの役目。ACOM (?) や OLAM (?) などの民間企業と連携し、品質管理と認証制度とマーケティングに取り組んでいる。品質管理や認証のための条件の徹底や、優秀な農家の選定、認証の授与などに関して、民間企業と合意書を結んでいる。パイロット的にコミュニティを選んでやっている。また、センターでは毎日のコーヒー価格の情報を農民に提供している。問題は、仲買人が低い質のコーヒーを買い叩いているので、それに依存している農家は質の向上や価格の増進に踏み出せない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 公園事務所と今まで連携したことはなかった。Buffer Zone では公園事務所と協働するように DPC に命令されている。公園内に多くの住民が住んでいるので、DPC と公園事務所が調整するのは義務。 ✓ EFLO のコンセプトを植え付け、環境と生計向上の両立の住民の意識向上を行ったことが重要。農民は、既に土壌流亡や土壌肥沃度低下、化学肥料の弊害などに気が付いている。有機の概念を導入することが、長期的に生産性を上げることを知らしめたことが事業の効果。化学肥料の価格も上がっているので、有機にはチャンス。農地の拡大は厳しく制限されてきたので、生産を集約化して生産性を上げるしかない。スタッフを養成したので、こうしたメッセージを出せるスタッフをもっと要請して欲しい。昨年乾燥豆の価格が暴落したので、皆生豆を売ったため、有機肥料に必要な殻が確保できなかった。プロジェクトで豆の脱穀機を入れたがあまり活用されなかった。遠い村では運搬費がかかるので、豆を乾燥させる必要がある。適正な乾燥技術が重要なので、JICA で支援して欲しい。 ✓ AEC と AC はパートナーの関係。AC は村に近いので、日常的に農民の活動をモニタリングでき、病害虫などいち早く知ることができる。 ✓ アグリ観光は DPC のガイドラインにより、特定の場所を選定して開発することになっている。民間企業が、農地と森林を借り上げ、「切り花観光」を始めた。これは JICA プロジェクトの対象地に近い。移民地が多く、伝統的な村は少なくなっている。でも Kho 族の Identity は維持されている。
--	--

会議名	BSM コンサルタントへの聞き取り
日時	2013 年 6 月 18 日 14:00~16:30
場所	プロジェクト執務室
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. Phan Trieu Giang、プロジェクトのコンサルタント (HCMC の Nong Lam University の教授) ✓ 小田 CA
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Thy 女史（通訳）
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ （自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明） ✓ 2010 年からプロジェクトに関わっている。初めは、大学を通じて、プロジェクトの Baseline Survey と PRA の実施を請け負った。その後、コンサルタントとしてプロジェクトに参加し、VR 作成やコミュニケーション研修の実施、BSM の実現、CM の推進に協力してきた。 ✓ Survey からの発見として、農民にとって土地と地権の問題が大きいことが分かった。ある農民は権利を売ってしまったり、そもそも Redbook を持っていない。そこで、彼らの地権を保障するための Regulation が必要だった。2006 年に政府主導で作られたルールは無視され、住民はその存在すら知らなかった。フォローアップもなかった。VR に記載されている関係者も、政治組織である Farther Front、Mother Front、Women Front など関係者が多く、現地の状況を考えると実効性のないものになっていた。JICA のアプローチは、Survey から始まり、住民と Rapport を確立して、現地の状況を把握したうえ、村の重要人物を特定し、ニーズを把握し、実行可能性を強く意識してドラフトを作成した。完成・承認後は、神父の支援なども得て、Kho 族の言語に訳したうえ、村人全員に配った。初めは、住民はわれわれを信じなかったが、徐々に参加が促進された。住民の知的な能力も低かったが、克服した。Disadvantage としては、このような Elaborate なプロセスの全く同じモデルは行政で採用できない。しかし、行政が問題点に気が付き、実際の成功例を目撃することで、その柔軟性を増すことがゴール。参加型の概念を Regulation に定着させたい。その為に、実行可能は VR を作りたかった。その時に、現地語で Ada という慣習的な森林管理法を参考にしたが、プロジェクト対象地は移住村なので、基本的に Ada は壊れていた。 ✓ VR の執行とモニタリングは、初めの半年間は苦勞した。VRMT のメンバーは村の長老や村長など、村民の尊敬を集める人々であったが、高齢であり、インセンティブもなかった。もっと実施可能なモニタリングシステムを作るために、BSMNT を創始した。そこで、より多くの住民を VR の執行とモニタリングに巻き込み、保全活動の便益・インセンティブを創出しようとした。 ✓ BSMNT も参加型で形成された。決して参加を強要せず、住民の自発的な意志によって参加を促すことにした。そのために、村での協議を多くやった。最終的には、関心のある住民を全部あつめて、小グループに分けた。グループは、住居の地区ごとではなく、関心や信頼関係を基にした。それぞれのグループは 7 世帯から 10 世帯で、それぞれにグループ長を決めた。そのうえで、全体の選挙を行い、5 名の BSMNT を選出した。 ✓ BSMNT は少ない報酬を受け取っている。この資金はプロジェクトからではなく、VDF から。VDF は、肥料のリボリングファンとその他の資金から形成された。CEEE から少し金が出ている。あとは会費や寄付。これによって、将来的には土地をコントロールできるようになる。

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (自主的な参加による組織で自然資源の保全ができるかとの問いに) BSM に参加することで、多くの便益を得るはずで、そうすれば住民は皆自主的に参加してくるはず。便益を得ることができるということを示すことが先決。その為には、協同組合化する必要がある。そうすることで、コーヒー売上の資金を BSM のシステムに引き込むことができる。BSM はコーヒー生産者や FFS 参加者に限られていない。 ✓ (ビジネスと住民福祉、環境保全が混ざっているこうしたモデルは、世界中で試され、うまくいかないことが証明されているが、との問いに)。それをどう分けるかはこれから。 ✓ (この後、こういったモデルがあるかに関して、皆で長い議論が行われた) ✓ (この BSM システムは、まだ規模も極小で、農民も目に見える利益を上げてはいない。これでプロジェクトの目標に達したと言えるか、との問いに) PDM の指標にあるものは、能力強化に関連するもので、この BSM・VDF・VR の取り組みを通じて、新たな概念を投げかけ、住民や関係政府職員の能力を確実に向上した。
--	---

会議名	Da Nhim 流域管理委員会への聞き取り (第 2 回)
日時	2013 年 6 月 21 日 (金) 9:15~10:30
場所	プロジェクト執務室
先方	✓ Mr. Ho Huyunh Dung, Vice Director, Da Nhim Watershed Management Board
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長 ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画/援助戦略 ✓ 辻、評価分析 ✓ Thy 女史 (通訳)
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (前回の流域管理委員会への聞き取りが、聞き取り対象者の選定に問題があったため、十分ではなかったので再度聞き取りを実施した) ✓ (自己紹介、当方より、評価の目的、手法、スケジュールを説明) ✓ De Nhim 流域は全体で約 4 万 5,000ha で、5 コミューンと 1 つの町にまたがるが、流域全体が 1 つの District にある。流域の境界を示した地図もある (地図の提供を依頼し、了解されたが、入手できなかった)。1987 年に国立公園ができる前に WMB は設立され、流域は指定された。Da Nhim 湖には水力発電施設があり、重要である。流域は、公園の緩衝地帯としても機能している。公園の一部も流域の一部であるが、WMB が管轄しているのは流域のうちの公園外だけ。Buffer Zone は公式に Da Nhim 湖の流域として指定されている。流域に指定される前と後に、林地・保護地域の区分の変遷などがあり、現在は今の形になっている。 ✓ WMB は DARD ではなく DPC の管理下にある。計画や予算は PPC、DPC から来ている。WMB は流域の林地を保有しており、林地管理を管轄している。WMB は技術的には DARD の支援を受ける。Ranger Station は法を執行するが、現場には手

	<p>足を持っていないので、WMB のステーションの職員が直接現地で林地の保護を行っている。Ranger Stations が WMB に技術的な指導も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 法の執行権を持たない WMB の役割は、森林保全法を住民に知らしめること、環境教育を実施すること、住民啓もう活動を行うことである。法に違反する住民がいた場合は、まずは警告し、次に法を守ることにに対する念書（ミニッツ）を取り付ける。それでも違反が続いたら、Ranger Stations に報告し、彼らが法を執行する。 ✓ Village Regulation のことは知らない。 ✓ 取り締まるのは Encroachment だけ。違法な木の伐採などを取り締まる。既に林地に入り込んでいる住民を退去させることは行っていない。 ✓ WMB は、それ以外に、流域内の林地の農地転用も行う。転用する農地の面積は PPC が決定し、その地域を PPC や DARD などの各関係者が協力して決める。WMB に地域を決める権利はない。転用地域が決定した後、当局からの命令を受けて、その地域の開墾を行うのが WMB の役割。開墾はコントラクターを活用するので、その選定や監督をするのが WMB。開墾で得られた林産物を入札などで売却するのも WMB の役割。ただし、落札者の支払いは WMB を経由しないで直接省へ入る。 ✓ WMB には PFES の資金が来る。PFES は 2010 年から実施されている。住民へ補填される予算は毎年約 100 億 DNV で、その 10%（10 億 VND）が WMB の管理費。管理費を活用して、林地保全に必要な機材を購入している。WMB の職員の給与は、PFES ではなく、政府の予算から来ている。WMB が受益世帯を決め、林地に隣接する各世帯への保全活動に対する補助金が支払われている。公園事務所にも PFES の予算が行っており、いくつかの世帯をカバーしているので、保全を行っている。保全が必要な全世界帯を網羅するように調整している。保全を行わなかったり違反した世帯は、一部の返金を求めるか、PFES プログラムから除外する。 ✓ PFES による最大の効果は、住民の意識化。以前は、森林保全に関する法律に関して知らなかった住民が、補助金をもらうことで知ることとなった。 ✓ Da Nhim 流域は道路網が発達し、アクセスが容易なうえ、土地の値段が上がっており、林地への開発圧力は強い。Encroach を防ぎきれているとは言えない。 ✓ 自分は JCC や WG の存在は知らない。他の職員が JICA 事業の担当をしている。
--	--

主要面談者リスト

1. Dr. Pham S, Vice Chairman, Lam Dong Province People's Committee
2. Mr. Pham Trieu, Vice Chairman, Lac Doung District People's Committee
3. Mr. Lơ Mu Ha Hoàng, Chairman, Da Nhim Commune People's Committee
4. Mr. Đagout Trí, Chairman, Da Lat Commune People's Committee
5. Mr. Nguyễn Công Trứ, Chairman, Lac Duong Town Commune People's Committee
6. Mr. Cil Duin, Head of Village, Bon Đung 1, Lac Duong Commune

国立公園管理事務所

7. Mr. Le Van Huong, Director/ Project Director, BNBPNMB
8. Mr. Do Van Ngoc, Vice Director, BNBPNMB
9. Mr. Do Manh Hung, Vice Director, BNBPNMB
10. Mr. Ton That Minh, Director, Research Center, BNBPNMB
11. Mr. Nguyen Luong Minh, Director, CEEE
12. Mr. K' Vang, Member, CEEE
13. Mr. Nguyen Nhu Trang, Member, CEEE
14. Ms. Vo Thi Quynh Trang, Member, CEEE
15. Mr. Tran Nhat Tien, Member, CEEE
16. Mr. Nguyễn Quốc Thuận, CEEE
17. Ms. Nguyen Thi Minh Hong, Chief Accountant, BNBPNMB
18. Mr. Nguyễn Hồng Lâm, Forest Ranger Division, BNBPNMB
19. Mr. Nguyễn Anh Tuấn, Head of Technical Department, BNBPNMB
20. Mr. Vũ Đình Khoái, Head of Personnel and Administration, BNBPNMB
21. Mr. Võ Hồng Dương, EFLO WG member, BNBPNMB
22. Mr. Trần Văn Tĩnh, EFLO WG member, BNBPNMB
23. Mr. Vũ Hạnh Dung, EFLO WG member, BNBPNMB
24. Mr. Trần Thị Hoàn, BNBPNMB
25. Mr. Nguyễn Thị Hoa Ban, BNBPNMB
26. Mr. Tran Van Tinh, Head of Xa Lat Forest Ranger Office, BNBPNMB
27. Ms. Vu Hanh Dung, Officer, Xa Lat Forest Ranger Office, BNBPNMB
28. Mr. Nguyễn Bá Lương, Forest Ranger Division, BNBPNMB

ベトナム側のその他の機関

29. Ms. Huyen Tuong Van, Deputy Director, Department of Science, Technology & International Cooperation, Viet Nam Administration of Forestry, MARD
30. Mr. Dang Quang Thuyen, Coordinator, Department of Science, Technology & International Cooperation, Viet Nam Administration of Forestry, MARD

31. Mr. Nguyen Phu Tho, Officer, Department of Nature Conservation, Viet Nam Administration of Forestry, MARĐ
32. Mr. Khổng Minh Nghiệp, Vice Director, Admin Office, Lam Dong PPC
33. Mr. Ngô Văn Ninh, Lam Dong PPC
34. Mr. Bùi Thanh Phong, Forestry Department, DARD
35. Mr. Phan Chí Thạnh, Department of Planning and Investment
36. Mr. Hoang Ngoc Huy, the Head of Tourism Office, Department of Culture, Tourism and Sports
37. Mr. Ho Huyunh Dung, Vice Director, Da Nhim Watershed Management Board
38. Mr. Nguyen Van Danh, Head of Station, Da Nhim Forest Station, Da Nhim Watershed Management Board
39. Mr. Mai Van Duong, Protection Officer, Da Nhim Forest Station, Da Nhim Watershed Management Board
40. Mr. Pham Thanh Son, Attention Staff, Agriculture Extension Center, Lam Dong Province
41. Mr. Than Xuan Quy, Director, Lac Duong District Agriculture Center

プロジェクトスタッフ

42. 小田チーフ・テクニカル・アドバイザー
43. 玉利業務調整員
44. Dr. Hoang Huu Cai, Consultant for EFLO
45. Dr. Phan Trieu Giang, Project Consultant for BSM (Professor at Nong Lam University, Ho Chi Minh City)
46. Mr. Le Van Son, Project Staff (BNBNPMB officer)
47. Mr. Bui The Hoang, Project Staff (BNBNPMB officer)
48. Ms. Pham Xuan Nguyen, Project Staff
49. Ms. Trần Thị Ngân Tuyển, Project Staff
50. Ms. Đặng Hoàng Vân Hà, Project Officer

住民

51. Ms. Cil Mom Blui, CBET member, Bon Dong 1 village, Lac Duong Commune
52. Mr. Păng Ting Sim, CM member, , Bon Dong 1 village, Lac Duong Commune
53. Mr. Bon Ding Dim, EFLO member, , Bon Dong 1 village, Lac Duong Commune
54. Mr. Cil Phi Crieu Ha Trai, CBET member, Da Ra Hoa village, Da Nhim Commune
55. Mr. Cil Pam Ha Toan, CM member, Da Ra Hoa village, Da Nhim Commune
56. Mr. Cil Pam Ha Đăng, EFLO member, Da Blah village, Da Nhim Commune

日本側

57. 友寄二等書記官、在ベトナム日本大使館

58. 井上専門家、JICA 個別派遣専門家、MARD
59. 江頭所員、JICA ベトナム事務所
60. Ms. Do Thi Thu Thuy, Coordinator, JICA Viet Nam
61. 中西女史、JOCV（環境教育）
62. 清水女史、JOCV（コミュニティ開発）

ビズップ・ヌイバ国立公園管理能力強化プロジェクト

終了時評価 協議議事録

会議名	キックオフ・ミーティング
日時	2013年6月19日 8:50~10:30
場所	Da Nhim の国立公園事務所
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Le Van Huong、ビズップヌイバ国立公園事務所長 ✓ Mr. Do Van Ngoc、ビズップヌイバ国立公園事務副所長 ✓ Mr. Do Manh Hung、ビズップヌイバ国立公園事務副所長 ✓ Mr. Ton That Minh, Director, Research Center, BNBPNP ✓ Mr. Nguyen Luong Minh, Director, CEEE, BNBPNP ✓ Ms. Nguyen Thi Minh Hong, Chief Accountant, BNBPNP ✓ Nguyen Hong Lam, Forest Ranger, Bidoup Nui Ba Station ✓ Dr. Phan Trieu Giang, Consultant, Nong Lam University ✓ Dr. Hoang Huu Cai, Consultant, JICA ✓ Mr. Le Van Son, staff, JICA ✓ Mr. Bui The Hoang, staff, JICA ✓ Mr. Pham Xuan Nguyen, staff, JICA ✓ Tran Thi Ngan Tuyen, Interpreter, JICA – BNBPNP ✓ 小田 CA ✓ 玉利調整員 ✓ 井上個別派遣専門家 ✓ 中西女史、JOCV（環境教育） ✓ 清水女史、JOCV（コミュニティ開発）
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長 ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画／援助戦略 ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University ✓ Thy 女史（通訳）
協議内容	<p>（BNBPNP 公園事務所所長から参加者の自己紹介とあいさつ）</p> <p>（長谷川団長からの団員紹介、あいさつ）</p> <p>（長谷川団長より、パワーポイントを活用して、評価ミッションの目的やスケジュール、主たる評価ポイントなどのプレゼンテーションが行われた）</p>

	<p>(ミッションの詳細なスケジュールに関して確認された。M/M 署名の 1 日前の 26 日に、公園所長が PPC 副議長にブリーフィングを行うことを確認。27 日の M/M 協議で出るコメントを反映して、27 日午後にミッションがハノイに向けて出発する前に報告書を最終化して署名することが確認された)</p> <p><小田 CA></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CM Agreement に関して、すでに関係者と協議を始めている。良い反応が来ている。 <p><所長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ コンサルタントがコミュニティや CPC との協働 (CM) をファシリテートしている。BSM が CM のコアである。ベトナム政府は、すべての公園で BSM の実施を計画しており、MARD が現在 BSM パイロットモデルの評価をしている。その担当者が、ベトナム側の評価団の団長である。BNBNP のモデルがベトナムのモデルに採用されれば、持続性が確保される。PPC にも、省内の他の村に適用するように提言する。 <p><Dr. Giang></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CM を実施は、対象村で BSM ネットワークを作ったので、公園職員の能力があれば実施できる。 <p><副所長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ この事業での CM の試験的实施は適切である。ベトナムでは多くの CM をやっており、先日ハノイで CM のワークショップがあった。他の公園は持続性を心配している。今までの取り組みは、プロジェクトが終わったら取り組みも終わってしまう。ベトナム政府が、国家レベルで CM の政策策定を行っている。このプロジェクトの BSM の構造とメカニズムは極めてクリア。 <p><Dr. Cai></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 村でのプロセスを確立することが重要。 <p>(今後、さらに具体的な協議を進めることで合意した。所長のあいさつで会議は終了した)</p>
--	---

会議名	PPC 副議長との協議
日時	2013 年 6 月 19 日 16:00~16:15
場所	PPC 庁舎
先方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Dr. Pham S, Lam Dong 省 PPC 副議長 ✓ Mr. Le Van Huong、ビズップヌイバ国立公園事務所長 ✓ 小田 CA ✓ 井上個別派遣専門家
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長 ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画/援助戦略 ✓ 辻、評価分析

	<p>✓ Thy 女史（通訳）</p>
協議内容	<p>（国立公園事務所長から PPC 副議長が紹介された。スケジュールが急遽変更になったことに対する謝罪）</p> <p>（長谷川団長から、ミッションの背景とスケジュール、評価団の構成、目的に関する説明）</p> <p><団長></p> <p>✓ 現在まで、調査が順調に進んでいる。省政府の調査とプロジェクトへの協力に対して感謝する。</p> <p><副議長></p> <p>✓ プロジェクトは多くの成果とインパクトがあった。関係者が多大な尽力をおこなった。JICA の支援により、研修とコンファレンスが実施された。農業普及とエコツアーの活動を行い、エコツーリズムセンターを設立することができた。WWF などの他の組織はとても感心している。より多くの観光客が、NP に関して知ることになったことが事業の最大の成果。もっと調査活動を実施すれば、世界で最も優れたエコツーリズムサイトになるだろう。評価団がさまざまな情報を収集して、労力を惜しまずに評価を実施していることに感謝する。評価団が良い調査をできるように、公園所長が良い環境を作るように指示した。</p> <p>✓ 27日の会議に出席する。</p> <p>✓ 公園には、高い生物多様性があるので、公園を拡張して、地域で代表的な国立公園にする計画がある。終了時評価のあとに、新たな成果が見つかるだろうから、それを基に、事業を延長することを是非お願いしたい。そうして、世界の生態系の中心となるように支援をお願いしたい。JICA の支援はとても重要な役割を担っている。</p> <p><団長></p> <p>✓ 生物多様性の問題は、グローバルな問題であるので、JICA としてとても重視している。JICA がベトナムの生物多様性の問題を支援できれば、世界の問題に貢献したことになる。</p> <p><副議長></p> <p>✓ それがベトナム政府の目標でもあるので、JICA の支援を期待している。</p> <p><公園所長></p> <p>✓ 感謝の辞。公園は評価団に最大の支援を提供する。ベトナム側の評価団チームとともに、評価に必要な最大の準備を行っている。</p>

会議名	Provincial Steering Committee (PSC)との合同評価報告書の協議、議事録署名
日時	2013年6月27日 8:30～11:30
場所	ダラット王宮
先方	<p>✓ Phạm S., Vice Chairman, Lam Dong PPC</p> <p>✓ Tôn Thất Minh, BDNBNP/ JICA Project</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ Nguyễn Lương Minh, BDNBNP/ JICA Project ✓ Nguyễn T Minh Hồng, BDNBNP/ JICA Project ✓ Hoàng Hữu Cải, EFLO Consultant, JICA Project ✓ Bùi Thế Hoàng, Project Officer, JICA Project ✓ Phạm Xuân Nguyên, Project Officer, JICA Project ✓ Lê Văn Sơn, Project Officer, JICA Project ✓ Trần Thị Ngân Tuyền, Project Officer, JICA Project ✓ Đặng Hoàng Văn Hà, Project Officer, JICA Project ✓ Phan Triều Giang, BSM Consultant, Consultant ✓ Khổng Minh Nghiệp, Vice Director, Admin Office, Lam Dong PPC ✓ Bùi Thanh Phong, Forestry Department ✓ Phan Chí Thạnh, Department of Planning and Investment ✓ Hoàng Ngọc Huy, Department of Culture, Sport and Tourism (DOCST) ✓ Hồ Huỳnh Dũng, Da Nhim Watershed Management Board ✓ Ngô Văn Ninh, Lam Dong PPC ✓ Nguyễn Bá Lương, Forest Ranger Division ✓ Lơ Mu Ha Hoàng, Chairman, Da Nhim CPC ✓ Đagout Trí, Chairman, Lat CPC ✓ Nguyễn Công Trứ, Chairman, Lac Duong Town PC ✓ Lê Trọng, Lam Dong TV Station ✓ Ngọc Dũng, Lam Dong TV Station ✓ Diệp Quỳnh, Reporter, Lam Dong Newspaper ✓ Cil Duin, Head of Village, Bon Đung 1 ✓ Nguyễn Hồng Lâm, Forest Ranger Division, BDNBNP ✓ Nguyễn Anh Tuấn, Head of Technical Department, BDNBNP ✓ Vũ Đình Khoái, Head of Personnel and Administration, BDNBNP ✓ Võ Hồng Dương, EFLO WG member, BDNBNP ✓ Trần Văn Tĩnh, EFLO WG member, BDNBNP ✓ Vũ Hạnh Dung, EFLO WG member, BDNBNP ✓ Trần Nhật Tiên, CBET WG Member, BDNBNP ✓ K'Vâng, CBET WG Member, BDNBNP ✓ Nguyễn Như Tráng, CBET WG Member, BDNBNP ✓ Nguyễn Quốc Thuận, CBET WG Member, BDNBNP ✓ Trần Thị Hoàn, BDNBNP ✓ Nguyễn Thị Hoa Ban, BDNBNP ✓ 井上専門家、JICA 個別派遣専門家、MARD ✓ 江頭所員、JICA ベトナム事務所
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画／援助戦略 ✓ 辻、評価分析 ✓ Dr. NGO TIEN DUNG, Vice Director of Nature Conservation Department, MARD ✓ Dr. BUI VIET HAI, Senior Lecturer of Agriculture and Forestry Department, Agriculture and Forestry University ✓ Dr. LE QUANG THONG, Senior Lecturer of Economics Department, Agriculture and Forestry University
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (司会者による参加者紹介) ✓ (議長 - ラムドン省人民委員会副議長からのあいさつ、PSC の開催の宣言) ✓ (ベトナム側の評価団長から、プロジェクトの実績の概要、評価の概要が発表された) ✓ (長谷川団長からのあいさつと、調査団への協力への謝辞。評価結果の概要の発表 - 主に提言と教訓に関して) ✓ (評価結果に関する協議が開始) <p><副議長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 報告書は大変詳細に分析されている。評価結果は、5 項目とも高い評価が与えられており、小田リーダーの努力が評価された。プロジェクトで開発された手法やアプローチは、他のプロジェクトなどに普及されるべき。本日の参加者は多くのセミナーなどに参加しているので、こうした教訓をどのように広めて行くのかなどに関して、参加者に発言して欲しい。 <p><CM コンサルタント></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 本日多くの機関が集まっているので、CM に関しての意見を聞きたい。 <p><計画局></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 国立公園の所長から実績に関してクラリファイして欲しいとの依頼。 <p><国立公園所長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクト以前は、国立公園には観光は存在しなかった。プロジェクトを通じて、ビジターセンターとトレイルが整備された。職員も訓練された。村民が CBET 活動を支援する状況を作った。国立公園事務所の職員を日本の研修に送った。ラムドン PPC によって CEEE が設立され、プロジェクトのカウンターパートとなった。観光客がゼロから 3,000 人に増え、35%が外国人。87%の訪問者はサービスに満足している。EFLO では、BSM などの新たなアプローチを紹介し、VDF を設立した。それぞれの村で 8,000 万ドルの基金が作られ、それを増やすことが期待されている。農民に肥料を配布し、コーヒー農園の改善に貢献した。FFS と FFE を通じて、多くの世帯に対して研修を実施し、多くの住民がインセンティブなしで参加している。リボルビングにより、VDF が強化され、BSM が発展している。ハノイでの国立公園のバッファゾーンでの CM のワークショップが実施された。CM では BSM が最重要で、村民に便益を与えるために、VR が重要で、住民の便

益と責任を明確化することが重要。その為には、VDFが重要。

<江頭所員>

- ✓ CMに関して、コミュニティとの協働がさらに拡大するために、もっと高いレベルで広範囲のCMが必要との提言があるが、何が障害になるか？

<DARDの代表者 Vice Director of Forestry Department under DARD>

- ✓ 評価団の発表を聞いて、2つの課題がある。PFESをCMに統合することに関して、パイロットに選ばれ、現在全国に拡大している。PFESによって、森林を保全している個人に便益が還流している。PFESの性格上、地方自治体が基金を管理することをできないが、コミュニケーションや村レベルまでPFESの管理WGを設立している。これが連携のプロジェクトによるコミュニティーレベルの活動で、こうした仕組みが強化された。それが評価結果にも出ている。PFESでは、世帯と契約を結んでいるが、保全を行っているのは個人の世帯だけではなく、グループとして協働で保全を行っており、こうしたグループを強化することが重要。江頭さんへの質問に関しては、便益を受けているコミュニティグループからの意見が聞きたい。DARDの視点からは、事業の実施上、DARDとも情報交換が密に行われた。慎重に対処すべき事項もある。完璧な結果ではないので、事業終了後は考えなければならないことがある。公園には高い生物多様性があるが、住民は貧しい。事務局の責任は重いが住民にどのように便益を与えるかが課題。1haの保護林を与える。現在は森林の価値を算定するアウトラインがあるが、実際には実施されていない。価値をどのように特定するかが重要。

<副議長>

- ✓ プロジェクトの実績があるが、限界があるが、どのように拡張するためにはどうしたらよいか回答を集中して欲しい。

<DARD>

- ✓ プロジェクトの成果を他の地域に拡大したい。

<ベトナム側の団長：MARD>

- ✓ NPは特別保全システムの一部で、研究や保全の責任を負っているが、エコツーリズムに関しての投資は行っていなかった。それが始まり、タイミングよくJICA事業が開始して、エコツーリズム振興がBNBNPで助長された。インフラストラクチャーが整理されて、CMの概念が発展した。CMの拡張に関しては、関係者の興味を基にモデルが拡張されるか、このCMモデルは大変興味深く、ベトナムの他地域への拡張が期待される

<国立公園所長>

- ✓ CMモデルはコミュニティの間では確立されたが、それだけでは不足で、他の関係者を含めたプラットフォームの設立をJICAは支援するのか？

<議長>

- ✓ 他の機関もプラットフォームの設立を支援している。

	<p><小田リーダー></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトは CM の概念を確立し、コミュニティの便益を保障することが重要であることを示した。現地の地方自治体などの支援を受けている。プロジェクトのスケールはまだ小さく、まだ概念であり、モデルではなく、それを拡大する必要がある、そのためのプラットフォームが必要で、そのためには、PPC や、DPC、CPC、WMB、DRAD、DONRE などの協力が必要。プロジェクトの実施過程で、さまざまな調整を行ったが、個別に行き、明確なプラットフォームがなかったので、事業成果が拡張するためには、そうしたプラットフォームが必要。プロジェクトの経験では、各関係機関はプラットフォームに参加し、成功裏に事業活動を拡張することができるかと確信している。 <p><DOCST の代表></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 4 年間、開始から事業活動に参加した。評価団と協議した。DOCST はプロジェクトの CBET 活動をはじめから支援してきた。公園の潜在性があるので、エコツーリズム開発計画の策定を提案し、計画が策定された。ここでは公園の観光資源が中心。DOCTS は NP と観光開発 M/P の策定で密に協力した。NP での観光商品開発でさまざまなコメントや提言を行った。住民のための研修もプロジェクトのために実施した。国内外の観光業者に対するファムツアーを主催して、NP の方法を支援した。観光フェア実施時に、NP の広報を行った。プロジェクトの実績を通して、DOCST は NP が省の主要な観光訪問地になることを支援した。提言としては、4 年間 CBET 商品を開発したが、観光商品の開発はまだ道半ばで、商品はまだ簡素で多くの観光局をアトラクトできない。新しい持続可能はモデルを開発したので、自然資源を保全するような観光商品は、観光客から多くの興味が寄せられている。トレッキングや環境教育に加えて、ホームステイやアグロ観光を実施し、住民と観光局が交流できるようにする。保全研修に観光客が参加する商品も関心が高いだろう。公園の資源を活用したアドベンチャー観光商品を開発すべき。観光商品の開発と並行して、インフラストラクチャーのさらなる整備が必要。トレイルなどをさらに整備すべき。コミュニティへの研修を継続し、彼らのサービスの質をさらに向上する必要がある。DOCST は NP の広報を継続し、メディアや観光業者をさらに動員することを約束する。他の機関、特に PPC の継続的な公園開発に対する支援を期待している。 ✓ (ミニッツ署名式) ✓ (プレゼントの譲渡) ✓ (副議長の閉会の辞)
--	--

会議名	MARD への評価結果の報告
日時	2013 年 6 月 28 日 9:00~10:15
場所	MARD の VN FOREST
先方	✓ Ms. Hguyen Tuong Van, Deputy Director, Department of Science, Technology &

	<p>International Cooperation, Viet Nam Administration of Forestry, MARD</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Mr. Dang Quang Thuyen, Coordinator, Department of Science, Technology & International Cooperation, Viet Nam Administration of Forestry, MARD ✓ Mr. Nguyen Phu Tho, Officer, Department of Nature Conservation, Viet Nam Administration of Forestry, MARD ✓ 井上専門家、JICA 個別派遣専門家、MARD ✓ 江頭所員、JICA ベトナム事務所 ✓ Ms. Do Thi Thu Thuy, Coordinator, JICA Viet Nam
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長 ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画／援助戦略 ✓ 辻、評価分析
協議内容	<p>(長谷川団長からの団員紹介、あいさつ、パワーポイントを活用して、評価ミッションの目的やスケジュール、主たる評価ポイントなどのプレゼンテーションが行われた。引き続き、強化結果の概要に関して報告が行われた。)</p> <p><次長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトは省レベルの森林資源管理の能力向上はどうだったか？省の当局のプロジェクトのモニタリングはどうだったか？実績の政策への貢献はどうだったか？ <p><長谷川団長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトの成果が、ベトナムの保護地域管理システムのアップグレードに貢献することを期待している。BNBNP の CM の経験が、ハノイのワークショップで関係者に共有された。政策は現場レベルで実施されるべきで、BNBNP ではそれらが省レベルや郡、コミュニケーションレベルで実施されている。トップダウンのアプローチとボトムアップのアプローチのバランスを取るべき。課題はベトナム側で把握しているはずなので、プラットフォームを形成して、国際条約の窓口になっている MONRE などと連携する仕組みが必要。プロジェクトの現場レベルでの経験が、政策に反映されることが重要。JICA の継続支援が必要であれば、継続して JICA にアプローチして欲しい。 <p><次長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Co-Management や参加型管理、Collaborative Management などの用語が混在し、「CM」という用語が混乱しているので、政策レベルで統一する必要がある。 <p><江頭所員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ Special Use Forest には、あまり Co-Management の必要性を感じないが、公園外に出て、Buffer Zone の管理を実施しようとするのであれば、CM が必要。ミッションはさらに大きな協働のシステム・プラットフォームを提言している。 <p><次長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ コミュニティを巻き込み、財務的な持続性を担保するために、政策的なイニシア

	<p>タイプが必要。VDF などの保全や生計向上などの役割を与える完全パッケージの政策が進んでいる。プロジェクトが生み出した教訓、モデルを政策に反映させるために、事業終了後の JICA の継続的な支援が必要。</p> <p><江頭所員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ PFES の資金が VDF に入るような制度構築が必要。それにより、コミュニティの便益と義務が明確になり、グループアプローチが有効。資源は団体として保全管理しないと、コンフリクトや違反者を生む。 <p><次長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 関連者が多いが、だれがファシリテートするのが重要。公園事務所なのか、地方自治体なのか。 <p><江頭所員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ PPC の主導が必要で、彼らのリーダーシップが前提条件。 <p><保全局></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業終了後、生物多様性の保全をどうするのが重要で、CBET のどう支援するのか。 <p><長谷川団長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ CBET の概念は当地では新しく、始まったばかりで、開発途中。プロジェクトを通じてインフラストラクチャーが整備されたが、もっとコミュニティの参加が必要。さらに広報が必要。Buffer Zone と公園内の管理のためのプラットフォームが必要。公園外の保安林は WMB が管理権限を持つが、彼らがプロジェクトに十分関与したとは言えない。バラバラの管理から包括的なエコシステム管理に移行すべき。方向性は共有されている。JICA 個別専門家の支援が必要。 <p><平団員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 今後も話し合いを継続していくが、フォローアップが必要との認識。上位目標を達成するために、さらなる能力向上が必要。昨年度要請書が提出されたが、承認プロセスが進行中。今回の終了時評価と、MONRE が実施しているデータベースの中間評価が終了したので、その結果を受けて、昨年要請書の改訂が協議されている。プログラムアプローチを最終化して、関係者との協議の上、BNBNP のフォローアップを具体化してゆく。 ✓ (次長より感謝の意と閉会のあいさつ)
--	---

会議名	在ベトナム日本大使館への評価結果の報告
日時	2013 年 6 月 28 日 13:30~14:30
場所	在ベトナム日本大使館
先方	✓ 友寄二等書記官
我が方	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 長谷川基弘、団長 ✓ 田中 英二、公園管理行政 ✓ 平 知子、協力企画／援助戦略

	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 井上専門家、JICA 個別派遣専門家、MARD ✓ 江頭所員、JICA ベトナム事務所 ✓ 辻、評価分析
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ✓ (平団員より、現地調査報告書に則り、プロジェクトの背景や調査の経緯、調査の内容、評価結果概要に関して報告された) ✓ (田中団員から、所感の概要が説明された) <p><長谷川団長></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトが提案する協働管理を、国際的な潮流や概念、実践としてとらえることが重要。ベトナムでは始まったばかりの CM の概念を国家政策として取り込むための基礎を作ることに貢献した。次のステップとして、事業成果を活用すると良い。 <p><書記官></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 住民がどれほどメリットを感じたのかも、プラットフォームを機能化するために重要。プロジェクトでは、住民の便益に対してどのような貢献をしたのかを評価することが重要。 ✓ プログラムアプローチは良いアイデア。後継案件はプログラムとは別か。 <p><平団員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 後継案件がプログラムアプローチの主たるものとなる。 <p><書記官></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基金の運営に必要なコストを捻出するとはどういうことか。 <p><平団員></p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 基金を増やすために、管理運営費を持続的に確保するため。

